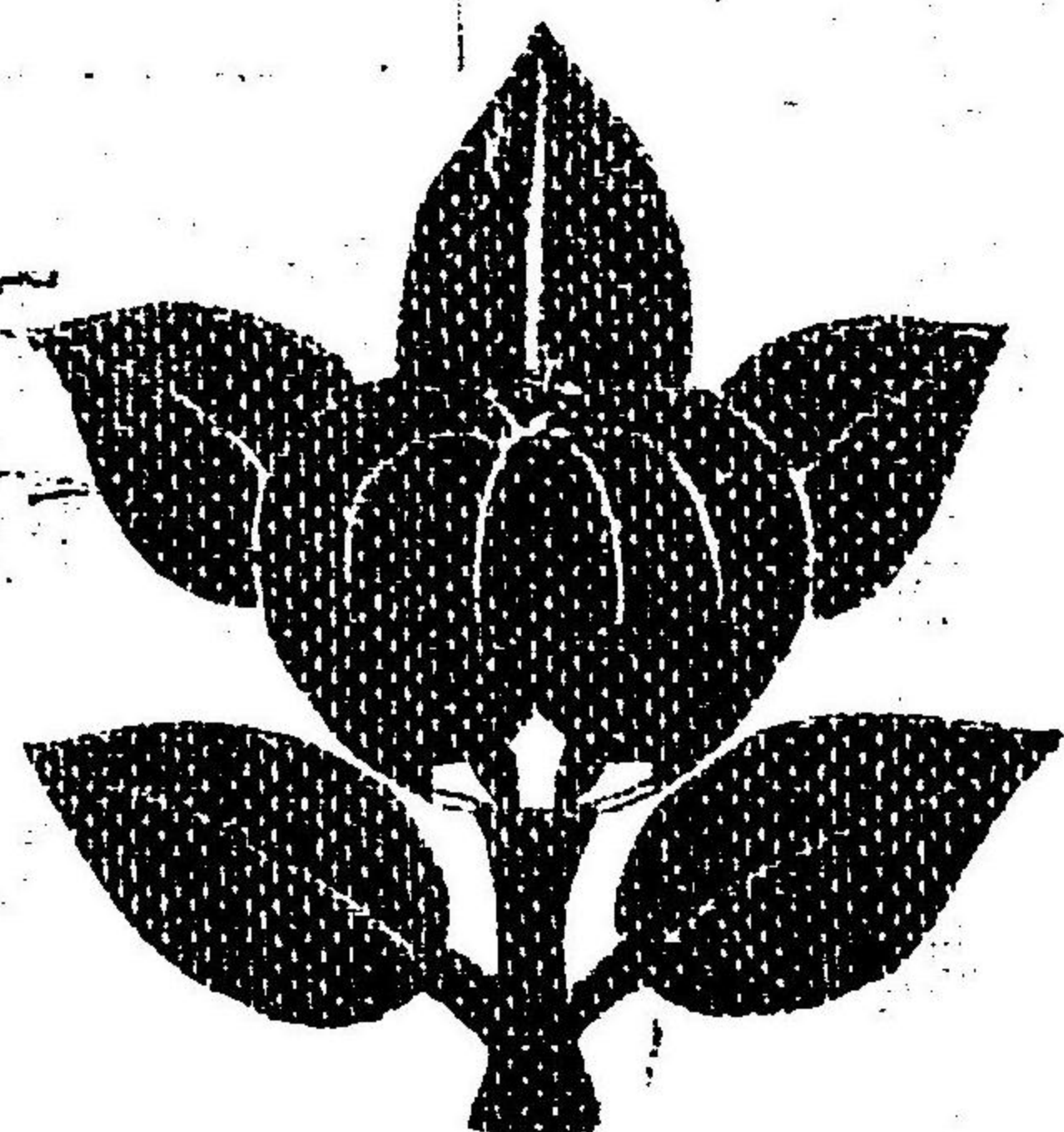
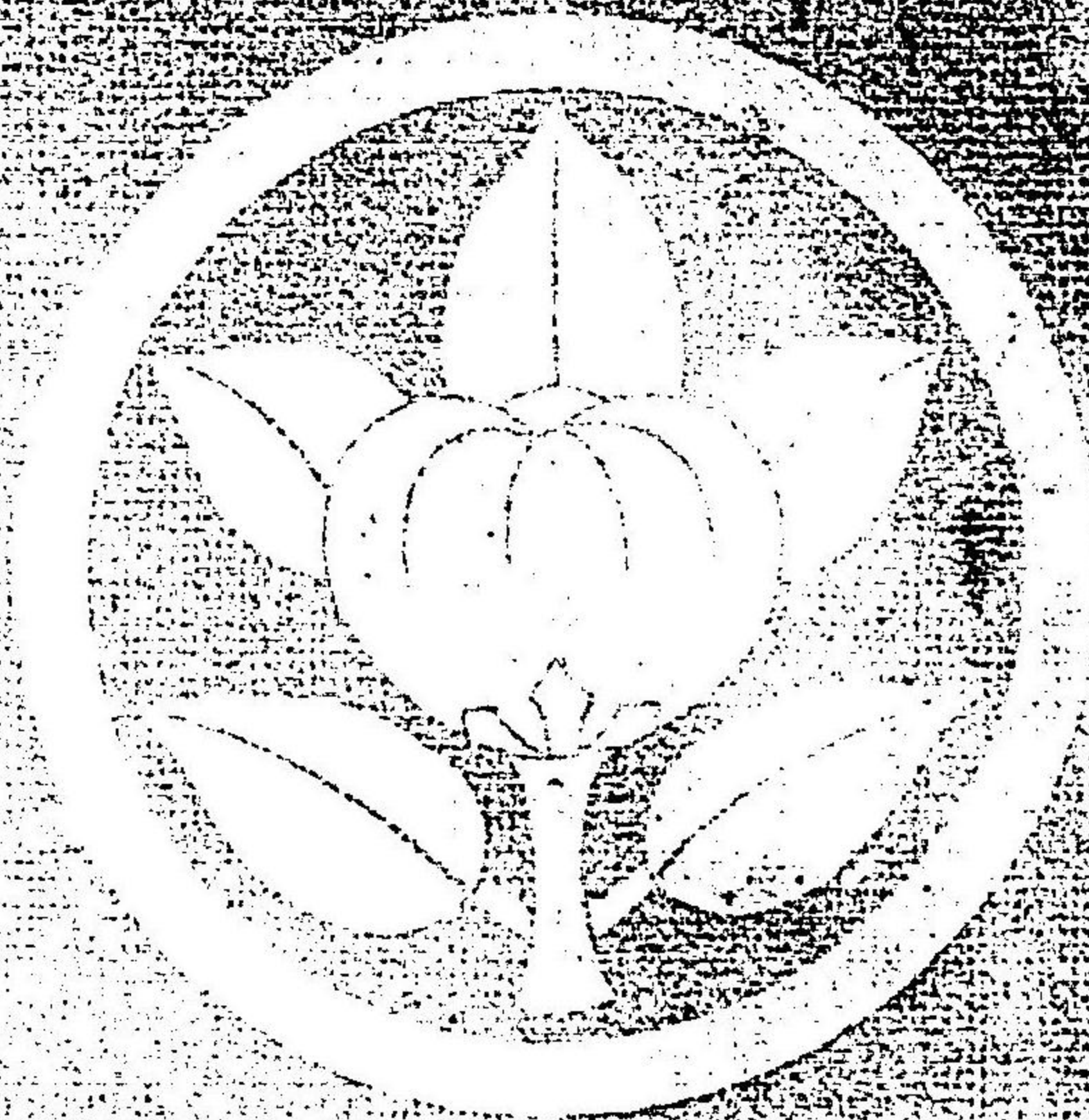


征露記念乃梨



特20  
662

陸軍歩兵中佐

正六位  
勲三等

嶋村耕作題字

陸軍歩兵少佐

從六位  
勲五等

立花順次校正



記念の葉

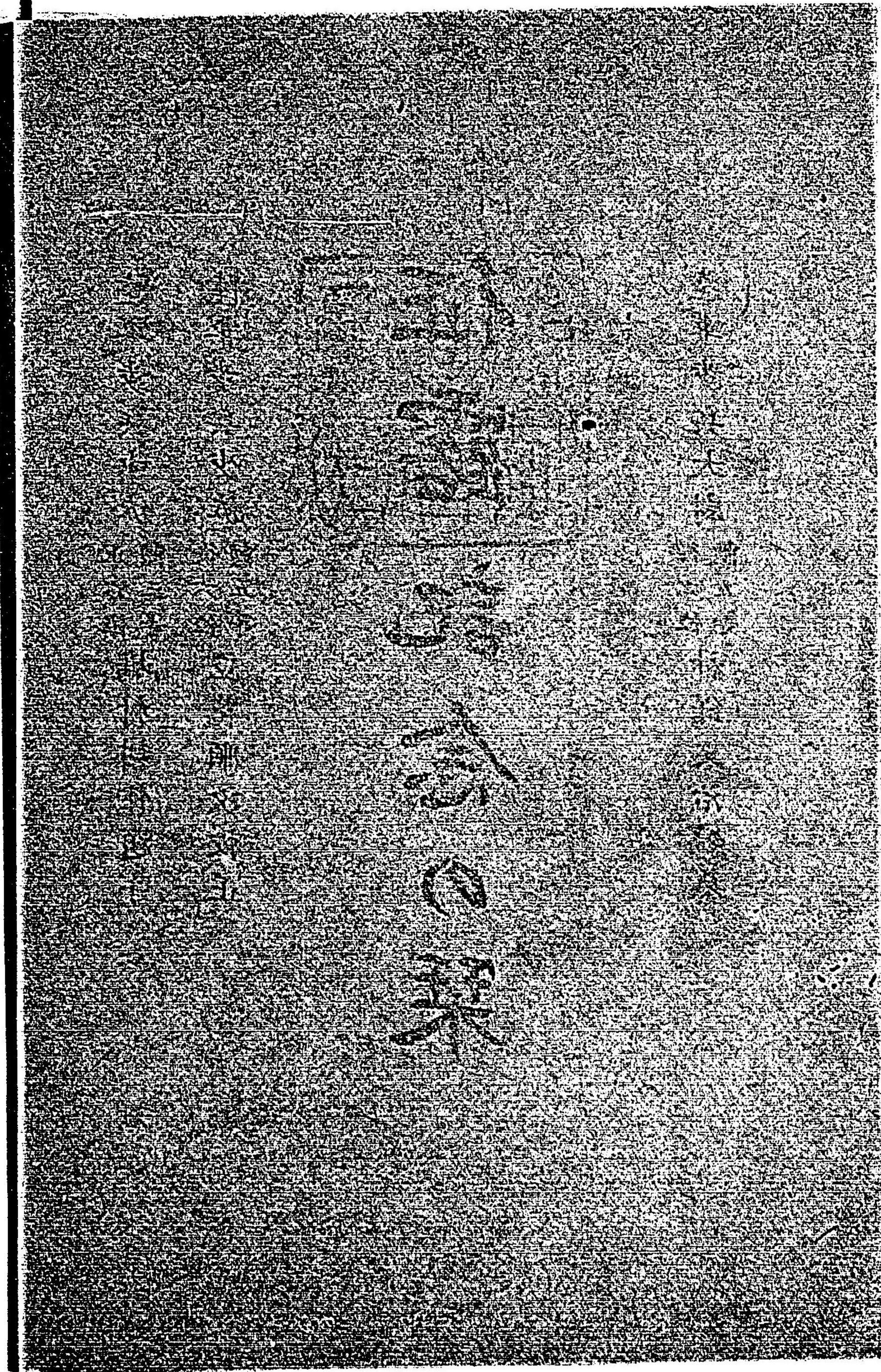
陸軍歩兵大尉

從六位  
勲五等

神保文治編纂

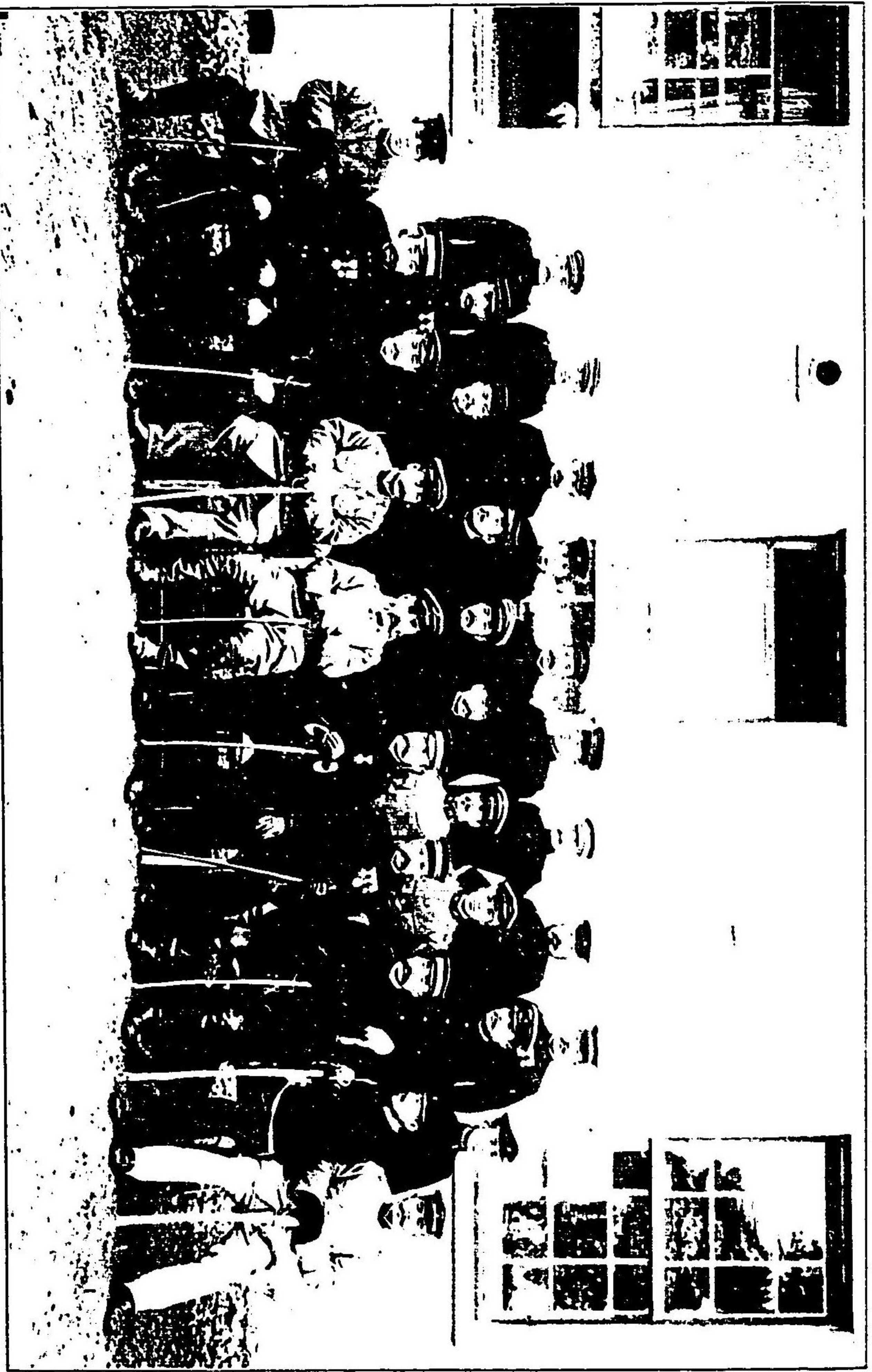
明治  
39 9 10  
内交

千  
魏  
禮  
家



明治三十八年十二月

西宮市教育委員会



東京 藤山堂印行

# 宣戰勅語

朕ハ東洋ノ平和ヲ以テ朕カ衷心ノ欣奉トスル所ナルカ故ニ  
 清韓ノ兩國ニ關スル時局ノ問題ニ付キ朕カ政府ヲシテ昨年  
 來露國ト交渉セシメタリ然ルニ露國政府ハ東洋ノ平和ヲ顧  
 念スルノ誠意ナキコトヲ確認セシムルノ已ムヲ得サルニ達  
 シタリ蓋シ清韓兩國領土ノ保全ハ我日本ノ獨立自衛ト密接  
 ノ關係ヲ有ス茲ニ於テ朕ハ朕カ政府ニ命シテ露國ト交渉ヲ  
 斷テ我獨立自衛ノ爲メニ自由ノ行動ヲ執ラシムルコトニ決  
 定セリ朕ハ卿等ノ忠誠勇武ニ信賴シ其目的ヲ達シ以テ帝國  
 ノ光榮ヲ全クセンコトヲ期ス

御名 御璽

明治三十七年二月十日

各大臣連署

數字ノ所屬中隊號(小)ノ小隊長

三	佐藤 特務曹長	三	柴田 少尉	聯隊旗手	村上 少尉
三	園口 中尉		佐々木 二等軍醫		菊池 二等曹
二	吉川 少尉	四	笹嶋 中尉	第三中隊長	長井 大尉
	新井 二等軍醫	一	淺黃 中尉	第二中隊長	神保 大尉
一	石川 少尉	四	會田 中尉	聯隊長	嶋村 中佐
一	角 少尉	大	副官 宮森 中尉	第一大隊長	立花 少佐
四	磯部 少尉	三	田中 中尉	第四中隊長	遠藤 大尉
二	高橋 少尉	二	正司 特務曹長	聯隊副官	大野 大尉
二	佐藤 特務曹長	四	金子 特務曹長	第二中隊長	猪股 中尉
					一 大 江 特務曹長

# 宣戰勅語

朕ハ東洋ノ平和ヲ以テ朕カ衷心ノ欣奉トスル所ナルカ故ニ  
 清韓ノ兩國ニ關スル時局ノ問題ニ付キ朕カ政府ヲシテ昨年  
 來露國ト交渉セシメタリ然ルニ露國政府ハ東洋ノ平和ヲ願  
 念スルノ誠意ナキコトヲ確認セシムルノ已ムヲ得サルニ達  
 シタリ蓋シ清韓兩國領土ノ保全ハ我日本ノ獨立自衛ト密接  
 ノ關係ヲ有ス玆ニ於テ朕ハ朕カ政府ニ命シテ露國ト交渉ヲ  
 斷テ我獨立自衛ノ爲メニ自由ノ行動ヲ執ラシムルコトニ決  
 定セリ朕ハ卿等ノ忠誠勇武ニ信賴シ其目的ヲ達シ以テ帝國  
 ノ光榮ヲ全クセンコトヲ期ス

御名御璽

明治三十七年二月十日

各大臣連署

數字ノ所屬中隊號(小)ノ小隊長

三	佐藤 特務曹長	小三	柴田 少尉
三	園口 中尉		佐々木 二等軍醫
二	吉川 少尉	小四	笹嶋 中尉
	新井 二等軍醫	小	淺黃 中尉
一	石川 少尉	小四	會田 中尉
一	角 少尉	大	宮森 中尉
小四	磯部 少尉	小三	田中 中尉
小二	高橋 少尉	小二	庄司 特務曹長
二	佐藤 特務曹長	四	金子 特務曹長

騎隊旗手	村上 少尉
	菊池 二等書計
第三中隊長	長井 大尉
第二中隊長	神保 大尉
騎隊長	嶋村 中佐
第一大隊長	立花 少佐
第四中隊長	遠藤 大尉
騎隊副官	大野 大尉
第二中隊長	猪股 中尉
	一 大江 特務曹長

## 平和勅語

朕カ親愛スル帝國陸海軍人ニ告ク

朕嚮ニ汝等ニ示スニ軍人ノ精神タル訓規五ヶ條ヲ以テシ明治二十七八年戰役終ルヤ深ク邦家ノ前途ヲ念ヒ更ニ汝等ニ訓示スル所アリ爾來十閱年朕カ陸海軍ハ世界ノ進運ニ伴ヒ經校大ニ其歩ヲ進メタリ不幸ニシテ客歲露國ト戰ヲ啓キシヨリ汝等協力奮勵各其任務ニ從ヒ籌畫宜キヲ得攻戰機ヲ制シ陸ニ海ニ曠古ノ大捷ヲ奏シ帝國ノ武威ヲ宇内ニ宣揚シ以テ朕カ望ニ副ヘリ

朕ハ汝等忠誠勇武ニ頼リ出師ノ目的ヲ達シ上ハ

祖宗ニ對シ下ハ億兆ニ望ミ天職ヲ盡スコトヲ得タルヲ懼ヒ深ク其戰ニ死シ病ニ斃レ又ハ癘癘ト爲リタル者ヲ悼ム



朕今露國ト和ヲ講ス惟フニ我軍ノ名譽ハ帝國ノ光榮ト共ニ  
更ニ汝等ノ責任ヲ重カラシム國運ノ隆昌亦汝等ノ努力ニ待  
ツコト大ナリ汝等夫レ能ク朕カ意ヲ体シ留リテ軍隊ニ在ル  
者ト散シテ郷閭ニ歸ル者トナ問ハス常ニ朕カ訓諭ヲ服膺シ  
テ朕カ股肱タルノ本分ヲ守リ益々勵精以テ報効ヲ期セヨ  
御名御璽

明治三十八年十月十六日

各大臣連署

### 自序

日露兩國兵ヲ交フルヤ皇師克ク百戰百勝ノ偉勳ヲ奏シ國威赫々  
萬邦ヲ睥睨シテ一躍東洋ノ盟主タルニ至レリ蓋シ征露ノ役ハ實  
ニ有史以來ノ大戰爭ニシテ又我國曠古ノ大壯圖ナリ余等生ヲ好  
期ニ享ケ此戰役ニ參加シタルハ以テ子孫ニ傳フルノ幸榮ナリ假  
ヒ北關軍ハ花ノ爛熳タルカ如キ壯快ナル戰鬪ヲ試ミルノ時機ニ  
遭遇セザルノ憾アリト雖モ韓山三百餘里ノ地ヲ略シ敵ヲ擊退シ  
テ圖們江畔ニ壓迫セリ此間實ニ二星霜ノ久シキ祁寒酷暑元ヨリ  
言フニ足ラス或ハ大雨洪水ノ災害ニ遇フテ糧食欠乏ノ辛酸ヲ嘗  
メ又ハ彈雨劍霜ヲ冒シ萬難ヲ排シテ天嶮ノ敵ヲ攻撃セシ等當時  
ヲ追回シテ轉タ壯烈ノ感ニ堪ヒザルモノアリ而シテ此難苦ヲ共  
ニシ相等シキ運命ニ行動進退シテ死生ヲ約セル吾人千三百有餘  
名其ノ交誼親愛ノ情如斯モノ吾人ヲ去テ將タ何處ニカ求メンヤ  
今ヤ國家戈ヲ收メテ世ハ平和ヲ謠ヒ諸氏又光榮ヲ擔フテ各其墳  
墓ニ起臥スルニ至レリ世事變轉何レノ時カ諸氏共ニ當時ヲ快談

朕今露國ト和ヲ講ス惟フニ我軍ノ名譽ハ帝國ノ光榮ト共ニ  
更ニ汝等ノ責任ヲ重カラシム國運ノ隆昌亦汝等ノ努力ニ待  
ツコト大ナリ汝等夫レ能ク朕カ意ヲ体シ留リテ軍隊ニ在ル  
者ト散シテ郷閭ニ歸ル者トヲ問ハス常ニ朕カ訓諭ヲ服膺シ  
テ朕カ股肱タルノ木分ヲ守リ益々勵精以テ報効ヲ期セヨ  
御名御璽

明治三十八年十月十六日

各大臣連署

### 自序

日露兩國兵ヲ交フルヤ皇師克ク百戰百勝ノ偉勳ヲ奏シ國威赫々  
萬邦ヲ睥睨シテ一躍東洋ノ盟主タルニ至レリ蓋シ征露ノ役ハ實  
ニ有史以來ノ大戰爭ニシテ又我國曠古ノ大壯圖ナリ余等生ヲ好  
期ニ享ケ此戰役ニ參加シタルハ以テ子孫ニ傳フルノ幸榮ナリ假  
ヒ北關軍ハ花ノ爛熳タルカ如キ壯快ナル戰鬪ヲ試ミルノ時機ニ  
遭遇セザルノ憾アリト雖モ韓山三百餘里ノ地ヲ略シ敵ヲ擊退シ  
テ圖們江畔ニ壓迫セリ此間實ニ二星霜ノ久シキ祁寒酷暑元ヨリ  
言フニ足ラス或ハ大雨洪水ノ災害ニ遇フテ糧食欠乏ノ辛酸ヲ嘗  
メ又ハ彈雨劍霜ヲ冒シ萬難ヲ排シテ天嶮ノ敵ヲ攻撃セシ等當時  
ヲ追回シテ轉タ壯烈ノ感ニ堪ヒザルモノアリ而シテ此難苦ヲ共  
ニシ相等シキ運命ニ行動進退シテ死生ヲ約セル吾人千三百有餘  
名其ノ交誼親愛ノ情如斯モノ吾人ヲ去テ將タ何處ニカ求メシヤ  
今ヤ國家戈ヲ收メテ世ハ平和ヲ謠ヒ諸氏又光榮ヲ擔フテ各其墳  
墓ニ起臥スルニ至レリ世事變轉何レノ時カ諸氏共ニ當時ヲ快談

スルヲ得ムヤ然リ而シテ人性ノ僻誠ニ悲シムベキモノアリ語ニ  
曰ク離ル、モノハ日ニ疎ク去ルモノハ日ニ遠シト若シ夫レ再念  
ニ供スルノ資ナクンハ星霜ノ久シキニ供フテ其感ヲ淺クシ其情  
ヲ薄クシ當年ノ勇士ハ自然其英氣ヲ衰ヒ當時ノ交誼ハ其情ヲ失  
ハンコトヲ恐ル立花大隊長茲ニ見ルアリ余ニ命スルニ本書ノ編  
纂ヲ以テス余元ヨリ不文其任ニ當ラズト雖トモ感ヲ同フシ情ヲ  
等フス敢ヘテ不文ヲ願ムル處ニアラズ出征當時ノ情況ヲ記シ合  
セテ大隊ノ名簿ヲ附シ茲ニ一冊ヲ編シテ諸氏ニ頒ツ所以ナリ燈  
下相親シムノ夜或ハ春雨睡リヲ催フスノ時一讀以テ回顧温情且  
ツ英氣維持ノ資ニ供セラルアラバ余ノ幸榮トスル所ナリ  
明治三十八年十二月二十五日

編者 神保斯文識ス

## 征露紀念之葉目次

嶋村聯隊長題字

立花大隊將校寫真銅版

宣戰勅語

平和勅語

自序

第一動員

第二山形出發

第三仙臺出發汽車輸送及途中歡送ノ景況

第四宇品港出帆並ニ航海ノ景況

第五京城風景

第六宮城拜觀

第七京元行軍

第八元山滯陣

第九元山咸興間行軍

第十咸興滯陣

- 第十一 咸興風景
- 第十二 咸興城津間行軍
- 第十三 全山及泉浦附近滯陣
- 第十四 泉浦鏡城間行軍
- 第十五 康德及南夕附近滯陣
- 第十六 統屬系圖解
- 第十七 輪城以北第一次北進行動及倉坪附近雨中滯陣
- 第十八 第二次北進行動
  - (1) 昌斗岭戰鬪 (2) 會寧占領戰 (小豊山雨中戰及鳳儀山雨中ノ露營)
- 第十九 鳳儀山附近滯陣及休戰下令
- 第二十 媾和成立及凱旋及復員下令並ニ解散
- 第二十一 北關ノ天候及衛生上ノ成績
- 第二十二 大隊名簿

## 征露紀念之葉

### 第一 動員下令

一度滿州撤兵問題ノ起ルヤ爾來帝國ノ外交ハ日増其多忙ヲ來タシテ戰雲東洋ヲ覆ヒ朝野ノ志士論客舉テ主戰ヲ唱ヒ主戰ハ帝國ノ輿論タリ國運ヲシテ九天ノ上ニ輝スカ將タ又那落ノ底ニ落スカノ一大英斷ハ最後ノ通謀ヲ發スルニ至リ萬民舉テ鶴首シ動員下令ノ今日カ明日カト待ツノ折柄明治三十七年二月五日午後八時壁歷一聲動員ノ令ハ下レリ各將校ハ急速ニ登營シテ萬歲ノ聲ハ營内ニ響キ各地方ハ令ヲ急達シ在郷將士ハ勇氣凜然トシテ之ヲ握リ又動員第一日ハ二月六日ト定メラレ其事務所ヲ步兵第三十二聯隊將校集會所ニ設ケラル翌七日市中ニ設營シ移轉セリ動員第三日以來應召將校下士卒ハ陸續トシテ集來シ軍馬ハ城南ノ原ニ嘶キ徵發ニ應シ昨日ニ變ル今日ノ山形市ハ又格別ノ景氣尙カモ勇壯ナル陽氣ニ充タサレタル別天地ヲ現出スルニ至レリ二月十二日動員完結シテ茲ニ後備歩兵第三十二聯隊第一大隊即チ立花大隊ハ編制セラレタリ

### 第二 山形出發

六月四日朝來陰霽定マリナク晴雨交々到ルノ折柄午前八時小白川西端ニ威風凜然トシテ整列セル武裝ノ一隊ハ即チ立花大隊ニシテ征露出陣ノ門出ナリ全隊ノ編制以來已ニ四ヶ月ヲ閱シ此間殆ント脾肉ノ感ニ堪ヒサリキ今此出陣ニ際シ其歡喜勇奮ノ情將士ノ面ニ現ハル、ヲ認ム行路ノ兩側ハ歡送人士ニ滿タサレ連續里餘ニ

及ヘリ萬歲聲裡ニ大隊ハ行進喇叭ニ揃ヒシ歩調ノ勇マシク整々堂々トシテ發進セリ午前九時三十分釋迎堂ニ至リ小憩ス折柄山德試德會及双輪ノ兩會員武德旗ヲ擁シテ歡送セラル蓋シ武運長久ヲ祈ルナリ是ヨリ中隊各個ノ行進ヲ合セラレ勇奮一躍笹谷峠ニ向フ午前十一時各隊ハ笹谷ノ絶頂ニ達ス回顧一瞰セハ郷土ノ風物ハ欣然トシテ我等ヲ歡送スルカ如ク吹キ來ル西風ハ尙ホ萬歲ノ餘聲ヲ送ルカ如シ午後五時三十分川崎ニ着シ宿營セリ翌五日午前六時各中隊相前後シテ出發シ午後四時豫定ノ如ク青葉城北側ニ達ス是ヨリ大隊行軍ニテ宮城樂隊ニ歡迎セラレツ、國分町ニ至リ宿營セリ是レヨリ先キ大隊ノ笹谷峠ヲ越ヒ已ニ宮城縣下ニ入ルヤ通過セル諸村落ハ舉ツテ小兒小女ニ至ルマテ赤誠ナル歡送萬歲ヲ絶叫シ鳴リモ斷タザル有様蓋シ全縣下ノ子弟ハ已ニ從軍シテ九連城ノ戰鬪ヲ經タル當時ナレバ彼等ノ感動肝ニ銘シテ切ナルノ結果ト知ラレタリ出發第一日ハ曇天ニシテ行軍ニ適良ナリシモ其第二日ハ早朝ヨリ炎天頗ル酷シク日ノ昇ニ從ヒ炎熱赫々トシテ瓦ヲ溶スカ如シ而シテ兩日ノ行程約十九里加フルニ登降頗ル峻嶮ナル坂路ナルモ一人ノ落伍者ヲ出サルハ蓋シ時節柄士氣ノ奮興以テ然ラシムル處ナラン

### 第三 仙臺出發汽車輸送及途中歡送ノ景况

仙臺ヨリ大隊ハ二回ニ輸送セラル、コト、ナリ其第一回ハ第一第二第四中隊ニシテ六日午前零時二十分第二回ハ大隊本部第三中隊及大小行李ニシテ全日午後三時三十分全地停車場ヲ發スベク令セラル第一回輸送諸隊ハ五日午後十時三十分停車場前ニ整列セリ折柄第八師團參謀左ノ訓示ヲ齎シテ傳達セラル

#### 訓示

#### 後備歩兵第三十二聯隊第一大隊

其隊今回新ニ韓國駐劄軍司令官ノ隸下ニ屬セラレ團下野戰隊ニ先ツテ將ニ出征ノ途ニ上ラントス本職ハ茲ニ多望ナル諸子ノ前途ヲ祝スルト同時ニ將來ニ關スル一ニノ希望ヲ添ヘントス

惟フニ後備隊本來ノ任務ハ守備ニ在リ其各部隊ハ廣大ナル地域ニ分割セラレ上長ノ監視以外ニ在テ服務セサルベカラサル場合少ナカラス隨テ隊長以下諸子ノ獨斷活用ヲ要スルコトモ亦蓋シ野戰隊ニ優ルモノアラン況ンヤ其隊ノ特ニ小行李彈藥ヲ附屬セラレタルニ依レハ其任務ハ單ニ其地點ノ守備ニ止マラス大ニ活動ノ時機アル可キハ察スルニ難カラス然リ而シテ諸子カ百有餘日ノ待命間ニ於ケル訓練ト既往ノ戰役ヨリ得タル實験トハ能ク此重大ナル任務ヲ遂行シテ餘力アル可キハ本職ノ信シテ疑ハサル所ナリト雖軍隊ノ成功ハ獨リ技術ノ熟練ニノミ待ツ能ハス嚴肅ナル軍紀風紀ノ維持ハ即チ完全ナル任務ノ遂行上唯一ノ要素タルコトヲ忘ルベカラス

韓國地方ハ今ヤ將ニ雨期ニ入ラントスル時ニ在リ夫ノ陰鬱ナル天候ハ衛生上ニ幾多ノ害毒ヲ加フ可ク險惡ナル道路ハ諸子ノ行動ニ大ナル障礙ヲ與フベシ故ニ諸子ハ敵國軍隊ト戰フ以前ニ於テ先ツ此ノ強敵ト戰フヲ要ス加フルニ戰爭ノ前途ハ甚タ遠遠ナリ更ニ幾回カ酷暑ヲ凌キ祁寒ヲ冒スノ覺悟ナカル可ラス而シテ此ノ萬艱ヲ排除シ帝國有終ノ効果ヲ收ムルハ一ニ諸子カ堅忍不拔ノ精神ト周到精密ナル注意トニ依ルアルノミ

終リニ臨ミ我帝國陸軍ノ先遣團隊ハ或ハ鴨綠江畔ニ或ハ金州半島ニ偉大ノ戰功ヲ收メ其驍名ヲ世界ニ博シ

ツ、アリ此ノ名譽アル他師團ト比肩シテ戰地ニ活動セントスル諸子ハ更ニ一層ノ光輝アル成果ヲ收メ以テ東  
北健兒ノ聲價ヲ發揚センコト是レ本職ノ切望シテ已マサル所ナリ

明治三十七年六月五日

第八師團長男爵 立見尙文

仙臺市民ノ歡送熱誠ニシテ其盛況ナルコト又一驚ヲ喫シタリキ今第一回輸送當時ノ景況ヲ記セントス諸隊ノ  
停車場前ニ整列スルヤ歡送人士ノ群集シ來ルモノ殆ント萬ヲ以テ數フベク各人悉ク提灯ヲ手ニシ紅燈燦爛所  
謂不夜ノ巷ヲ演出セリ征露軍歌ハ樂隊ニ和セラレ萬歲ノ歡聲ハ四方ニ絶叫セラレ天地爲メニ震動スルカ如シ  
諸隊ノ乗車終ルヤ歡送人士ハ悉ク「ブラットホーム」ニ群集シ來リテ發車ヲ待ツコト稍久フス此間諸團社諸  
官衙諸學校等ノ總代並ニ有志諸氏ノ交々名刺ヲ投シテ歡送ノ詞ヲ述フルモノ其數舉ケテ數フ可ラス内ニ同地  
愛國婦人會員ノ一群アリ定刻ニ至リ滿場ノ萬歲聲裡ニ汽車ハ運轉ヲ起シテ彼我距離ヲ隔タルニ至レリ仙臺出  
發以來廣嶋ニ至ルノ間各驛各所ニ盛大ナル歡送ハ催フサレ到ル處ニ萬歲ノ歡聲ハ絶叫セラレ熱誠ナル國民ノ  
歡送ハ以テ敵ヲ壓スルニ足ルベク出征諸隊ノ勇氣奮勵其幾倍ナルヲ知ルベシ輸送途上ニ於ケル歡送ノ景況其  
數項ヲ記スレハ左ノ如シ

郡山ハ給養停車場ニシテ食堂ニハ同地ノ郡長並ニ三老婦人アリ常ニ接待ノ任ニ當ル老婦人ハ其名ヲ安藤タ  
メ(年齢六十七)橋本ハツ(年齢六十三)高田キノ(年齢五十四)共ニ同地紳士ノ母妻ニシテ其饒饒タル壯  
者ヲ凌クカ如ク最モ快活慈愛ニ幹旋セラレ出征兵士ヲシテ殆ント慈母ニ接スルノ感アラシム

濱松又給養停車場ナリ食堂ノ一隅ニ高臺ヲ構設シ臺上一大樂器ヲ備フ數十ノ女學生奏樂ニ相和シ征露軍歌  
ヲ唱シテ出征兵士ヲ慰ス感極テ涙ヲ催フスモノアリ又同地紳士ノ令閨十數名常ニ幹旋ノ勞ヲ樂ル是レ皆愛國  
婦人會員ナリ待遇高尚優美慈愛懇篤蓋シ婦人トシテ國民後援ノ義務ヲ盡セリト云フベシ

京都ニ於ケル歡送ノ盛大ナル又格別ニシテ歡送人士ノ群集場内殆ント立錫ノ地ナキカ如ク京都華族會總代  
ヲ始メトシ送詞ヲ送ラル、モノ甚タ多ク且ツ寄贈品車中ニ堆ヲ爲スニ至レリ又婦人會一群ノ女隊ハ征露軍歌  
ヲ連唱セリ其音聲嘹亮トシテ轉々陶然タルノ感アリキ

大坂神戸等ニ於ケル歡送ノ盛大ナル殆ント京都ニ等シク婦人會員ハ例ニ依リテ盛ニ征露軍歌ヲ連唱セラレ  
タリ特ニ神戸ニ於テ花籠ヲ携ヒタル愛ラシキ一少女アリ數多ノ美花ヲ執テ各車ニ配贈セリ稿軍ノ情蓋シ感ス  
ルニ餘リアリト云フベシ

姫路停車場ニハ同地ノ將校婦人會員アリ又奏樂唱歌接待頗ル懇篤ナリキ且數十ノ女學生ハ下士以下ノ休憩  
所ニ散在奔走シテ釧ノ附ケ換ヒ或ハ軍衣ノ破綻ヲ繕フ等幹旋甚タ力メタルヲ認ム

要スルニ歡送ノ盛大ハ國民敵愾心ノ高度ナルヲ知ル得ヘク況ンヤ其熱誠懇切ナルニ於テヲヤ十年ノ昔日清  
役ノ當時ニ比シ國民ノ心情幾倍ノ誠意熱切ナルヲ覺ユ宜ナルカナ我ハ正義ト雖トモ國小ナリ彼レハ暴虐ト雖  
トモ大ナリ小ヲ以テ大ヲ懲ラスノ天職ヲ擔フ國民大ニ決スル處アリテ然ルヲ信ス殊ニ愛國婦人會員ノ如キ閨  
嬪孌弱ノ身ヲ以テ開戰以降日夜瀕繁ナル輸送ニモ敢テ勞トセス到ル處ニ幹旋セラレ高尚優美且ツハ懇篤慈愛  
ノ情ヲ以テ出征軍人ヲ稿フ帝國婦人ノ本分以テ盡セリト云フベシ是レ實ニ十年前ニ比シ一大進歩ナルヲ信ス

蓋シ米人マツキ一嬢ノ渡來預リテカアランカ歡送ノ優美懇篤既ニ記スルカ如ク隨テ出征軍人ノ態度自然慎重諸事凡テ靜肅軍紀風紀嚴然トシテ赤心報國ノ志氣其相貌ニ現ハルノ觀アリキ第一回輸送諸隊ハ九日午前九時第二回ハ同日午後一時廣嶋ニ着シ中嶋本町附近ニ宿營セリ當時廣嶋ハ諸隊ノ集中地ニシテ一方ヨリ出帆スレハ又一方ヨリ來着シ滞在スルモノ其數當ニ數萬日々其精銳ヲ練ル而シテ軍需諸品ハ棟ヲ並ベシ幾百ノ倉庫ニ充滿シテ其出納殆ント晝夜ヲ分タス嗚呼盛ナルカナ帝國ノ事業嘻フベシ帝國ノ隆武！大隊ハ九月十五日出帆スベキ内命ニ接シタリシモ偶々常陸土佐兩船遭難ニ會ス爲メニ其出帆ヲ見合セタリ次キニ同月二十八日出帆ノ豫定ハ又金剛丸ノ遭難ニ會シ再ヒ出帆ヲ止メ滞在途ニ四十二日ニ及ベリ

#### 第四 宇品港出帆並ニ航海ノ景況

滞在茲ニ四十二日日毎ノ行軍演習ニ附近數里以内ヲ跋渉シレルハ如何ニ廣キ廣嶋トテ已ニ見盡シテ別ニ雙眸ヲ喜ハシムルモノナク加フルニ後着諸隊續々出帆シテ恰モ置キ去リノ境遇ニ陥リ何時出帆スベキヤノ見込モナク又々脾肉ノ歎ノミナラス張リ詰メシ士氣モ弛緩セスヤト憂慮ニ堪ヘサル折柄七月十七日突然出帆ノ命令ハ下レリ先ツ仁川ニ上陸シ陸路元山ニ到ル可シト蓋シ浦鹽落艦出沒以來日本海上危險ノ爲メ斯クモ變シタル所以ナリ大隊ハ二回ニ輸送セラルベク其第一回ハ本部及第一第二中隊第二回ハ第三第四中隊ニシテ同シク北韓派遣ノ第四師團獨立野砲中隊ト共ニ旅順丸ニ乘船ト決定セラル茲ニ第一回ノ輸送ニ付キ航海ノ景況ヲ記スベシ勇奮喜悅ノ情ニ滿タサレ七月二十日午前七時廣嶋ヲ發シタル第一回輸送部隊ハ午前八時宇品港ニ着セリ

折柄碇泊ノ運送船十六隻貨物ノ搭載兵員ノ乘船等短艇ノ往復恰モ織ルカ如シ蓋シ第九師團ノ乘船ナリキ大隊ハ午前七時ヨリ馬匹ヲ搭載シ全九時三十分人員ヲ第十七號波止場ヨリ乘船ヲ始メ約一時二十分ニシテ終レリ船ハ其名モ氣味好キ勝山丸トテ大坂ノ豪商右近權左衛門ノ所有ニシテ千七百七十噸ナリ

午后零時三十分汽笛ハ遠ク南嶋北岳ニ響キ船ハ轟々トシテ錨ヲ拔キ推進器ハ徐々トシテ回轉ヲ始メタリ當時舳艫相啣ミ前後シテ出帆セルモノ六隻皆船旗ヲ掲ケテ海上ノ安全ヲ祈ル壯觀蓋シ見ルベキノアリキ航路ハ羊腸トシテ群嶋ノ間ヲ縫ヒ翠松滴ルカ如キ諸嶋ハ船ヲ擁シ參差トシテ我レヲ迎ヒ我レヲ送り漁帆ハ點々トシテ水禽ノ游泳スルニ似タリ是レ恰モ園地ヲ徜徉スルカ如シ遠ク望メハ淡雲中國四國ノ連峰ニ垂レテ雲カ山カ漠々タリ風光絶佳如斯コト宇品以西藝ノ尾防ノ頭約三十里夕陽西海ニ没シ暮雲東天ニ起ルノ頂船ハ浸々トシテ周防灘ヲ進行ス防長ノ山岳ハ右舷ニ四國九州ノ峰巒ハ左舷ニ遠ク晚霞ノ裡ニ籠メラレ漠々然トシテ流墨ノ畫ケルカ如シ少時ニシテ夜暗迫リ來リ四望暗黒唯漁火ノ閃タルヲ見ルノミ悽氣人ヲ襲フテ身神自ラ寂然タルヲ覺ユ午後十二時諸船ハ共ニ馬關海峽ニ接近シテ假泊セリ蓋シ開戰以來夜間海峽ノ通過ヲ禁シラレタルヲ以テナリ航海ノ注意夫レ周到ナリト云フ可シ

二十一日午前五時假泊ノ諸船悠々相前後シテ海峽ニ入ル右ハ馬關ニシテ左ハ門司共ニ人家稠密延々海岸ニ沿フテ里餘ニ亘ル同港ハ西海本土ノ咽喉ニシテ帝國ノ要港タリ其繁盛宜ナル哉馬關ノ中央ニ位置シ山ヲ負ヒ海ニ臨ムノ勝地青松綠樹ノ間巍然トシテ聳ユルノ大屨ハ一見彼ノ春帆樓ナルヲ知ル思ヒ起ス十年ノ昔日清戰役ノ終ラントスルニ際シ彼我全權ノ談判ハ此樓ニ開カレタリキ當時李爺ノ老狸陰ニ三國同盟ノ干涉ヲ後援ト

シ徒ニ一時ヲ彌縫シテ其大計ヲ誤リ却テ  
 及ヒ生民ヲシテ塗炭ノ苦ニ陥ラシメ且ツ東洋ノ平和ヲ攪亂シ茲ニ義ヲ重シ友情ニ厚キ帝國ヲシテ窮民救濟平  
 和克復ノ大軍ヲ起サシムルニ至レリ李爺タルモノ地下ニ何ノ面目カアル感慨未タ終ラサルニ早ヤ船ハ玄海ニ  
 入リヌ流石ハ名ニ負フ玄海ノ灘天雲ナク氣動カサルニ波浪頗ル高ク船体稍々動搖セリ此天候ニシテ尙ホ斯ノ  
 如シ本邦水路ノ難實ニ玄海ヲ以テ最モトナス又宜ナル哉滄溟萬里天ヲ浮ヘテ雲ナク洋氣人ニ迫リテ悽然タル  
 ヲ覺ユ魂ハ忽ニシテ弘安ノ昔ニ飛ブ元冠十餘萬巨艦艦相衝シ四百餘州ヲ擧ケ而シテ來リ神州ヲ侵ス天  
 ハ怒リ地ハ激シ颶風起リ萬雷吼ユ我兵之ニ乘シテ奮戰激闘終ニ元ノ大軍ヲ塵ニス嗚呼人ハ死シ星ハ遷ルト雖  
 千歲ノ芳名ハ洋々海ト共ニ盡キス英氣磅礴トシテ深ク邦家ノ光彩ヲ副ユ神州ノ靈氣誰カ之ヲ怪マサランヤ而  
 シテ思想ハ又現時ニ移リ常陸佐渡兩船擊沈ノ當時ニ及ベリ兩船ノ乘員合セテ千餘徒ラニ海底ノ藻屑ト消ヒシ  
 以來未タ數句ニ出テス生靈波上ニ徘徊シテ其行ク所ニ迷フ可シ悲風慘憺悽又嗚呼天ハ古ニ幸ヲ降シ現時ニ  
 不幸ヲ與フルノ理ナカルベク古人ハ能ニシテ今人ハ不能ナルニアラス而シテ古ハ空前ノ偉勳ヲ奏シ今ハ未曾  
 有ノ失敗ヲ招ク又何等ノ失態否ナ出來事ゾヤ浦鹽敗殘ノ露艦ヲシテ名ヲ爲サシメタルコト夫レ幾度カ同シク  
 是レ玄海ノ灘其成敗得失轉々今昔ノ感ニ堪ヘサルナリ間斷ナキ汽船ノ進行ハ感慨壯烈ノ武夫ヲ驅リテ西走セ  
 リ午前十時始メテ西南風起リ時間ヲ追フテ漸次其強度ヲ増シ將ニ正午ナラントスル頃風位益々強ク波益々高  
 シ而シテ「バラメートル」ハ將來ノ天候益々不穩ヲ票示セリ茲ニ於テカ船長意ヲ決シテ壹岐嶋郷ノ浦ニ避難  
 碇泊セリ時ニ午後三時ナリキ同港ハ壹岐西南端ニシテ港内廣サ數船ヲ容ル、ニ過キサレトモ深ク陸地ニ灣入  
 シ碇泊頗ル安全ナリ

### シ碇泊頗ル安全ナリ

翌二十二日波平ニ風漸ク止ムヲ以テ午前八時出帆セリ暫クニシテ回顧スレハ壹岐ノ山色ハ時間ノ經過ニ供フ  
 テ漸々淡霞ノ裡ニ没失シ前視後望右顧左眄遂ニ一點ノ陸地ヲ認メズ水天鬚鬚只是レ青キヲ見ルノミ折柄風波  
 再ヒ起リ船体ノ動搖前日ニ倍ス一同船室ニ潜伏シテ又外界ヲ見ルノ勇ナシ動搖如斯コト殆ント一晝夜馬匹一  
 頭爲メニ斃レ乘員皆船暈ニ苦シム船長茲ニ於テ再ヒ全羅道西南海上珍嶋ニ避難セリ

七月二十四日午前十一時風止ミ波全ク治マリシカハ錨ヲ拔テ進行ヲ始メタリ航路ハ全羅忠清二道ノ西岸ナリ  
 幾多ノ群嶋船ヲ擁シテ羅列セリ全嶋兀トシテ殆ント草木ヲ見スト驟トモ其形体千差萬別奇巖屹然トシテ聳ユ  
 ルアリ怪石水ニ隔ンテ蟠ルアリ聳ユルモノハ虎ノ如ク風雲ニ嘯クカト疑ハレ蟠ルモノアリ龍ノ如ク怒濤嘯ム  
 カト怪マル瞰視睥睨シテ我等ヲ送迎スルカ如ク觀ルモノヲシテ轉々悚然タルノ感アラシム言者アリ百魔襲來  
 ノ体夫レ如スカト評亦盡セリト云フベシ此夜明月天ニ沖シテ銀波洋々涼風徐ロニ來リテ炎熱全ク洗フカ如シ  
 一同甲板ニ出テ明月ヲ賞メ折柄吹笛スルモノアリ律音囀曉餘音嬌々トシテ海神ヲ泣カシムルノ感アリキ

翌二十五日午前九時船ハ悠々トシテ仁川ニ入港ス外國軍艦五隻及商船數艘アリ沈沒露艦「ワリヤーク」コレ  
 「ツ」ハ其烟突ヲ水上ニ現ハスノミ日露戰役劈頭第一ノ砲火ハ實ニ此港ニ開カレ勝報一度傳フルヤ國民ノ意  
 氣衝天ノ如ク帝國ノ威武已ニ敵國ヲ壓スルノ感アリ爾來陸海連戰連勝ヲ得タルハ主トシテ此一舉ニ基クヲ知  
 ル當時ノ苦心夫レ幾何カ瓜生艦隊ノ功績蓋シ偉大ナリト云フベシ仁川市街ハ灣頭海岸ニ沿ヒ且ツハ丘上ヲ越  
 ヒテ相櫛比シ幾多ノ帆船ハ小月尾岬ヲ圍繞シテ帆檣林ノ如ク韓國第一ノ要港タル觀ヲ呈セリ午後一時上陸仁



川居留地ニ舍營ス翌二十六日午前八時三十分京仁鐵道ニ依リテ京城ニ輸送セラル過クル所ノ村落家屋ノ倭少粗惡ナルハ又一驚ヲ喫スベク白衣結髮ノ韓人長キ煙管ヲ携ヘ呆然トシテ徘徊スル有様殆ント名狀ノ言ヲ有セス只亡國ノ民ヲ憐ムノミ午前十時京城ニ着シ南大門停車場ニ下車ス軍參謀某氏來リ迎ヒテ曰ク貴大隊ハ對韓政略上暫ク當地ニ滞在ヲ命セラル其元山行ハ秘シテ他言スベカラズト蓋シ對韓政略トハ韓國荒蕪借地問題ニ關ス同問題ハ陰ニ某國公使ノ煽動ニ依リ韓政府ノ排斥スル處トナリ且ツ反對黨數千相叫合シテ紛々巷議スルアリ或ハ激ヲ八道ニ飛シテ同志ヲ募ル等頗ル不穩ノ情アルヲ以テ特ニ步砲兩兵ヲ召致シタルノ体ヲ裝ヒ示威運動ヲ以テ談判ノ好果ヲ收メントノ外交政略ナルモノ、如シ大隊ハ隊伍整々南大門ヲ經テ日本居留地ニ至リ宿營セリ第二回輸送諸隊ハ同月廿四日宇品港ヲ出帆シ海上頗ル平穩同月二十八日一同無事仁川ニ上陸シテ翌二十九日京城ニ着シ同シク居留地ニ宿營セリ

## 第五 京城ノ風景

京城ハ南北兩山ノ中間ニアリテ其南ナルヲ南山ト云ヒ北ナルヲ北岳ト稱ス圍壁ハ兩山ノ頂ヲ越ヒテ東西兩谷ニ跨リ周圍約四里高サ二丈餘頗ル堅固ノ石疊ナリ八門ヲ開テ八方ニ通ス樓門高ク聳ヒテ城外數里ヲ一望ス可シ民屋ハ城内南部ニ稠密シ宮城及諸官衙ハ概ネ其北部ニアリ日本居留地ハ南山ノ麓ニ位置シテ約戶數八百家屋ノ構造市街ノ体裁全ク内地ト異ナルナク街區店頭ノ盛況頗ル見ルベキモノアリ

韓人市街ノ家屋ハ皆茸クニ瓦ヲ以テス故ニ之ヲ遠望セバ櫛々相櫛比シテ外觀甚タ美ナルカ如シト雖モ近ク之レニ接セハ家屋ノ倭少粗惡ニシテ市街ノ不潔ナルハ所謂韓國ノ特色ナルベク糞尿塵埃ハ路傍ニ堆テ爲シ其臭鼻ヲ突クカ如シ折柄夏期ノ候トテ店員ノ食品ニ蝸集セル蠅軍ハ其形体ヲ覆フテ黒色ヲ呈セルモ敢テ異トサルカ如キ其狀態殆ト言語ニ絶セルモノアリ一國ノ首府ニシテ尙ホ如斯鷄林八道ハ全ク是レ不潔ノ一塊土トセ云フモ敢テ過言ニアラサル可シ嗚呼憐ム可シ不潔ニ埋伏シ亡國ノ末路ニ瀕セル一千五百萬ノ韓民ヨ之レヲ救濟シテ清淨文明ノ幸福ヲ與フルノ天職ヲ擔フモノハ夫レ誰カ

街路ノ主ナルモノハ東西南北ノ四門ニ通スル二道ニシテ其巾約四十米突電氣鐵道ヲ通セリ二大路相交又シテ十字形ヲ爲ス處之レヲ鐘路街ト云フ城内最モ繁盛ノ場所ニシテ商賈群集百貨常ニ殷富ナリ十字路ノ東南角ニ一大鐘樓アリ鐘ノ大サ徑八尺ニ餘レリ蓋シ五百有餘年前李氏宗祖ノ鑄造セルモノニシテ四民集合ノ合圖ニ用ヒタリト云フ鐘路街ノ名由テ來ル所以ナリ

倭城臺ハ居留地ノ南方高地ニアリ後ニ老松ノ翠色將ニ滴ラントスル南山ヲ負ヒ前ハ城内ノ萬街千巷ヲ一睥ニ集メ延ヒテ岩石ノ疊重セル北岳ヲ越ヒ巍峨タル北漢山城ヲ遠望ス臺ノ眺望ニ富メル如斯巴城第一ノ勝地ナリ因ニ記ス北漢山城ハ國王ノ避難所ニシテ峨々タル山頂石造ハ圍壁アリ周圍約六千米突内ニ十二寺院及行宮アリト云フ又和城臺ハ昔豊公征韓ノ際鬼將軍清正ノ築城セル跡ニシテ南山ハ半腹臺狀ヲ爲セルモノ高サ數十米突廣サ數町歩アリ宮城ヲ下瞰シテ又巴城第一ノ要害ナリ日本公使館ハ全臺ノ北方ニ隣シ谷地ヲ隔ツルノ高地ニ在リ地區狹少ニシテ建築又宏壯ナラス目下倭城臺ニ改築スベク設計中ナリト云フ

京城駐劄軍新樂兵營ハ公使館ノ北方數百米突ノ地ニ在リ構造練瓦ニシテ二層樓ナリ戰時人員ノ歩兵一大隊

ヲ收容スルニ足ル附屬舎凡テ全備セリ宏壯美觀韓人ヲシテ一驚ヲ喫セシメタリト云フ其後方小丘阜ヲ越ヒテ衛成病院アリ建築未タ完成セス當時盛ニ工事ヲ急キツ、アリキ從來ノ病院ハ其北方ニ隣接セリ元韓國貴人ノ別館ヲ應用シタルモノニシテ附近ノ風光稍々觀ルベキモノアリ其後園ハ白山ノ支派ニ連リ松林ハ鬱蒼トシテ溪谷ヲ蔽ヒ谷間ノ細流ハ岩石ヲ迂曲シテ流レリ溪流ニ架シテ一字アリ枕流亭ト云フ稍々朽敗シタリト雖古色蒼然却テ趣味アリ就テ一憩セリ涼風自然ニ生シテ暑氣何レニカ去リ心氣爽快殆ト蘇生ノ感アリ是又巴城ノ勝地殊ニ納涼ニ適セルヲ以テ名アリ

## 第六 宮城拜觀

二十七日宮城拜觀ノ榮ヲ得タリ抑モ韓庭宮城ニ三アリ其一慶雲宮ハ城内東北隅ノ高地ニアリ之レヲ舊々王宮ト云フ五百年前李祖八道ヲ平定シテ霸業ヲ開クノ際構築セルモノニシテ古色頗ル蒼然タリト云フ其二慶福宮ハ一ニ舊王宮ト云フ北岳ノ山麓ニアリ距今四十餘年前大院君攝政當時ノ造營ニシテ其構造尤モ壯觀ヲ極メタリ爾來韓皇ノ居城タリシモ往年皇妃殺害ノ變以來幽氣宮ヲ閉スト稱シテ可惜途ニ空殿トナレリ其三昌寧宮ハ一ニ新王宮ト云フ晩年ノ造營ニシテ城ノ西北隅ニ在リ位置甚市街ニ接近シ構造又壯觀ナラス正門前商賈常ニ雜沓スルカ如キハ確カニ尊嚴ヲ損スルノ感アリ

此日拜觀ヲ許可セラレタルハ舊王城即チ慶福宮ニシテ其正門ハ宏大壯觀ナル二層樓門ナリキ門前ハ巾數十米突ノ大路ニシテ其兩側ハ史ノ所謂兵部八省トモ言フベキカ本省各部ノ官衙及警務憲兵ノ二部並ニ親衛第一大隊ノ兵營等櫛ヲ連ラネ門ヲ並ヘテ設置セラレタルハ本朝平安當時ノ夫レヲ連想セラレテ座ロニ史的懷舊ノ情ヲ起セリ全宮ノ圍壁ハ長方形ニシテ其四隅ニ樓郭アリ壁ノ高サ約一丈五尺厚サ數尺アリ方尺ノ切石ヲ以テ疊重シ構造甚タ堅固ナリ壁ニ依リテ迂回シ其東門ニ至ル是レヲ建春門ト云フ皇居巡檢數名此處ニ守衛セリ示スニ拜觀允許札ヲ以テス警視之ヲ受ケ走リテ其上官ニ告ク一人ノ總巡來リ迎ヒテ門内ニ導ケリ門内又幾重カノ墻壁アリ各宮各殿依テ以テ區別セラル、モノ、如シ幾多ノ宮殿ハ横列或ハ縱重棟ヲ並ベテ簷牙高ク喙ムモノ其數幾何カ今單ニ拜觀セル經路ニ依リテ其主ナル宮殿樓郭ヲ記センノミ德陽攝政ノ二門ヲ通過シテ是和殿ニ入リ崇陽門ヲ經テ修政殿ニ入ル殿ハ外臣ニ拜謁ヲ賜フ處ナリト云フ尙ホ幾多ノ小門小殿ヲ過キ慶會樓ニ出ツ樓ハ一大運池中ニ聳立セリ通スルニ二大石橋ヲ以テス樓ノ長邊二十餘間短邊十餘間アリ樓床ノ高サ約三間數十ノ大石柱ヲ植立シテ樓脚トナス石柱ハ凡テ花崗石ニシテ方形ノ一邊三尺餘アリ工事ノ巧妙ニシテ且ツ宏壯ナルコト將ニ活目シテ觀ルノ價值アルヲ認ム樓上ハ幅二間餘ノ廻廊アリ一段床ヲ高メテ一大室ヲ成セリ廣サ數百人ヲ容ルニ足ルベシ是レ百官ヲ會シテ祝宴ヲ開ク處ナリト云フ折柄池中ノ蓮花紅白妍ヲ爭フテ將ニ滿開一同欄ニ倚リテ休憩シ賞賛スルコト稍久フス聞ク南山陷落ニ際シ日韓合同ノ祝捷會ヲ此樓上ニ開カレタリト又恰好ノ會場ナルカナ再ヒ歩ヲ轉シテ右折左曲幾多ノ門扉ヲ排シテ觀政殿ニ入ル殿ハ宮中最モ宏壯偉大ニシテ又頗ル美觀ヲ極メタリ正面ノ臺上玉座ヲ設ク階下百官ヲ會シテ政事ヲ議スル處ナリト云フ尙ホ歩ヲ進メ畏政門ヲ過キテ畏政殿ニ入リ合原度泰二殿ヲ過テ康寧殿ニ入ル殿ハ陛下ノ御住所ニシテ結構敢テ宏壯ナラスト雖トモ裝飾頗ル美觀アリ障扉固ク閉シテ窺フヲ得ス殿側小庭アリ無心ノ洋花數株將ニ滿開其紅燃ユルカ如シ

ト雖トモ今之レニ愛賞ヲ賜ハルノ君居マサス感茲ニ至ツテ轉メ惘然タルヲ覺ユ殿ヲ辭シ歩ヲ移スコト若干ニシテ内園ニ出ツ一大園池アリ池中嶋ヲ成シテ嶋中六角二層ノ樓亭アリ香遠亭ト云フ園池ヲ隔テ、後宮アリ乾政殿ト稱ス皇妃閔后ノ居所ニシテ皇妃ノ殺害セラレタル實ニ此宮殿ナリト云フ尙ホ左折右曲進ムコト暫クニシテ北岳門アリ巡檢警衛セルモノ數名扉ヲ排シテ門外ニ出ツレハ所謂後苑ニシテ翠色滴ルカ如キ松林ハ廣濶ナル苑庭ヲ圍繞シ苑ノ一隅ニ一樓一閣アリ仰視スレハ北岳ノ峰屹然トシテ高ク聳ヒ奇岩怪石ノ疊重シテ虎ノ嘯クカ如ク龍ノ蟠ルカ如シ巖上ノ老松ハ翠枝ヲ垂レテ之ヲ裝飾セリ其景ノ絶佳ナルコト殆ント筆紙ノ盡ス處ニアラサルナリ春陽靜閑ニシテ芳草花ヲ開クノ日宮人官女相供ヒ手ヲ携ヒテ春陽ノ歌ヲ唱シ遊戯スル處ナリト云フ王城ノ拜觀茲ニ至テ盡キ一同問道ニ依リ歸途ニ就ク過クル處園壁内ノ一隅ニシテ數多ノ家屋棟ヲ並ラブルアリ皆之レ宮人ノ住宅ナリシト云フ暫クニシテ再ヒ建春門ニ至レリ回顧稍々久フシ嘆シテ曰ク一國ノ全カヲ盡シ一朝ノ財寶ヲ傾ケテ造營セル壯麗美觀ノ宮殿ナラスヤ愚昧ナル韓吏妄リニ臆説ヲ信シ遂ニ廢宮タラシメ前殿後宮半ハ朽敗シ前庭後苑草茫茫徒ラニ狐狸ノ巢窟トナシ毒蛇ノ棲息處タラシム嗚呼何タル怪事ゾヤ又悲嘆ノ情ニ堪ヒザルモノアリキ

### 第七 京元行軍

大隊ハ四梯隊トナリ第一梯隊ハ本部及第一中隊ニシテ第二中隊以下逐次一日遅レニ出發スルコトトナリス但シ沿道住民地ハ人家極メテ少キカ爲メ給養上ヲ顧慮シタル所以ナルベシ其行軍豫定計畫左ノ如シ

八月二日	議政府店	行程	五里	八月三日	抱川	行程	七里
全月四日	芝浦	全	七里	全月五日	金化	全	六里半
全月六日	金城	全	六里	全月七日	灰峴	全	六里半
全月八日	淮陽	全	六里半	全月九日	高山驛	全	五里半
全月十日	南山驛	全	六里	全月十日	元山	全	五里半

第一梯隊ハ八月二日宿鴉一聲空ニ啼テ天將ニ曙ケントスル午前四時宿營地ヲ出發セリ曉雲ニ籠メラレタル漢城ヲ後ニシテ其北門ヲ出ツルノ頃曉烟漸ク晴レ風物自ラ蕭瑟トシテ郊外ノ萬景將ニ是レ賞スベシ朝露ヲ結ヘル草木ハ徐ロニ涼風ヲ送リテ心氣頗ル爽快ヲ覺ユト雖時是レ酷暑ノ候何ソ如斯好時ノ長キヲ保タンヤ小時ニシテ遠慮ナキ炎帝ハ赫々タル熱ヲ放チテ屋上ノ瓦ヲ溶カシ池中ノ水ヲ沸カスカ如ク堤畔ノ楊柳丘上ノ翠松ハ半ハ枯憫シテ其綠ヲ失フカ如シ殊ニ禿兀トシテ赤裸ナル韓山ハ日光ヲ反射シ見ルモノヲシテ殆ント眩セシムルニ至ル天候如斯而シテ武裝ノ重量ヲ負擔シ爾モ嶮坂ヲ越ヒ難路ヲ踏ミ京元七十餘里ノ長途行軍ハ蓋シ難中ノ難事ナルヘク日中ノ行軍殆ント其苦ニ堪ヘサルモノアリ遂ニ夜行軍ヲ爲スノ方針ヲ探リ多クハ半夜ニ宿營地ヲ出發スルニ至レリ而シテ沿道村落ハ宿營上ノ便ヲ得ルニ足ラス假令是レリトスルモ家屋ハ倭小不潔ニシテ臭氣鼻ヲ突クカ如ク且ツ熱氣蒸騰シテ恰モ釜中ニアルカ如シ加フルニ晝間ハ蠅群ニ襲ハレ夜間ハ臭虫ニ刺サレテ晝夜全ク睡眠スルヲ得ス却テ丘上ノ松林河畔ノ柳陰ニ依リ露營スルノ優レルニ至レリ第二梯隊以下皆如斯韓國暑中ノ行軍其勞苦蓋シ筆紙ノ盡シ得サルモノアリキ

京元間二條ノ道路アリ一ヲ京元東路ト云ヒ他ヲ京元西路ト云フ當時兵站線ヲ設ケラレタルハ京元東路ニシテ其里程六十二里餘此間鐵嶺ノ峻アリ乃チ韓國中央山脈ノ超越點ニシテ其支脈ハ東西ニ分派シ其東ナルモノ短ナリト雖トモ西岐セルモノ頗ル長ク延々起伏谷地ト相交又シテ地形甚タ錯雜ナリ道路ハ此山地ヲ通過シテ鞍部ヲ超ヒ或ハ谷地間ヲ迂曲セリ幾多ノ河川ハ道ヲ橫斷シテ殆ト橋梁ナク一日常ニ數川ヲ徒涉ス行軍甚タ困難ナリキ沿道ノ耕地ハ概ネ畑地ニシテ所々僅カニ水田ヲ見ルノミ從テ米ノ產出甚タ少ク麥粟豆粟等ノ雜穀ヲ產スルノミ土民ハ一般ニ雜穀ヲ常食トシ各村落ハ凡テ富裕ナラス人口又甚タ稀薄ナリ此兵站線ニ於ケル宿營地及守備隊ノ配置左ノ如シ

一、議政府店ハ戶數僅カニ十五ヲ有スル一小村ノミ曹長某二分隊ヲ指揮シテ此處ニ守備セリ到底宿營シ得サルヲ以テ各梯隊皆其近傍松林中ニ露營セリ

二、抱川ハ本道ノ東側二十餘町ニアリ戶數二百五十ヲ有スル郡邑ナレトモ運搬宿營共ニ不便ナルヲ以テ全地兵站部ハ本道上ノ一小部落楊巨里ニ設置セラル戶數僅カニ五十ニ足ラス特務曹長二分隊ヲ指揮シテ茲ニ守備セリ

三、芝浦ハ稍廣濶ナル原野ノ一隅ニシテ河川ニ沿ヒタル一邊陲ノミ戶數五十餘アリト雖其不潔宿營ニ堪ヘス各梯隊ハ河畔ノ柳陰ニ露營セリ流水甚タ清潔ニシテ炊爨洗濯等其便少カラス某大尉三分隊ヲ指揮シテ此處ニ守備セリ

四、金化ハ平康鐵原狼川等ニ通スル道路ノ輻輳點ナリ耕地開ケテ居民稍富裕郡衙所在ノ地ニシテ戶數三百餘宇野少佐兵站司令官タリ設備稍完全セルヲ認ム

五、金城ハ西北ニ城山ヲ負ヒ其脈岐レテ丘陵ヲナシ東西北ノ三面ヲ擁セリ南方一面柳林鬱蒼タリ溪流ヲ隔テ、前山ニ對シ自然ノ要害ヲ爲シ且ツ風景又頗ル佳ナリ戶數二百三十元ト觀察府所在ノ地ナリト云フモ現今只郡衙ヲ存スルノミ少尉某氏三分隊ヲ指揮シテ茲ニ守備セリ

六、灰峴ハ山間ノ一小部落ノミ居民甚タ赤貧戶數僅ニ二十ニ足ラス到底宿營ノ見込ナキヲ以テ各梯隊ハ村端松林中ニ露營セリ

七、淮陽ハ陽川河畔ニ在リテ後口ニ奇巖屹然タル山ヲ負ヒ地味膏腴居民稍々富裕ナリ戶數約四百郡衙處在地ナリ少尉某氏三分隊ヲ指揮シテ此處ニ守備セリ

八、高山驛ハ鐵嶺ノ東麓ニ在リ戶數一百ニ足ラサル一站驛ニ過キス附近ハ凡テ高原地ニシテ地味頗ル瘠薄ナリト雖處々肥沃ナル凹地アリテ村落散在セルヲ見ル某大尉兵站司令官タリ守備兵二分隊ヲ配備セリ

九、南山驛ハ鐵嶺東麓高原ノ東北端ニ在ル一部落ニシテ戶數約一百ニ足ラスト雖耕地開ケテ附近又村落多シ某少尉三分隊ヲ指揮シテ此處ニ守備セリ此地ヲ距ル西北數里ノ山中ニ一靈境アリ釋王寺ト稱ス韓國第一ノ大伽藍ニシテ數十ノ僧侶ヲ住セシメ禿誦ノ聲常ニ絶ヘス信者ノ詣スルモノ頗ル多シト云フ

八月五日第一梯隊ノ金化ニ着スルヤ始メテ敵兵元山ニ來襲セントシ下南途上ニアルノ報ニ接ス九日高山驛ニ着ス折柄元山後備諸隊司令官宇恒少佐ノ命ニ接セリ曰ク昨日敵來襲元山諸隊ハ之ヲ擊退シタルモ敵ハ再ヒ來襲セントスルモノ、如シ貴隊ハ輕裝急行ス可シト第一梯隊ハ即時輕裝強雨ヲ冒シテ急行シ日程一日ヲ短縮セ

リ翌十日元山ニ着ス第二梯隊以下皆之ニ倣ヒ八月十三日ヲ以テ大隊全部元山ニ到着セリ

一八

## 第八 元山滯陣

日本海ノ惡魔恨ミ重ナル浦潮敵艦ハ突然元山港ニ浸入シテ同居留地市街ハ二百餘發ノ砲撃ヲ受ケ同夜利原偵察隊ノ乘船金州丸ハ新浦沖ニテ撃沈セラレ且ツ日々來レル間牒ノ報告ニ依レハ約十萬ノ敵ハ南下シツ、アリト居留民ノ警愕一方ナラス老幼婦女ヲ扶ケテ避難シツ、アル折柄果セルカナ八月九日砲二門ヲ有スル敵騎約五百、前哨線ニ來襲シ元山守備隊ハ之レニ應戰シテ茲ニ一場ノ戰鬪ハ開カレ敵ハ死体數個ヲ遺棄シテ退却セリ思フニ是レ敵ノ偵察隊ナルベク續テ大軍ノ來襲正ニ近キニアラントハ當時諸人ノ齊シク判斷セラレタルハ又無理ナラヌ次第ナリ情況如斯而シテ當時元山ノ守備ニ任スル諸隊ハ高木少佐ノ指揮セル歩兵第二十七聯隊ノ一大隊及後備歩兵第四十七聯隊ノ一大隊ト機關砲四門アルノミ元山居留地北方ノ高地脈ニ據リ堅固ナル防禦工事ヲ施シ死ヲ以テ之レヲ拒守スルノ決心ナリシモ未タ居留民ハ之レヲ以テ心安スル能ハス日夜恐怖ノ念ニ堪ヒサル折柄大隊ハ晝夜兼行急行軍ヲ以テ豫定ニ先ンジ到着シタレハ居留民ノ歡迎一方ナラス漸ク其安堵シタルヲ認メタリ

元山港ハ北韓ノ一大要港ニシテ港灣甚ク廣ク數多ノ艦船ヲ安全ニ碇泊シ得ヘク且水深數尋揚陸頗ル便ナリ元山津ハ韓人市街ニシテ灣ノ西南岸ニアリ戸數三千七百餘開港場監理所警察署電信局等アリ商賈貨物常ニ輻輳シテ市街繁榮物資豐饒ナリ元山居留地ハ赤田川ヲ隔テ、其北ニ隣リシ戸數三百餘地區廣カラサルモ街區ノ徑始頗ル整然タリ西北ノ二面ハ丘阜ヲ以テ區劃セラレ北方ニ對スル防禦上頗ル有利ノ地形ナリ且ツ全丘悉ク松樹ヲ以テ蔽ハレ翠色滴ルカ如ク洋々タル海波ト相映シテ風光頗ル佳ナリ市街ノ北端ニ白堊高樓高ク聳ユル一掃ノ官衙ハ之レヲ領事館トナス其西南ニ隣レルモノハ郵便局ニシテ兵營ハ區外山陰ノ麓ニアリ蓋シ港内ヨリ望見シ得サルノ地ヲトセルモノナランカ構造宏壯圍壁堅牢恰モ小城廓ヲ成作セリ同居留地ハ明治十七年日韓條約ニヨリテ翌十八年ノ創設ナリ爾來北韓ニ於ケル物資ノ集積場トシテ貿易繁盛ナリ將來北韓ノ發達ニ供フテ其進歩蓋シ思フベキナリ

- 當時元山ノ警戒配備ハ二個ノ前哨中隊ト一個ノ獨立小哨トヲ以テス其北海岸下浦村ニアルヲ右翼前哨トシ西北方孝子門洞附近ニアルヲ左翼前哨ト稱ス而シテ獨立小哨ハ新風里ニ位置セリ八月十二日大隊ハ警戒職務ノ任ニ當リ左ノ命令アリ
- 一、敵ハ目下一日行程以内ニ在リ
  - 二、守備隊ハ北面河々口ヨリ孝子門洞及館豊里東北側高地ヲ經テ新風里南端ニ亘リ警戒ス
  - 三、第一中隊ハ長徳洞西方附近ニ位置シ上浦村附近ヨリ孝子門洞ヲ經テ赤田社附近ニ至ル間ヲ警戒シ浮山里及石硯里方向ヲ搜索スベシ
  - 四、現役隊ノ一ヶ中隊ハ下浦村附近ニ位置シ中浦以東ヲ警戒シ後歩第四十八聯隊ノ一ヶ小隊ハ新風里附近ニ位置シ館豊里及水城洞方向ニ對シ警戒スル等ナリ
  - 五、前哨ノ抵抗ハ構設シアル最前ノ掩堡線及其附近ニ於テ爲スベシ

六、前哨ハ午後六時迄ニ警戒位置ニ就クベシ

但シ前哨中隊ハ長徳洞村落ニ於テ掩蔽下ニ入ルヲ得

七、火急ノ事變ニ際シテハ本官ニ報告スルト同時ニ宇垣少佐及高木少佐ニモ直接報告スベシ

八、予ハ大隊本部ニアリ明十三日午後一時命令受領者ヲ出セ

右ノ命令ニ依リ第一中隊ハ長徳洞附近ニ至リ後歩第四十八聯隊ト交代前哨勤務ニ服ス第二中隊以下順次日ヲ追フテ交代服務セリ

八月十六日左ノ命令アリ

一、第一中隊ヨリ將校ノ率ユル一小隊ヲ出シ後歩第四十八聯隊ヨリ派遣シアル新風里小哨ト交代セシムベシ

二、交代ノ時刻其他ノ規定ニ關シテハ前日ノ命令ニ遵據スベシ

八月二十四日午後〇時三十分左ノ命令アリ

但シ之ヨリ前後歩第二十四聯隊ノ第一大隊來着高木大隊ハ京城ニ向ヒ發進シ後備諸隊ハ凡テ宇垣少佐ノ指揮下ニ入レリ

一、敵ハ咸興附近ニ停止シアルモノ、如シ

天野大隊ハ平元街道上長林里附近ニアリ

二、後備諸隊ハ依然現在ノ警戒姿勢ニ停マル

三、第一中隊ハ前哨中隊トナル下浦村ニ位置シ北面川々口ヨリ中浦村ニ至ル間ヲ警戒シ新上里方向ヲ搜索ス

ベシ

津田大隊ハ彦坂大隊ト交互ニ約一中隊ヲ長徳洞西方附近ニ出シ前哨中隊タラシムル筈ナリ

四、他ハ前日規定ノ通りトス

是ヨリ各中隊ハ右翼前哨ニ服務セリ元山滯陣一ヶ月此間専ラ給養ヲ旨トシ特ニ海水浴ヲ獎勵セシメタリ其結果大ニ良好從來多數ニ發生シタリシ脚氣患者モ日ヲ追フテ快復シ且ツ一般大ニ体力ノ強壯ヲ來セリ只前哨服務中特ニ困難ヲ感シタルハ蚊軍ノ襲來ナリキ元山市街ハ寢ヌルニ蚊帳ノ要ナシト雖トモ一丘阜ヲ隔テタル長徳洞ハ蚊軍ノ蟄集甚タ多ク其襲來スルヤ喊聲ノ如ク其刺痛又頗ル烈シクシテ終夜殆ント一睡ヲ催フス能ハス之レニ反シ右翼前哨タル下浦村ハ海岸ニシテ白沙青松ノ地ニアリ明月天ニ冲シテ海上ノ漁火閃々タルノ深更陣中寂トシテ聲ナク只颯々タル松風ト轟々タル岸打ッ波ノ聲ヲ聽クノミ陣中ノ詩趣何ソ夫レ多キヤ九月三日韓國陸軍副領梁性煥韓國皇帝陛下ヨリ在韓日本軍隊ニ賜ハリシ左記ノ勅語ヲ齎ラシ着元セリ

#### 勅語

朕惟フニ本國ハ日本ト帶水ヲ隔テ輔車相依リ兄弟ノ誼昔ヨリ已ニ深シ邇年以來契好益々敦フシテ人敢テ間スル莫シ故ニ日本國

皇帝ハ自國ノ威武ヲ振耀シテ我國ノ獨立ヲ鞏固ニシ東洋ノ大局ヲ維持スルニ出テタルナリ豈偉ナラスヤ弟念スルニ日本國ノ陸海軍將士ト士卒カ忠肝義膽ヲ以テ祖國ノ有ルヲ知テ身ノ有ルヲ知ラサル剛毅果敢ナル氣魄ト心力ハ宇宙ニ横亘ス但出師シタル初日ニハ大冬風雪手龜足麻スル寒威ヲ冒受シ日月幾何ソヤ轉瞬ノ間ニ流

金礮石スル蒸炎ニ當リ數十萬大衆カ煙雲彈雨ニ跋躄シ勞苦スレトモ猶且樂地ニ赴クカ如ク勇往直進シテ無懼無悔スルノハ朕甚之ヲ嘉シ茲ニ陸軍副領梁性煥ヲ勞問使ニ命シ爲先内地ニ屯駐シタル各支部ト兵站ニ馳往勞問シテ朕ノ眷々タル至意ヲ宣示シ兼テ將來ノ膺功ヲ勗ス

光武八年八月二十六日

九月十日午后五時左ノ命令アリ

- 一、從來咸興ニ在リシ敵ハ去ル五日北背方向ニ退却シ又十數名ノ敵ノ徒歩兵長津方向ヨリ咸興ニ來着シタルモノ、如シ在長林里天野支隊ハ十七日頃當地ニ來着スル筈ナリ
- 二、在元山後備諸隊ハ明十一日ヨリ別紙計畫ニ依リ咸興ニ向ヒ前進ス
- 三、當大隊(第四中隊)及糧食縱列ノ一部ハ明后十二日午前七時元山出發長德洞ヲ經テ文川ニ向ヒ前進セントス依テ各中隊ハ全日午前六時五十分迄ニ大隊本部南方約二百米突ノ橋梁ヲ右翼トシ建制順序ニ東面橫隊ニ集合スベシ

津田大隊ハ明十一日元山出發永興ヲ經テ咸興ニ通スル道路及其附近ノ地域ヲ搜索スルト同時將校ノ卒ユル小部隊ヲ文坪里附近ヨリ分遣セシメ鎮興場宜德場里ヲ經テ咸興ニ通スル道路ヲ警戒スル筈ナリ

四、第四中隊(三分隊欠)ハ殘留シテ元山ノ警備ニ任シ天野支隊來着セハ交代シテ大隊ニ復歸スヘシ

五、第四中隊ヨリ各一分隊ヲ文川高原及永興ニ差遣シ該地及其附近警備ニ任セシムベシ

但シ此分遣隊ハ明十一日午前七時三十分元山出發津田大隊ト共ニ北進シ其警備ニ關スル詳細ノ指示及給

養ハ該大隊長ノ區處ヲ受クルモノトス

六、前哨部隊ハ津田大隊步哨線ヲ通過セハ之ヲ撤去シ宿營地ニ歸着スベシ

行軍計畫表

到着地	文川	高原	永興	定平	咸興
九月十一日	津田大隊				
全 十二日	立花大隊	津田大隊			
全 十三日	彦坂大隊	立花大隊	津田大隊		
全 十四日		彦坂大隊	立花大隊	津田大隊	
全 十五日			彦坂大隊	立花大隊	津田大隊
全 十六日				彦坂大隊	立花大隊
全 十七日					彦坂大隊

行軍里程	四里半	五里	四里半	八里	四里半
------	-----	----	-----	----	-----

### 第九 元成行軍

今此行軍ヲ記スルニ先チ咸鏡南道地誌ノ大要ヲ述ブルノ要アラン鐵嶺以北摩天嶺ニ至ル延長百有餘里西ニ連山ヲ負ヒ東日本海ニ瀕セル一帶ノ地之レヲ咸鏡南道ト稱ス中央山脈ヨリ分レ日本海ニ向テ東走セル支脈ニ依リテ幾多ノ小平原地ニ區劃セラル故ニ道路ハ夥多ノ山嶺ヲ越ニ海岸ハ凹凸シテ港灣頗ル多シ山嶺ノ著シキモノハ咸關、摩雲、摩天ノ諸嶺ニシテ港灣ノ大ナルモノハ永興、洞原、利原、城津ノ諸灣及西湖、昌浦、新浦ノ諸港トス河川ハ凡テ大ナラス文川、高原間ノ箭灘川高原ノ德池灘永興ノ龍興江永興定平間ノ松津江咸興ノ城川江等ハ稍々大ナルカ如シト雖トモ何レモ徒涉シ待ベシ概シテ堤防ナク河床又甚タ淺キヲ以テ雨期ノ候諸川悉ク氾濫流水其欲スル所ニ奔逸シ平原皆青海ニ變シテ交通全ク杜絶スルヲ常トス沿海ノ居民讒カニ漁業ヲ營ムモノアリト雖トモ土民ノ大半ハ農業ニ從事セリ土質礫确ナルカ如シト雖トモ底地ハ良田良甫多シ蓋シ洪水ニ依テ生スルノ現象ナラシカ水田畑地相半シテ隴畝耕雲ノ景況稍々佳ナルモノアリ京元間ニ比シ居民頗ル殷富ナルヲ認ム

大隊ハ第二梯隊ニシテ九月十二日午前七時三十分居留民ニ歡送セラレ其萬歲聲裡ニ元山ヲ發シ午後三時三十分文川ニ着シ宿營セリ同邑ハ戶數二百三十餘郡衙所在ノ地ナリ露兵南下以來人民殆ント避難シテ邑里甚タ寂寥タリ十三日午前七時文川ヲ發シ午後一時十五分高原ニ着ス全處ハ其名ノ如ク位置高燥附近凡テ畑地ニシテ其間小丘陵相連ルアリ戶數三百五十郡衙所在ノ地ナリ嘗テ露軍南下ノ際其一半ヲ燒夷セラレ且ツ郡守ハ其捕那スル處トナル土民又大半避難セリ十四日午前七時高原ヲ發シ午後零時二十分永興ニ着セリ永興平原ハ興龍江沿岸ニシテ頗ル廣漠地味膏腴五穀豐饒ナリ興龍江ヲ下リ海路元山ニ交通ス貨物輻輳居民稍々殷富ニシテ戶數八百五十郡衙所在ノ地ナリ十五日午前四時永興ヲ發ス途中黑原嶺金波嶺等ノ砂金採掘場ヲ過ク當時土民ノ多クハ避難シテ採掘ニ從事スルモノ少ナシト雖モ平時ノ産額頗ル多シト將來北韓ノ寶庫ナランカ此日行程九里午後三時四十分定平ニ着ス定平ハ丘陵起伏ノ地ニアリ三面皆高丘ヲ以テ圍繞セラレ只東方一面纔カニ開口シテ海岸ノ平野ニ連ナレリ丘上ハ翠色滴ルカ如キ松林ニシテ風景頗ル賞スベシ戶數五百餘郡衙所在ノ地ナリ居民稍富裕ナルヲ認ム當時一進會ノ集會アルヲ聞ケリ蓋シ一進會トハ革進主義ノ一政派ニシテ日本軍ノ力ニ依頼シ自國政事ノ改善ヲ計ルモノナリト云フ

十六日午前七時定平ヲ發シ丘陵起伏ノ地ヲ通過スルコト約二里ニシテ咸興平原ニ出ツ廣陲十里眼界頓ニ一變シテ心氣頗ル爽快ナルヲ覺ユ行進方向ニ當リ雲霞ノ裡ニ蟠ルモノハ即チ盤龍山ニシテ其東麓ニ白壁ノ延々セルモノハ咸興城ナルヲ知ル地境里ニ於テ午食ヲ喫ス折柄情報アリ第一梯隊ハ昨日咸興ヲ占領シ敵ノ一部ハ咸關嶺附近ニ停止セルモノ、如シト大隊ハ午後二時咸興ニ着シ城内ノ民屋ニ宿營セリ當時土民ハ殆ント避難シテ殘留セルモノ纔カニ其十分ノ一ニ過キス蓋シ咸興ハ從來排日黨ノ根據地ニシテ嘗テ日本商人此地ニ來リ殺害セラレタルモノ少ナカラス且ツ露兵千餘駐屯スルコト數月今皇軍ノ北進ヲ聞キ居民恐懼自ラ安ニスル能



ハス以テ如斯所以ナルカ

## 第十 咸興滯陣

咸興附近ハ廣漠タル平原ニシテ地味膏腴五穀豊饒ナリ三面皆連山ヲ繞ラシ唯東方ノ一面日本海ニ瀕ス其一隅ニ西湖港アリ港内數艦ヲ碇泊シ得ベク咸興平原ノ發達ニ供フテ將來ノ要港タリ城川江ハ該平原ヲ兩分シテ東流シ盤龍山脈ハ其左岸ニ添フテ突出セリ盤龍山ハ殆ント平原ノ中央ニ屹立シ山脈尙ホ東ニ走リ其端未少シク隆起シテ三條ノ支脈ヲ成形セリ咸興城壁ハ鎖鑰ヲ此隆起點ニ置キ兩脈ニ添フテ底下シ延々平地ヲ含ンテ圍繞セリ故ニ城内ノ半部ハ平地ニシテ他ハ丘陵地ナリ全丘老松ヲ以テ蔽ワレ高地ハ諸官衙廟祠等ヲ以テ充タサレ翠色瀟々ノ間丹堊白壁ノ堂宇簷牙高ク咏ムノ狀風趣頗ル絶佳ナリ蓋シ北韓第一ノ勝地ト稱ス城壁ハ石造ニシテ高サ七八米突周回ニ千米突餘ニシテ四門ヲ通ス樓門櫓廓高ク聳エテ効外萬景ヲ一望スベシ戸數ハ城内外合セテ四千餘人家稠密貨物輻輳シテ居民殷富韓國三都ノ一ト稱ス五百年前李氏宗祖始メテ霸業ヲ起セシ地ナリト云フ

九月十七日各梯隊ハ悉ク咸興ニ着シ城内ニ宿營セリ而シテ諸隊司令部ハ觀察府内ニアリ全府ハ半ハ朽敗ニ屬セリト雖モ其構造頗ル宏壯稍々觀ルベキモノアリキ當時ノ防禦線ハ直接城壁ニ據ルヲ主トシ其警戒線ハ城外數百米突ノ距離ニアリ全日大隊ハ警戒勤務ニ服スベク左ノ大隊命令アリ

一 信スベキ韓人ノ言ニ依レハ敵騎約二千北青ニ滯留シ其一部ハ洪原附近ニアリト

二 後備諸隊ハ當分現在ノ姿勢ヲ維持ス

三 本日ヨリ來ル十九日マテ砂浦里ヨリ雲興里ヲ經テ可下壇ニ亘ル線ヲ警戒スベキ任務ヲ受ク

四 第三中隊ハ前哨トナリ東門ニ位置シ右ハ沙浦里ヨリ雲興里ヲ經テ左リ可下壇ニ亘ル線ヲ警戒スベシ

五 警戒ニ際シ第一中隊ハ直チニ前哨第三中隊ニ赴援シ得ル如ク準備ヲ爲シアルベシ

六 余ハ咸興豊浦副衛ニアリ

全日諸隊司令部日々命令アリ宿營地直接警戒ノ爲メ外衛兵及風紀衛兵ノ勤務ヲ規定セラレ

全日午后三時頃敵騎約二百我前哨線前約一里舊突浦附近ニ出現シタリト土人ノ報告アリ全午后五時敵騎十餘名可下壇附近ニ出現シ我斥候ノ撃退スル處トナル思フニ敵ハ一度退却シタルモ觸接ヲ有タンカ爲メ我軍ノ咸興ニ停止セルヤ否ナヤ等ノ情況ヲ偵察セントシテ來リシモノナランカ翌十八日此敵ニ尼シ德山館附近ノ敵情ヲ偵察スベキ任務ヲ以テ第一中隊長神保大尉以下百八十二名ハ午前五時咸興ヲ出發シ正午德山館ニ達セリ敵ハ已ニ咸々岑以北ニ退却シテ其隻影ヲ認メザリシモ當面ノ敵情ニ付キ有利ナル諸種ノ情報ヲ齎ラセリ

九月二十一日午前九時後備步兵第三十二聯隊本部及第二大隊ハ昨夜京城ニ着セルノ電報ニ接セリ

全日ノ諸隊司令部命令ニ依リ翌二十二日ヨリ從來ノ警戒配備ヲ改メラル

### 後備諸隊命令 (要項)

- 一 長津方向ヨリ敵騎四十餘前進シ來ルノ噂アリ
- 二 後備諸隊ハ暫ク現在ノ姿勢ニ止マラントス

三 立花大隊ヨリ明二十二日一小隊ヲ西湖ニ差遣シ全地分遣隊及興經里連絡哨ヲ交代セシムベシ

但シ此分遣隊ノ任務ハ西湖ヲ占領シ併セテ海上ニ於ケル彼我艦船ノ行動ヲ監視シ且ツ我連送船入港セ

バ懸分ノ助力ヲ與フルコトヲ圖ルニアリ

四 明二十二日ヨリ左ノ順序ニヨリ一中隊ヲ徳山館附近ニ派遣シ洪原及上垢方向ニ對シ警戒セシムベシ

九月二十二日ヨリ二十七日ニ至ル 津田大隊

全 二十八日ヨリ十月五日ニ至ル 立花大隊

十月六日ヨリ全九日ニ至ル 彦坂大隊

此分遣隊ハ二日毎ニ正午ニ於テ交代スルモノトス又優勢ナル敵ノ來襲ニ際シテハ敗ヲ取ルコトナク便路ヲ

經テ咸興方向ニ歸來スルコトヲ勉メシムベシ

此中隊ヨリ一分隊ノ連絡哨ヲ舊突浦附近ニ配置セシムベシ

不日咸興徳山間電話通信ヲ開設スル筈ナリ

五 明二十二日正午限リ前哨中隊ノ配置ヲ止メ全時左ノ外衛兵ヲ配置スベシ但シ爾後ノ交代ハ午后六時トス

東門外將校ノ率ユル三分隊

咸興南端附近全右

可下檀附近一分隊

萬歲橋下士ノ率ユル兵卒八名

外衛兵ノ服務順序左ノ如シ

九月二十二日ヨリ二十三日ニ至ル 彦坂大隊

全 二十四日ヨリ二十七日ニ至ル 立花大隊

全 二十八日ヨリ三十日ニ至ル 津田大隊

六 各分遣隊ノ給養ハ倉庫給養トス

但シ副食物中現地ニ於テ調辨シ得ルモノハ之ヲ應用スルコトヲ得

右命令ニ依リ第二中隊渡利小隊ハ西湖ニ分遣セラル

當時間諜其他偵察ノ結果ニ依リテ得タル情報ヲ綜合スルニ咸々峠附近ニ敵騎約一百洪原ニハ約三百北青ニ約一千城津利原端川等ニ約一千要スルニ城津以南ノ敵ハ約二千五六百及砲八門ナルカ如シ而シテ九月二十三日以來洪原及咸々峠等ノ敵ハ徳山館ノ我分遣隊ヲ夜襲セント企圖シタルモノ、如クナリシモ遂ニ其處置ニ出デス徒ラニ咸々峠附近ニ於ケル彼我斥候ノ衝突ニ止マリシノミ九月二十九日得タル情報ニ依レバ洪原及全地以南ニアリシ露兵ハ二十六日午前全ク洪原以北ニ退却セリト然ルニ敵ハ其後續隊ノ來着ヲ待チ再ヒ南下ヲ企圖シタルモノ、如ク十月一日午后一時ニ得タル情報左ノ如シ

敵ハ再ヒ南下ヲ始メタルモノ、如ク一昨二十九日北青附近ニ利原方向ヨリ來着シタル敵ノ騎兵ハ約二千砲八門ナリ北青ノ敵ト合シテ南進シ其斥候ハ昨日洪原附近ニ出沒セリト而シテ全日午後六時ノ情報ニ依レバ敵ノ先進部隊約五百騎ハ昨夕洪原ニ進入セリト

咸興諸隊ハ敵ヲ迎撃セントシ專ラ其準備ヲナセリ先ツ右翼咸興城東門ヨリ左翼北山樓ニ至ル城避ヲ射撃シ得ルニ便ナラシメ且ツ此ノ陣地ノ鎖鑰タル盤龍山上及其山脈主要ノ地點ニ堅固ナル防禦工事ヲ施セリ而シテ敵ノ來攻ニ際シ各隊ノ部署ヲ令セラレタリ前記ノ情況ハ敵ノ來襲將ニ接迫シタルモノ、如ク諸隊ノ志氣大ニ奮ヒ晝夜兼行工事ニ從事シタリシモ敵ハ遂ニ咸々嶺ノ嶮ヲ越ヒテ來攻スルノ勇ナク我軍又任務上進撃スルヲ許サズ十月四日以來敵ハ再ヒ北青ニ退却シ其一部ハ大門嶺附近ニ止マリ爾來彼我相對峙シテ警戒シ唯時々斥候ノ衝突アルノミ

十月七日得タル情報ニ依レハ敵騎數十昨日北青附近ヨリ山間道ヲ經テ咸興ノ西方城川江ノ上流ナル五老村方向ニ前進シタリト翌八日第二中隊小松小隊ヲ敵情偵察トシテ全方向ニ派遣シタルモ敵情新タニ得ル處ナク歸還セリ

十月八日得タル當方面ノ情報

九月十九日慶興附近ヲ發シ昨夜當地ニ歸着セシ間牒ノ報告要旨左ノ如シ

- 一 豆滿江ノ軍橋ハ修理セラレアリ而シテ其橋脚トシテ筏ヲ使用セリ
- 二 九月下旬鏡城ニハ四五百ノ露兵アリ又同地ヨリ輪城ニ至ル間ノ電信ハ復線ニ爲ス爲メ工事中ニシテ輪城ヨリ會寧ニ向ヒテハ新タニ電柱ヲ植立シツ、アリシ
- 三 鏡城附近ノ土民ノ言ニ依レハ會寧ニハ五六百ノ露兵來着シアリト
- 四 鏡城吉州間ニ於テ數多ノ地方民ヨリ聞知スル所ヲ綜合判斷スレハ七月以來九月下旬ニ至ルノ間ニ於テ露

兵ノ全地ヲ通過シタル重ナルモノハ約五百ツ、二回約千七百全四百ノ四回ニシテ城津以南ニアルモノハ

總計三千餘ナリト

- 五 九月五六日頃露兵四百餘甲山方向ヨリ端川方向ニ前進シタルコトヲ聞知セリ
- 六 九月十五六日頃露兵七百餘鏡城ヲ經テ南下シ城津ニ到着セシコトヲ聞知セリ
- 七 九月二十五日吉州ノ南方約二里ニアル海子浦附近ニ於テ工兵二十餘名ノ道路修繕中ナルヲ實見セリ

八 浦邊斯德及南部烏蘇利地方ヨリ慶興地方ニ來着セシ韓人ノ言ニ依レハ波土圖地方ニ於テハ九月上旬以

其守備兵ハ從來ニ比シ多少増加シタルモノ、如シト  
十月九日午前八時四十分後備歩兵第四十八聯隊咸興ヲ出發シ京城ニ向フ蓋シ鴨綠江軍ニ編入セラレタルヲ

以テナリ全日右交代トシテ後備歩兵第四十七聯隊來着城外ニ宿營セリ  
全日少尉平原連機關砲隊長ニ下士以下三十七名ハ全隊配屬ヲ命セラル蓋シ從來後備歩兵第四十八聯隊ニ附屬シアリシ機關砲四門ヲ當大隊ニ附屬セラレタルヲ以テナリ

十月十日ヨリ德山館分遣隊ハ將校ノ指揮セル一小隊ト改メ之レニ斥候長ニ任スベキ將校若クハ特務曹長ヲ附屬ス而シテ立花大隊工藤大隊彦坂大隊ノ順序ニ二日交代服務スベク命セラル

十月十日得タル情報

十月二日城津ヲ發シ本日午前當地ニ着セシ間牒ノ言左ノ如シ

- 一 九月下旬迄城津ニ集合シアリシ露軍ハ騎兵二千餘大砲六門及分解シテ馬背ニ駄シ得ル大砲二門ニシテ其

大部ハ南進シ目下城津ニ殘留シアルモノハ病兵等ヲ合セテ四五十名ナリ

二 北青附近ニアル露兵ハ城津ヨリ來リシ全部ト咸興ヨリ退却セシモノヲ合セテ三千三四百ニシテ其大部ハ北青ノ南方ニ幕營シアリ

三 十月八日敵騎約百五十東方ヨリ洪原ニ進入シ其十數騎ハ更ラニ分レテ海岸道及咸々岭方向ニ前進セシヲ見タリ

四 參領金仁株ハ目下北青ニアリ同地土人ノ言ニ依レハ露軍將校ハ其咸興ヲ棄テ退却シタルヲ同參領カ牒報ヲ誤リシ結果ナリトテ非難シ居レリト

十月十三日第四中隊笹嶋少尉ハ高原定平附近シ集會シタル進歩會員ノ情況視察トシテ派遣セラレ全月十九日歸還セリ其報告ニ依レハ進歩會員ノ行動ニ付キ別ニ怪シムベキ點ナキノミナラズ日本軍ニ對スル好意ハ確カニ認ムル處ニシテ其主旨タル日本軍ニ依頼シテ目國ノ弊政ヲ改革セント欲スルニアリト

十月十六日指揮官宇垣少佐ハ後備第一師團參謀仰付ケラレ全月十八日出發赴任ノ途ニ就ケリ而シテ其後任嶋村中佐到着マテ工藤少佐在咸諸隊ノ指揮及軍政業務ヲ執レリ

十月廿一日左ノ勅語ヲ賜ワレリ

勅語

開戰以降朕ノ陸海軍ハ能ク其忠勇ヲ致シ官僚衆庶其心ヲ一ニシ以テ朕カ命ヲ遵守シ著々其歩ヲ進メ今日ニ及フ然レモ前途猶遠遠ナリ堅忍持久益奉公ノ誠ヲ盡シ以テ終局ノ自的ヲ達スルコトヲ努メヨ

十月二十二日軍司令官男爵長谷川好道閣下ヨリ左ノ訓示ヲ與ヒラル

訓示

目下韓國各地ニ起リツ、アル處ノ政社集會等ノ内ニハ無賴ノ凶徒ヲ嘯聚シ治安ヲ妨害スルモノ無キヲ保スヘカラザルモ韓國今日ノ狀勢ニ徴スレバ官吏ノ暴政若クハ其收斂ニ耐ユルコト能ハズシテ單ニ生命財產ノ安固ヲ計ランガ爲メ施政ノ改善ヲ訴ヘントスルニ出ツルモノナシトセズ斯ノ如キハ前者ト大ニ其趣キヲ異ニスルモノアリ故ニ各部隊長ハ慎重ニ地方ノ狀況ヲ視察シ政社集會ノ軍事上ニ及ホス影響如何ヲ顧慮シ苟モ累ヲ軍事上ニ及ホスモノニ至リテハ毫モ假借スル所ナク之カ鎮壓ノ手段ヲ取ルベキハ勿論ナリト雖モ我軍事行動上若クハ帝國居留民保護上妨害ナキモノニ至リテハ之ニ干涉スルコトナク徒ニ良民ノ希望ヲ抑壓シテ以テ官吏ノ非行ヲ幫助シ却テ人民ノ怨恨ヲ招クノ結果ニ陥ルナキヲ期スベシ

明治三十七年十月二十一日

韓國駐劄軍司令官男爵

長谷川好道

十月三十一日後備歩兵第三十二聯隊長嶋村中佐ハ第五第七ノ二中隊ヲ引率シテ着任セリ爾來咸興後備諸隊ハ咸興枝隊ト改稱セラレ全中佐ノ指揮ニ屬セリ

十一月二日左ノ訓示ヲ受ク

訓示

聞ク所ニヨレハ近頃定平永興高原文川ノ各郡ニ於テ進歩會員ニ對シ官民等ヨリ脅迫ヲ加ヒ財貨ヲ強奪スルノミナラズ甚シキハ其生命ニ危害ヲ及ホスノ傾向アリト果シテ眞ナラハ是レ反テ彼等進歩會員ヲシテ倍々

積極的猜疑ノ感ヲ懷カシメ遂ニ制禦スベカラザル禍亂ヲ胚胎シ布テ軍事上ニ影響ヲ及ボスコト尠ナラザルニ至ルベシ故ニ各守備隊長ハ彙ニ配布シタル軍司令官訓示ノ意ヲ體シ以テ此際嚴ニ其地方官ニ輸達スルト共ニ他方ニハ進歩會員ヲシテ益々跳梁ノ行動ナカラシムル如ク十分注意ヲ倍從スルヲ要ス

成興枝隊長 嶋村中佐

十一月三日左ノ訓示ヲ受ク

訓示

軍紀ノ消長ハ軍隊ノ強弱ニ關シ風紀ノ弛張ハ軍容ノ尊卑ニ係ルハ更ニ喋々ヲ要セザル所ニシテ忠實勇武ナル各職ノ渡韓以來日夜其緊肅ヲ圖リ任務ニ盡瘁シツ、アルハ本職ノ確信スル所ナリ然レモ駐屯久シキニ亘レハ意氣弛緩シ爲メニ不知不識ノ間ニ紀律ヲ紊ス等ノ事アルハ往々陥リ易キノ弊害ニシテ本職ノ深ク憂慮スル所トス願ミレハ滿洲ノ野ニ在ル我軍ハ今ヤ萬死ヲ干シ劍電彈雨ノ間ニ出入シ衣服カナルニ違アラズ食飽クニ足ラズ具サニ辛酸ヲ嘗ム共ニ戰地ニ在リ等シク軍務ニ從事スルモノ其任務ノ如何ヲ論セズ何ソ此際軍紀風紀ノ弛緩ヲ許スヘケンヤ况ンヤ我管内北關及南滿洲ノ狀況ハ日々倭僥ヲ告ケツ、アルニ於テオヤ各職ハ益々精神ヲ磨シ體力ヲ練リ常ニ機宜ニ應スルノ準備ナカルヘカラス今ヤ本官職ヲ當軍ニ執ルニ臨ミ特ニ茲ニ訓示ス

各隊長ハ能ク其意ヲ體シ部下ヲ戒飾シ規律ノ示ス所秩序ノ存スル所秋毫モ犯スコトナキヲ期スベシ

明治三十七年十月二十一日 韓國駐劄軍司令官男爵 長谷川好道

十二月八日軍司令官ヨリ左ノ通報アリ

- 一 成鏡道元山以北ニアル諸隊ヲ指揮セシムル爲メ司令部ヲ設ケ成鏡道諸隊司令部ト稱ス
- 二 前項司令部ニ左ノ人員ヲ配屬ス

成鏡道諸隊指揮官	步兵大佐	池田正介
副官	步兵少佐	權藤久宜
全	步兵大尉	中村稻彦

書記二人從卒馬卒若干

十二月九日德山館前哨服務中ナル第六中隊ノ將校斥候ハ洪原附近ニ於テ敵騎ト衝突シ我レニ損害ナク敵ハ死者一名ヲ遺棄シテ退却セリ

十二月十六日左ノ命令アリ

陸軍歩兵大尉 立花順治

陸軍歩兵少佐(十二月十四日附)

十二月二十一日午後三時三十分新任指揮官池田大佐着任ニ付キ將校同相當官一同萬歲橋ニ出迎ヒ且ツ全日午後五時ヨリ司令部ニ於テ歡迎會ヲ催フセリ

十二月二十四日司令部命令ニ依リ第一中隊西山小隊ヲ成興西方約四里ナル五老村ニ分遣シ長津方向ヲ警戒セシム但シ此分遣隊ハ一週間交代ト規定セララル

池田指揮官着任以來専ラ威與ノ防禦工事ヲ命セラレ第一大隊ハ右翼第二大隊ハ左翼ヲ擔任シ各隊ハ日々作業ニ從事セリ軍司令官ノ訓令ニ依ルモノナリ當時日露戰役ノ全局上勢ヒ當方面ノ攻勢ヲ執ル能ハサルモノアルカ如シ蓋シ旅順ハ難攻數月ニ及フモ未タ陷落セズ且ツ滿洲ノ主力ハ沙河會戰以來敵ト近距離ニ於テ對峙シ而シテ敵ハ漸次其勢力ヲ増加スルモノ、如ク我軍必勝ヲ期センカ爲メ滿洲方面ニ多大ノ兵力ヲ要スレハナリ折柄酷寒ノ候トテ地面氷結堅キヲ岩石ノ如キモノ二尺餘堀開ノ困難ナル想像ノ及フ處ニアラス作業十餘日器具皆ナ磨滅シテ殆ント使用ニ堪ヒザルニ至ツテ工事漸ク完成セリ

十二月二十八日得タル情報(問諜ノ言)左ノ如シ

- 一 北青以南ニ現在セル敵ノ兵力ハ千二百ニシテ他ハ城津ニ退却シタルモ過日斥候衝突後ハ第一線ニ兵力ヲ増加シ目下大門嶺北麓ニ二百餘騎屯在シ之ヨリ二三十騎ノ斥候ヲ毎日洪原迄派遣セリ
- 二 城津ニハ去ル十三日頃露國汽船入港糧食兵器大砲等ヲ陸揚セシヲ聞ケリト
- 三 本月二十四日露兵約百騎北青ヲ發シ甲山ニ向ヒルヲ見タリト

明治三十八年乃チ征露第二年一月一日ヲ迎ヘリ此祝スベキ吉日ニ於テ尙ホ祝スベキ吉報ハ到レリ曰ク旅順陷落セリト嗚呼旅順ノ攻圍以來茲ニ半歲ヲ經過セリ之レカ爲メ幾多ノ損害ヲ出セシカ幾多ノ犠牲ヲ拂ヒシカ而シテ西人ハ難攻不落ノ言ヲ以テ評スルニ至レリ「バルチック」艦隊ハ東行ヲ始メタリ遼東半島ノ一端全ク孤城落月命旦夕ニ迫ツテ纒カニ餘喘ヲ保テル旅順ノ死活ハ專ラ戰略上ノ問題以外ニシテ政略上ノ重要視スル處ナリ茲ヲ以テカ乃木軍司令官ノ苦心夫レ幾何ゾ誠ニ慘憺タルモノアリキニ愛兒ヲ斃シテ敢ヒテ願ミル處

ナキハ世人ノ等シク同情ヲ表スル處ナリ今此重要問題ニシテ解決セリ「ステツセル」ハ我軍門ニ降服セリ旅順ハ全ク開城セリ吾人ハ大杯ヲ舉ケ以テ祝意ヲ表セザルベケンヤ

一月五日新年宴會兼テ旅順陷落祝勝會ヲ觀察府奥苑ニ於テ催フセリ池田指揮官祝言ヲ述べ且ツ當方面將來ノ活動ヲ豫期シテ有望ナル一場ノ演說アリ終テ紀念ノ爲メ一同寫眞ヲ採影シ後チ園遊會ハ開カレタリ此日天氣晴朗且ツ溫暖ニシテ殆ント中春ノ候ノ如キハ何タル幸ゾヤ社會行列滑稽樂隊手品歌舞及飾リ物等頗ル意匠ヲ盡シタル幾多ノ餘興アリ甚タ盛會ニシテ歡聲威城ニ振フ蓋シ如斯盛會ヲ催フシタルノ一因ハ旅順陷落シ日軍益々優勢ナルヲ韓國官民ニ知ラシメントノ一政略ニ出テタルナランカ

一月八日補充兵四十二名到着各中隊ニ配屬セリ

一月十日生田目大尉ノ指揮セル三十餘名ノ將校斥候ハ洪原北方ニ於テ敵ノ騎兵約三十ト衝突シ敵ハ死者九名ヲ遺棄シテ退却セリ我レニ輕傷者一名アルノミ戰利品ハ乘馬二頭其他武器若干アリ

一月十六日午後一時左ノ情報アリ

一 昨十四日午後洪原郡守ヨリノ書翰及昨夜歸來セル問諜(韓裝セル日本人ニシテ竹未ト云フモノ)ノ報告ニヨレハ去ル十日夕北青ヨリ敵騎四百餘大門嶺迄來リ平浦大門嶺間ニ宿泊シ翌日滞在十二日平浦ノ電信ヲ撤去シ南葛嶺ノ麓マテ退却シタリト

十五日午後一時北青ヨリ來レル進歩會員ヨリ得タル情報左ノ如シ

一 棠浦ニハ八百五十騎及砲七門アリ院浦南葛嶺間ニハ敵四百餘騎アリ平浦以南ニハ敵兵ナシ

- 二 棠浦ノ露兵ハ總テ荷物ヲ捆包シ何時ニテモ退却シ得ル準備ヲナシツ、アリ
- 三 過日ノ死傷者九名中士官一軍醫アルコト確實ナリ又負傷者三名ノ内一名ハ士官ニシテ現ニ衛生部員四名  
附添ヘ城津ニ歸レリ

右ニ依リ判斷スレハ敵ハ過日衝突後大門峠附近ノ警戒部隊ヲ其東北方南方葛峠附近ニ引退シタルコト事實ナルカ如シ

一月二十五日左ノ情報アリ

去ル二十二日夜在北青ナル間諜竹末ヨリ發シタル密書ニ依レハ

- 一 棠浦附近ニアリシ敵ハ悉皆城津ニ向テ退却セリ北青ヨリ北方甲山ニ向テ退却セシ敵ハ一名モナシ
- 二 棠浦ニアリシ糧秣ハ悉ク輜重ニテ運搬セリ
- 三 電柱ハ利原附近マテハ大概切り倒セリト云フ

二月一日及二日ノ兩度黒溝臺附近ノ戦闘ニ關スル大山滿洲軍司令官ノ報告要領ノ通報ニ接ス

二月四日豫テ城津ニ差遣シ置キタル最モ信スベキ間諜ノ歸來ニヨリ得タル敵情左ノ如シ

- 一 城津附近ノ敵ハ二十六日ヨリ北方ニ向ヒ退却ヲ始メ露國司令官ハ二十九日城津ヲ撤退シタリ又電柱ハ北青ヨリ吉洲迄切り倒セリ

二 城津附近ニ蓄積シアリシ糧秣ハ三ヶ所共悉ク石油ヲ注キ之レヲ燒キ棄テツ、アルヲ見タリ

三 三十日全人出發ノ時迄ハ尙二百騎餘殘留シ居タルモ是レ糧秣燒キ棄テノ監視ヲナセルモノニシテ續テ退却スルナラント

四 露兵ノ嘶ヲ聞クニ露國ハ旅順ヲ陥ラレ今又「ハルビン」方向危險ナレハ獨リ此方面ニ於テ假ヒ戰勝ツモ無効ナルヲ以テ北方ニ引上クルナリト

二月五日敵情物資道路偵及民情鎮撫ノ任ヲ以テ神保大尉ノ指揮ニ屬スル角柴田兩少尉外下士以下三十六名及馬匹七頭ヨリ成ル一隊ハ北青ニ派遣ヲ命セラレ午前八時出發セリ

二月九日第二中ハ洪原ニ分遣ヲ命セラレ午前八時出發セリ但シ全分遣隊ノ任務ハ北關ノ敵ニ對シテ警戒シ且ツ廣ク敵情ヲ收集スルニアリ蓋シ北進ノ一準備ナリ

二月十三日神保大尉ノ一隊ハ任務ヲ完フシ無事歸還セリ

二月十四日正午左ノ支隊命令アリ

咸鏡道諸隊命令

- 一 敵ノ後貝加爾哥薩克騎兵約三百ハ今尙ホ城津附近ニ停止シアルモノ、如シ
- 二 咸鏡道諸隊ハ城津ニ向テ前進セントス  
後備歩兵第四十七聯隊第一大隊ハ軍ノ直轄トナリ鐵嶺以北ノ兵站守備ニ任ス  
第四師團後備野戰砲兵第一中隊ハ其材料及豫備彈藥ヲ元山ニ輸送シタル後其人員及馬匹ハ陸路諸隊ニ追及スル筈

三 諸隊ノ行軍序列ハ別紙前進計畫ノ通リトス

- 四 第一梯隊ハ所要ノ警戒法ヲ設ケテ前進シ來ル二十五日雙浦ニ至レハ同地北方高地附近ヲ占領シテ諸隊ノ集合ヲ掩護スベシ
- 五 各梯隊日々宿營地ニ到着セハ適宜ノ方法ヲ以テ成ルベク速ニ異狀ノ有無ヲ報告スベシ
- 六 前進中諸隊ノ給養ハ別紙給養計畫ニ依ル
- 七 余ハ第二梯隊ト共ニ行進ス

咸鏡道諸隊指揮官 池田少將

咸鏡道諸隊前進ノ爲メ給養計畫

- 一 前進中諸隊ノ給養ハ携行糧秣給養トス
- 二 各梯隊ノ大行李ハ常ニ定規ノ如ク一日分ノ糧秣ヲ携行シアルヲ要ス
- 三 前進中林道元洪原ノ兩地ニ於ケル給養ハ同地ニ集積シアル糧秣ヨリ補給ス此糧秣ハ十五日マテ咸興倉庫ヨリ輸送ヲ終ル
- 四 洪原以北ニ於ケル給養ハ左ノ二方法ノ一ニ依ル各梯隊ハ適宜其一法ヲ應用スルモノトス但シ第一法ヲ應用スル場合ニ於テハ徵發輸送材料ニ關シ先頭梯隊ハ後方梯隊ノ需用ヲ顧慮スルヲ要ス  
又第二法ヲ實施セントスル時ハ天候ニ依リ動モスレハ豫定ノ日時ニ所要ノ地點ニ到着セザルコトアルヲ顧慮セザルベカラズ

第一法

第一梯隊ハ十日分第二梯隊ハ九日分第三梯隊ハ八日分ノ糧秣ヲ徵發輸送材料ヲ以テ陸路梯隊ニ積行セシム此材料ハ各梯隊自ラ宿營地ニ於テ徵集スルモノトス

第二法

各梯隊ハ第一ノ法ニ準シ各四日分ヲ携行シ殘余ノ六日分乃至四日分ハ洪原ヨリ海路遮湖ニ輸送シ同地ニ於テ補給ス

咸鏡道諸隊前進計畫表

月	日	梯隊		各梯隊行軍里程
		部	隊	
二月十六日	林道元	第一梯隊	長嶋村中佐後步三十二ノ本部及第一大隊機關砲隊豫備彈藥	六里半
十七日	洪原	第二梯隊	長川上少佐後步三十二ノ第二大隊砲兵中隊ノ下士以下三十四馬匹三十五豫備彈藥	七里
十八日	平浦	第三梯隊	長早田中佐後步四十七ノ本部及第二大隊	五里半



二月十九日	北青	平浦	洪原	六里
二十日	居山滞在	北青滞在	平浦滞在	六里半
二十二日	利原	居城	北青	七里
二十三日	端川	利原	居城	七里半
二十四日	摩谷驛	端川	利原	八里半
二十五日	雙浦	摩谷驛	端川	七里
二十六日		城津	摩谷驛	
二十七日			城津	

備考 表中各地名ハ主ナル村落ヲ示スモノニシテ其附近部落ヲ含有スルモノトス

一全日左ノ訓示ヲ受ク

訓示

日露戰ヲ開キテヨリ既ニ一星霜ヲ經過セリ遼野滿洲若クハ韓國ニ於ケル十數回ノ戰闘ニ於テ毎ニ皇軍ノ勝利ヲ傳フルモノ主トシテ 陛下ノ稜威ニ由ルト雖モ畢竟世道人義ヲ履行スル義軍ノ光華ニ外ナラザルベシ我威鏡道諸隊ハ威興及ヒ元山地方ニ駐屯スルヲ久シク威信恩撫以テ韓國國民ニ接シ彼等亦逐日我レニ信頼スルニ至レリ之レニ反シ北關ノ地タルヤ古來帝國ノ威武未タ光被セズ爾カモ尙ホ今日露兵ノ一方ニ駐留スルアリ故ニ幾分杞憂ヲ懷ク人民ナキニアラズ然レモ暴虐殘忍ナル露ノ行爲ハ漸次民心ノ趨向ヲ皇軍ニ致スノ風アリ嗚呼可憐ナラズヤ皇軍素ヨリ此等國ノ爲メニ戰フモノ而シテ直接其地域ニ在テ眼耳其狀ヲ悟ル時ハ其感更ニ幾倍ナルベシ故ニ今ヤ我諸隊ノ北進ニ當リテヤ各將校下士卒ハ深く此旨ヲ體シ注意戒慎シテ皇軍威信ノ森嚴ナルヲ覺知セシメ帝國恩撫ノ根本的扶植ニ勉ムルト共ニ帝國々民ノ高潔仁慈深ク世道人義ヲ崇尊シアルノ本領ヲ肝銘セシムルヲ極メテ緊要ナリ茲ニ出發ニ際シテ特ニ本職ノ希望ヲ陳ベ將校各位ノ盡力ト下士卒ノ奮勵トニ依リ此目的ヲ達センヲ望ム

明治二十八年二月十四日

威鏡道諸隊指揮官 池田正介

第十一 威興八景及寒夜ノ步哨

北進準備已ニ整ヒ二月十六日ヲ以テ第一梯隊タル聯隊本部及當大隊ハ威興ヲ出發スベク命令ハ下レリ回顧ハ昨年九月威興占領以來茲ニ七閱月ノ久シキ此間滿洲ノ勝報及ヒ戰友ノ勇敢ナル奮闘ヲ聞キツ、而シテ何

等ノ爲ス處ナク唯腕ヲ鳴ラシテ滯陣セルノ無聊サヨ然リト雖モ此無聊ヲ慰メ轉タ浩然ノ氣ヲ養ハシメタルモ  
ノハ全地ノ風光ナリキ今全地ヲ去ラントスルニ望ミ茲ニ一章ヲ設ケ全地ノ八景ヲ撰シ當隊從軍斯道ノ宗匠庄  
司氏ノ咏シラレタル和歌及ビ斯文カモノセル寒夜ノ歩哨トフ一編ヲ舉ケ佳絶ナル全地ノ風景ト趣味アル滯陣  
生活トノ一端ヲ記シ諸氏カ懷舊ノ參考ニ供スル敢ヒテ無用ニアラザルヲ信ス

一 北山樓ノ秋月

樓ハ城ノ北隅高點ニ聳ユル樓廓ニシテ仰ヒテ盤龍ノ峰ヲ眺メ伏シテ城川ノ清流ニ望ミ且ツ咸興全平原ヲ一  
眸ニ集ムルノ勝地ナリ秋氣清澄明月朗ラカナルノ夜一度此樓ニ登レハ精神自ラ滯爽恰カモ仙境ニ遊フノ感  
アリ

照る月の光に今宵まかせてかどりてくにかゝり火もなし

二 萬歳ノ長橋

咸城西北隅樂民樓下ニ起レル城川江ノ架橋ナリ長サ百五十餘間韓國第一ノ長橋トス橋下ノ清流ハ兩岸ノ綠  
柳青松ヲ倒影シ其狀恰モ虹ノ兩雲ニ架セルカ如シ

松生ふる岸よりあなな青柳のいごもはるかにかけ渡る橋

三 南門ノ晚鐘

南門側ノ鐘樓ニアリ口徑五尺餘形狀奇異ニシテ古色蒼然五百年前ノ鑄造ナリト云フ暮雲咸城ヲ籠メ晚鴉時  
ヲ搜スノ時鐘聲般々トシテ響キ陣中ノ感一段ノ趣ヲ添ユ

あれ胸の勇む心地のものふも鐘きく時はもの思ふらん

四 沙浦里ノ落厂

沙浦里ハ南門外數町城川江左岸ノ一村村落ナリ肥沃ノ田疇之レヲ四圍ス晚秋ノ候落厂殘穂ヲ啄ムモノ常ニ群  
ヲ爲シテ其數幾千ナルヲ知ラズ

古里の小山のほどり過きにけん便りきかまし沙浦の厂かね

五 神宮ノ晴嵐

神宮ハ李氏宗祖ノ廟ニシテ咸城ノ南方里餘ニアリ堂宇頗ル宏壯ニシテ境内ハ古松老柳鬱蒼タリ海風ノ衝ニ  
當ツテ樹枝皆之レニ靡ク假ヒ夏時炎天ノ候ト雖モ風聲常ニ颯々所謂無夏ノ仙境ナルベシ

神宮のみや居のほどり青柳のいごもすしき晴嵐かな

六 盤龍ノ暮雪

盤龍山脈ハ西北連山地ヨリ分歧して咸興平原ニ突出ス盤龍山ハ其中央ニ隆起シ突兀タル連峰老松纒カニ之  
レヲ點綴セリ朔風飛雪ヲ送り暮雲四空ヲ閉サスノ項仰ヒテ盤龍ノ峰ヲ望メハ白皚々トシテ吟眸ヲ衝キ志思  
自ラ浩然タルヲ覺ユ

夕されは峰より峰につたはりて松も眞白にふれる白雪

七 西湖ノ歸帆

西湖ハ咸興ノ東方三里ニアル小港ナリ當時北韓軍糧秣ノ運輸船ハ凡テ此港ニ碇泊セリ其他沿岸ヲ廻航セル

帆船並ニ漁舟等出入スルモノ常ニ數十艘アリ

糧船のにきはふ浦の夕くれに千引きの力ます心地せり

### 八 聖廟ノ松

聖廟ハ城内觀察府前ニアリテ堂宇頗ル宏壯ナリ堂側數百歳ヲ經タル一株ノ老松アリ蟠根龍ノ如ク垂枝猿臂ニ似タリ老ヒテ色増スモノハ松ノ緑ナリ蓋シ韓山ノ風景ヲ添ユルモノハ松樹ナリ此老松ノ如キ其主ナルヲ見ル

千代かけて誰かちきりけん聖廟の今も手向の松の一と本

### 寒夜ノ步哨

寒月冴ヒテ天ニ中シ夜已ニ三更朔風刺シ來リ否ナ吹キ來リテ亟寒凜々恰モ指ヲ落スカ如ク肌ヲ裂クカト疑ハル四隣寂漠トシテ聲ナク唯松風颯々タルヲ聞クノミ前面ハ廣漠タル銀甫ヲ隔テ、模糊タル沙浦里ノ村落ヲ望ミ左方遙カニ白衣ヲ着セル蟠龍ノ峰巍然トシテ月光ニ映スルヲ見ル右側ニハ延々タル城川江ノ河流アリ爾カモ氷ニ閉サレテ一面鏡ノ如シ是レゾ咸興城下南端寒夜ノ光景ナリ

城江左岸ノ堤上一叢ノ松林アリ夫ノ前端ニ倚立シ身ハ防寒外套ニ包マレシ一人ノ步哨ハ城南外衛兵第一下士哨ノ單哨ナリ時々耳ヲ聳テ、聽クモノ、如ク或ハ活目シテ月光ニ窺フモノ、如シ少時ニシテ數歩以內ヲ行動シツ、月ニ嘯クハ座ロニ萬軍遠征ノ情アランカ時々足踏ミスルハ脚部ノ寒ヲ醫センカ爲ナラン折柄彼レノ眼中ニ何物カ映ジタリケン忽チ銃ヲ拂ヒテ突然一聲誰レカ止レ巡察將校ト答ヒツ、進ミ來リシ一人ノ士

官身ハ全シク防寒外套ニ包マレ長キ軍刀ノ鞘ハ月光ニ輝キテ閃々タリ步哨ハ直チニ立銃シ敵方ニ面シテ異情ナキヲ答フ士官ハ前方ヲ凝視スルコト稍久フシ頗ミ步哨ニ言テ曰ク本日前哨ノ報告ニ依レハ敵兵南進ノ情況アルモノ、如ク數百騎ハ已ニ洪原ニ侵入シ其一部ハ退潮方向ニ行動スト當方面專ラ其衝ニ當ル寒夜ノ勤務甚タ勞ナリト雖トモ謹テ警戒ヲ怠ル勿レト言終テ去ル其後時ヲ移スト少時步哨ノ誰何前回ノ如ク面シテ進ミ來レル二人ノ兵卒一人ハ步哨掛上等兵ニシテ他ハ上番步哨ナリ下番步哨ハ監視中異情ナキヲ報告シ交代スルヤ二三ノ談話ハ開カレタリ曰ク今夜ノ寒氣ハ又格別ナリ脚部ノ感應全ク失フカ如キヲ覺ユ絶ヒズ行動スルニアラズンハ凍腸ニ罹ルノ恐レアリ宜シク注意スベシト上番步哨ハ此中隊元氣者ヲ以テ稱セラシ答ヒテ曰ク寒氣酷烈ナルハ當然ナルベシ時已ニ酷寒ノ候ナリ君聞カズヤ寒酷ナラズンハ豊年ナラズト又言フ雪ハ豊年ノ花幸ヒ本年ハ祖國豊作ナルヲ聞ク願クハ來年又豊作ナランコトヲ祈ル寒敢ヒテ意トスル處ニアラズ寒風刺スカ如キハ北韓ノ名物ナリ殊ニ余等ハ後備兵ナリ日清ノ役滿洲ノ冬營經見ニ富ミタル老練ノ兵ナラズヤ乞フ意ヲ勞スル勿レトハ如何ニモ元氣ナ武夫ナリ上等兵ハ下番步哨ヲ引率シ下士哨所ニ向テ去レリ下士哨廠舎ハ一軒ノ韓人破屋ニシテ漸ク風雨ヲ避クルニ過キス其長以下十餘名爐ヲ圍ンテ種々ナル談話ノ興ニ入り敢ヒテ長夜ヲ覺ヒザルモノ、如シ動員當時ノ談アレハ廣嶋滯在中ノ奇談アリ或ハ過故ノ經歷談ヨリ將來ノ希望談ニ及フ折柄陷窩ナル眼光爛々トシテ鬚髯滿面ヲ蔽フカ如キ上等兵アリ突然思ヒ出シタルカ如ク旅順ノ未タ陷落セザルニ困マルト談ヲ起シ旅順陷落セザル間ハ當方面ノ前進モ出來ザルベシト判シ敵前面ニアリ彼我ノ距離數里ニ過ギズ而シテ未タ一回ノ快戰ヲ爲サルノ遺憾ナリト結ベバ容貌魁偉筋

骨雄健ノ軍曹曰ク當方面ノ將來ハ大ニ有望ナリ四方ノ野山ニ綠染メ樹々ノ梢ニ花開クノ春ヲ迎ヒテ花々シキ奮闘ヲ爲スノ時アルコト期シテ待ツベキナリ茲暫ク浩然養素精力強健ナランコト望ムト

晚鴉一聲樹ヲ掠メテ西シ暮色蒼然咸城ヲ籠メ雲山漠々トシテ將ニ消ヒナントスルノ折柄一人ノ將校一隊ヲ引率シテ城内ニ歸リ來レリ夫ノ宿舍前ニ到ルヤ慰勞ノ言ヲ與ヒテ開散ヲ命シタリ「今歸ツタ」トハ衛兵下番ノ兵卒ニシテ「大キニ御苦勞ナリシ」トハ留守居ニ殘リシ戰友ノ言葉ナリ「今日ハ下給品マニ〜イース」(澤山アルノ韓語)ト言ヒハ「チヨツリ〜タイダニチヨツリ」(宜シイ〜大ニ宜シイ)ト答ヒ武裝ヲ解キ武器ヲ掃除シ全舎數人喜色滿面恰カモ一家團樂ノ如ク和氣鑿然晚餐ヲ始メタリ下給品トハ酒烟菓菓子等ニシテ恤兵部ヨリノ送品ナリ一同舌打シツ、其美味ヲ賞セリ稍壹然タルノ觀ヲ裝フト雖トモ元ヨリニ合ニ足ラザル量ナレハ少時ニシテ底ヲ拂フニ至レリ一人ノ兵水筒ヲ手ニシ隣兵ヲ顧ミテ曰ク「媽！モ〜一本<sup>カク</sup>媛<sup>カク</sup>」トハ滑稽男ノ座興ナリ一座大ニ噴笑陣中又快ナラズヤ

## 第十二 咸城行軍

二月十六日午前八時聯隊本部及第一大隊ハ咸興ヲ出發セリ行軍ノ經過豫定表ノ如ク全月二十五日午後三時二十分雙浦ニ着セリ此行軍間ニ於ケル諸種ノ景況左ノ如シ

### 一 宿營地ノ景況

林道元ハ戶數二百ニ足ラズ山間ノ一寒村ナリ

洪原ハ戶數千餘粗造ノ城壁アリテ郡衙所在ノ地ナリ北方山ヲ負フテ東南ノ二面海ニ望ミ西方一帯ノ田甫廣茫數里ニ亘リ陸ハ五穀豐饒ニシラ海ニ漁業ノ利アリ居民頗ル富裕ナルヲ認ム其東北方約一里節婦岩ノ勝地アリ海水深ク灣入セル一隅巨岩重疊シテ海ニ聳ヒ老松之レヲ裝飾セリ而シテ灣頭一帯白沙青松相連ナルモノ里餘奇岩翠色共ニ海波ニ映シテ風光畫クカ如シ

平浦戶數纔カニ六十ニ足ラザル一寒村ナレト附近ノ村落少ナカラズ大隊ハ里餘ノ間ニ分宿セリ

北青ハ戶數二千餘堅固ナル石造ノ城壁アリ經始方形ニシテ其一邊約八百米突樓門櫓廓高ク聳ヒ壘上ノ老松其間ニ連ナリテ頗ル壯觀ヲ呈ス郡衙所在ノ地ニシテ又從來鎮營大隊ノ駐屯地タリシモ當時已ニ解散セラレテ其兵營ヲ存スルノミ過日露兵此地ヲ去ル以來進歩會員勢力ヲ得タルノ結果斬髮者頗ル多キヲ見ル北青平原ハ其廣サ咸興平原ニ次キ田畝開ケテ地味肥沃ナリ而シテ遮湖ノ港ハ其東方三里ニアリ將來ノ發達地ナルヲ認ム

居山ハ海岸ノ一部落ノミ戶數附近ヲ合セテ三百ニ足ラズ住民ハ農業及漁業ニ從事シ稍富裕ナリ

利原及端川ハ地形略類似シ海水ノ灣入セル平原ノ一隅ニアリ粗造ナレト城壁アリテ共ニ郡衙所在ノ地ナリ其戶數利原ハ約八百端川ハ約一千ニシテ附近又村落多シ兩灣共其一隅ニ小汽船ノ碇泊所ヲ有ス而シテ端川ノ平原ハ其廣サ北青ニ次キ利原又端川ニ次ク地味膏腴兼テ漁業ノ利アリテ居民稍富裕ナリ是又將來ノ發達地ナルベシ此兩地北青ニ次ヒテ進歩會員盛ナリキ

摩谷驛ハ摩天嶺南麓長狹ナル谷地間ニ散在セル一寒村ナリ大隊ハ約二里ニ亘リテ分宿セリ

二十五日午後二時大隊ハ城津附近ヲ通過セリ從來全所ニアリシ敵ノ後衛約三百今朝全地ヲ退却セリト而シテ其糧秣ハ燒棄セラレ烟煙各所ニ燼スルヲ見ル大隊ハ午後三時半双浦以南城津ニ至ル一帯ヲ占領シテ其主力ハ双浦ニ宿營セリ双浦ハ城津港ノ北方約一里ニ在ル漁村ナリ戶數幾カニ八十餘宿營頗ル狹縮ナリキ

### 二 道路ノ景況

道路險惡ニシテ河川ニ架橋ナク山路峻坂ナルハ北韓從來ノ景況ナリ故ニ大軍ヲ派遣セントセバ道路修築ハ先着作業ナルコト元ヨリ論ヲ俟タサルベシ今北青以北道路ノ景況ヲ見ルニ河川ハ新タニ架橋セラレ沼澤之レヲ填メ山坂之レヲ改築シテ道路良好傾斜頗ル緩ナリ特ニ利原端川間ノ摩雲嶺摩谷驛城津間ノ摩天嶺ノ如キ北韓ノ二大嶮ト稱セラルト雖トモ岩ヲ切り山ヲ鑿リ通過容易ナラシムルニ至リタルモノ其工事ノ大ナルコト將ニ活目シテ見ルノ價值アリ之レ皆露軍ノ作業ナリト蓋シ敵師黑鳩公其都ヲ發スルニ望ミ彼レ揚言シテ曰ク日軍ヲシテ滿韓ヨリ擊攘スル數月ノ間ニアリト言元ヨリ無謀ニ歸スト雖トモ彼レカ胸中又一計畫ノ存スルモノアリシヲ知ラル

### 三 糧食運搬ノ景況

此行軍ニ際シ大小行李ノ外糧食彈藥其他携行荷物頗ル多ク而シテ是等數多ノ荷物ハ當初其運搬ヲ商人ニ受負ハシメタリ元ヨリ人口稀薄運搬材料ニ乏シキ北韓地方ノコト、テ行軍ノ第二日ニ於テ尙ホ荷物ハ停滯頗ル甚クシキヲ見ルニ至レリ大隊ハ全日午前九時威々嶺南麓ニ達セリ折柄荷物山ノ如クニシテ運搬人夫幾カニ數十人ニ及ハズ加フル嶮峻ニシテ登降ニ里ニ餘レリ狀況如斯受負商人ノ力到底不可能ナルヲ認メ止

ムヲ得ズ第一第四中隊及機關砲隊ノ全員ヲ嶺ノ各所ニ配布シ兵力ヲ以テ三百餘箱ノ彈藥ヲ運搬セシメテ其輸送ヲ援助シタルコトアリ而シテ當日ノ行軍約七里餘一隊ノ疲勞甚ク大リト雖トモ元ヨリ羽陽健兒ノ我兵ハ一モ其勞ヲ言フモノナシ蓋シ忠勇義膽ノ然ラシムル處カ之レニ反シテ惡ムベキ商人等ハ貨銀仕拂不確實ナル爲メ人夫ハ日々其數ヲ減シ運搬ヲシテ益々困難ナラシムルニ至レリ故ニ第五日以後商人ノ受負ヲ止メ主計之レカ主任トナリ特務曹長以下若干ハ其指揮下ニ屬シ運搬ヲ監督スルコトナレリ各郡衙ニ命ジテ人夫ヲ募集シ韓官吏又之レカ監視ヲナスト雖モ應募人夫ハ何時モ其要求ヲ滿サズ假ヒ滿タムアルモ多クハ集合時間ニ遲レ午後ニ至リテ尙ホ荷物ノ發送ヲ終ラザルコト屢ナリキ而シテ元ヨリ不規律ナル韓人夫ノコトヲ集合離散常ナク甚クシキハ途中荷物ヲ放棄シテ逃走スルモノアルモ無責任ナル韓官吏之レヲ顧ミズ監視護衛ノ士卒ハ之レカ爲メ數里ノ行程ヲ立戻リテ荷物ヲ搜索シ東走西走新タニ人夫ヲ徵發シテ之レヲ運搬セシムル等夜ヲ徹シテ途上ニアルコト數日ニ亘レリ其困難筆紙ノ盡シ得ザルモノアリキ情況如斯勢ヒ荷物ノ紛失ハ免レサリシト雖モ他隊ニ比シ當大隊ノ運送成績頗ル良好ナリシハ當時運搬ニ從事セラレタル菊地主計以下監視諸員ノ功蓋シ偉大ナルベク大隊ノ謝意ヲ表スル處ナリ

## 第十三 全山附近滯陣

二月二十六日大隊ハ雙浦ニ滯在全日正午第四中隊ハ警戒及ヒ敵情蒐集ノ目的ヲ以テ臨溟澤ニ分遣セラレ翌二十七日聯隊ハ後備第二師團第一次輸送部隊ノ城津上陸ヲ掩護スベキ任務ヲ以テ臨溟澤ニ前進第一大隊本部

及第一第二中隊ハ前哨トナリ全山附近ニ位置シ第一中隊ヲ前哨中隊ニ任シ右翼城上ヨリ左翼才盈洞ニ亘リ塙洞及吉洲方向ニ對シ警戒配備ヲナサシム敵襲ニ際シナハ全山東方及西方高地ヲ固守スベク工事ヲ施セリ聯隊本部及爾餘ノ各中隊並ニ諸隊司令部ハ臨溟澤ニ而シテ後歩四十七聯隊及城津上陸諸隊ハ其以南城津間ノ各部落ニ宿營セリ

三月一日午後五時二十分敵騎約六十才盈洞下士哨ニ向ヒ猛烈ニ襲來シ我下士哨之レニ應戰シツ、退却セリ前哨第一中隊ハ緊急直チニ應戰シ約二十分ニシテ之レヲ擊退セリ當時當面ノ敵ノ主力ハ鏡城ニ停止シ而シテ其一部ハ明川古站等ニアリ此ノ敵襲以來第三第四中隊及機關砲隊ハ前哨ニ増加セラレ全山ノ東北方約八百米突ナル城東及石城ニ宿營シ爾來才盈洞下士哨ヲ小哨トナシ又塙洞方向時典ニ小哨ヲ配備シ各中隊交互警戒ニ服務スルコトナレリ

三月十日午後五時第一中隊長井小隊才盈洞小哨服務中敵騎約七十才盈洞前方五百米ニアル我下士哨ニ來襲セリ下士哨長木内軍曹部下ヲ奮勵シテ應戰セルモ敵ハ益々猛烈ニ攻撃シ漸次其右側背ニ迫マレリ折柄恰モ好シ小哨長長井中尉部下ヲ指揮シテ赴援シ敵ニ大損害ヲ與ヘテ擊退セリ

三月十七日西山少尉部下三十名ヲ率キ昌浦附近ノ敵情及密輸出船等偵察ノ命ヲ受ケ任務ヲ完フシテ歸還セリ  
全日小松中尉以下三十名十里亭附近敵情偵察ノ命ヲ受ケ任務ヲ完フシテ歸還セリ  
三月十八日午後一時角少尉以下十名露探逮捕ノ命ヲ受ケ全夜吉洲ニ到リ露探三名ヲ捕縛シテ翌十九日歸還セリ

セリ

三月十九日午後二時三十分會田中尉ハ部下一小隊ヲ率キ露探逮捕ノ命ヲ受ケ全夜吉洲ニ至リ露探十二名ヲ捕縛シテ翌二十日歸還セリ

三月二十一日左ノ軍令ヲ受領ス

軍 令

- 一 軍用電線(軍用鐵道線路)ニ害ヲ加ヒタルモノハ死刑ニ處ス
- 二 情ヲ知リテ隱匿スルモノハ死刑ニ處ス
- 三 加害者ヲ拿捕シタルモノニハ金二十圓ヲ賞與ス
- 四 加害者ヲ密告シ拿捕セシモノニハ金十圓ヲ賞與ス
- 五 村内ニ加設シアル軍用電線(軍用鐵道線)ノ保管ハ其全村民ノ責任トス各村ニ於テ村長ヲ主席トシ委員ヲ設ケ若干名宛毎日交代軍用電信(軍用鐵道線)ノ保護ニ任スベシ
- 六 村内ニ於テ軍用電信(軍用鐵道線)ヲ折斷セラレ而シテ加害者ヲ拿捕セラレタル場合ニ於テハ當日ノ保護委員ヲハ臺罰又ハ拘留ニ處ス
- 七 一村内ニ於テ二回加害者アルトキハ韓國政府ニ通報シ嚴罰ヲ附加ス
- 八 船舶ノ操縦ヲ愆リ其他過テ電線ヲ切斷シタルモノハ拘留ニ處シ臺罰ヲ附加シ尙ホ情狀ニヨリ其船舶ヲ沒收ス又地方ノ情況ニアリテハ韓國官吏ニ要求シ嚴罰ヲ課セシムルコトアル可シ此場合ニアリテハ兵站司

令官殿ニ之ヲ監視スルモノトス拘留間ハ寢具及食物ハ本人ノ自辨トス

三月二十六日右軍令ヲ前哨線前吉州ニ至ル間ノ各村落ニ配布スベク且ツ吉州郡郷長ヲ召喚シ來ルベキ任務ヲ以テ第二中隊上等兵松岡德藏以下一分隊ヲ派遣セリ全分隊ハ午后零時三十分吉州ニ於テ敵騎約四十ト衝突シ直チニ吉州東南方高地ナル孔子廟ニ據リテ應戦シ之レヲ撃退シタル後被命ノ任務ヲ全フシテ歸還セリ

三月二十五日左ノ情報ヲ得タリ蓋シ韓歴一月三日咸興諸隊司令部ノ命ヲ奉シ咸興ヲ出發シ同二十九日浦鹽着二月十日浦鹽ヲ發シ本日當地ニ歸來セル韓人李容河ノ言ナリ

一 浦鹽ニハ當時步騎砲工兵集合シテ約二萬人アリ風説ニ依レハ露人ハ近日中其兵ヲ四萬五千ニ増加シ浦鹽ニ二萬五千人ヲ留メ烟秋ニ一萬人他ノ一萬人ハ蘇杭嶺(浦鹽ノ西北方約十八里ニシテ「ハルビン」街道ト「ハバヒフカ」街道トノ分岐點)ニ駐屯セントス

二 浦鹽ノ周圍ナハ七十二ヶ所ノ砲臺ヲ構築セリ

三 浦鹽市ニ在留シ得ル者ハ露國官憲ノ證標ヲ有スルモノニ限ル其他ノ壯丁ハ砲臺築造ノ爲メ使役セラレツ、アリ

四 港内ニハ軍艦三隻アリ内煙突三本ノモノ一隻ハ「トクナイ」港ニアリ他ノ二隻ハ四本煙突ニシテ浦鹽港内ニアリ(トクナイ港ハ浦鹽港ノ入口ナリ)

五 水雷艇十六艘アリ内十二艘ハ浦鹽港内ニアリ他ノ四艘ハ港内外ヲ巡行ス

六 魚形ノ船八隻アリテ港頭ノ嶋後ニ隠見ス(潜行水雷艇ナラレカ)

七 汽船港内ニ五艘アリ内二艘ハ英國船ナリトイフ

八 浦鹽ノ兵卒ハ兵營砲臺内及ヒ露國ノ官衙内ニ居住シテ市中ノ家屋ニ在ラズ

九 市中ヲ通行スル兵種ヲ見ルニ大部ハ歩兵砲兵ニシテ騎兵ハ三四千騎アリト

十 市内ノ人民ハ安堵ノ狀アリ

十一 汽車ハ毎日四回發着シ其着セルキハ軍隊及糧食ヲ輸送シ來タルヲ見ル然レモ浦鹽ヲ發スルキハ概シテ空車ナリ

十二 風説ニ依レハ全地ニハ糧食欠乏ノ狀アリ

十三 韓歴二月七日浦鹽ヲ發シテ歸途ニ就キシカ浦鹽ノ南約八里ノ「シチシ」ニ兵合アリテ全所ヨリ歩兵約五百人煙秋ニ向フテ行進セルヲ見ル(煙秋ハ「ボセツト」附近ナリ)

十四 煙秋ニ於テ土人ノ言ニ依レハ全所ニ約三千ノ歩騎兵アリト

十五 圖們江ノ左岸ニモ兵舍アルヲ見ル約二百ノ歩兵アリト大砲ヲ認メズ此河ハ目下水上ヲ往來シテ橋梁ヲ見ズ

十六 館洞嶺ニハ二ヶノ急造家屋アリシカ一個ハ韓歴一月十六日燒失シテ約十名ノ敵兵穴居スルヲ見ル(殘リノ家屋ハ糧庫ナリ)

十七 館洞嶺ノ北約半里ノ雄墓灣ニハ約五十騎駐屯シアリ

十八 館洞嶺ノ南約九里ニテ五騎富居ニテ十五騎ヲ見ル

- 十九 輪城ニハ約三百騎アリト聞ケリ
- 二十 富寧ニハ五百餘アリシ由ナルカ數日前此内二百騎ハ鏡城ニ前進セリト
- 二十一 會寧ニハ約百騎アリト聞ク全地ニテ露人ハ圖們江ヲ渡河スベキ舟筏ヲ製造中ナリト
- 二十二 鏡城ニハ約四千ノ騎兵アリ且其南門外ニ砲八門アルヲ見タリト
- 二十三 朱村ニハ七百餘騎アリト土人ノ言ナレモ推測スルニ五百騎位ナランカ
- 二十四 明川ニハ警戒嚴ニシテ入ル能ハザリシモ約百騎アリト土人ノ言フ處ナリ
- 二十五 明川ヨリ古站及吉洲附近ニハ時々斥候往來セリト現ニ昨日午後吉洲古站間ニテ三十五騎ニ出遇ヒタリ

二十六 電信線ハ明川以北浦鹽ニ達セリ

右ノ間諜ト相前後シテ數日間數人ノ間諜歸來セリ其言フ處浦鹽附近ノ情況ニ就テハ大差ナキモ只當面ノ敵ノ兵力ニ就キ左記ノ如ク述フルモノアリ

- 一 會 寧 軍 二 百 騎
- 一 富 寧 軍 參 百 騎
- 一 輪 城 二 百 騎
- 一 鏡 城 八 百 騎

要スルニ當時露兵ノ圖們江ヲ渡リテ南下シアルモノハ騎兵ノミニシテ其兵力ハ三千乃至四千位ナランカ

三月二十日聯隊ハ前衛トナリ聯隊本部ハ全山ニ移轉シ第二大隊ハ全山ノ西北方約一里ナル泉浦附近ニ位置シ

テ前哨ノ勤務ニ服シ當大隊本部ハ城東ニ移轉各中隊ハ從來ノ位置ニアリテ前衛本隊トナレリ

三月三十一日前哨ヨリ出シタル村井稻葉二組ノ將校斥候ハ吉洲北方ニ於テ機關砲二門ヲ有スル約七百ノ敵騎ト衝突シ村井將校斥候ハ無事歸還シタルモ稻葉將校斥候ハ敵ノ包圍中ニ陥キリ勇戰奮闘一隊遂ニ離散シテ無事歸還セルモノ纒カニ七名ノミ死傷者七名生死不明者七名ヲ出セリ其後得タル情報ニ依レハ

- 一 稻葉特務曹長以下三名ハ確カニ敵ノ捕虜トナレリト
  - 二 富寧會寧ニアリシ敵騎約六百去ル三月二十八日輪城ヲ經テ南進セリト
  - 三 鏡城ニアリシ敵騎約九百ハ三月二十七日來南進シ全所ニハ二三十騎ヲ殘留セシムルノミ
  - 四 四月一日明川ニハ約二千五百ノ露兵宿營シ其一部隊ハ吉洲北方約二里金少洞附近ニアリト
- 斯ノ如ク敵ノ大舉南進シタルハ其目的元ヨリ知ルヘカラスト雖トモ思フニ不意ニ來襲シテ威力偵察ヲ企圖シタルモノナランカ然ルニ途中我將校斥候ニ衝突シ我レノ戰鬪準備整フヲ慮リ其目的ヲ果サズシテ歸途ニ就キタルモノナラン然レトモ敵ハ三名ノ捕虜ヲ得タリ當方面彼未タ嘗テ捕虜ヲ得タルナシ然ルニ今敵ヲシテ我軍ノ情況ヲ偵知セシムルニ好材料ヲ與ヒタルヲ遺憾トス四月二日敵ハ明川附近ヲ發シ鏡城ニ退却シ其一部ハ朱村附近ニアリテ時々其斥候ハ明川吉州附近ニ出沒セルノミ

四月七日軍參謀長ヨリ左ノ通報アリ

英國公使館附武官(宇都宮中佐)三月三十日附ノ報ニ依レハ浦鹽ニハ東部西比利亞狙擊步兵一師團砲兵一旅團ノ外ニ一軍團(奉天附近ニアル各步兵聯隊ヨリ一ケ中隊ツ、ヲ抜キニケ師團編成第四第七師團ト命



シタルモノナリ) 増加シ總數約五萬ナリト (第四第七師團ハ旅順ニ於テ殲滅セラレタルヲ以テ其後此師團號ヲ附シタルモノナランカ)

其後十數日間ニ於ケル喋報ニ依レハ敵ハ續々南下シツ、アリ而シテ約五萬ノ敵ハ已ニ浦鹽ヲ發シタリト又曰ク圖們江ヲ渡リテ南下セル敵ハ已ニ三萬ヲ越ヒタリト殊ニ最近ノ喋報ニ依レハ敵ノ歩兵ハ已ニ鏡城ニ着シ鏡城ノ南方二里生氣嶺ノ警戒ハ歩兵ノ服務セルヲ見タリト喋報如斯而シテ破羅的艦隊ハ日ニ東進シテ已ニ「カムラン」灣ニアリ我艦隊ハ全力ヲ擧ケテ之レニ對シ行動中ナランカ時ノ形勢當方面ノ前進ヲ許ササルモノアルカ如ク支隊ハ全山ノ高地ニ堅固ナル防禦工事ヲ施シ且ツ山砲一中隊ヲ前衛ニ配屬セラレタリ四月二十日警戒上ノ都合ニ依リ聯隊本部ハ才盈洞ニ宿營ヲ移轉シ其他各中隊ノ移轉アリ當大隊ハ城東石城城上附近ニ集團宿營シ專ラ場洞方向ニ對スル警戒ノ任ニ當リ且ツ日々將校以下ノ訓練ニ精勵シ士氣ヲ練磨シ以テ北進ノ時期ヲ待テリ

四月二十八日少尉西山重孝後備歩兵第三十二聯隊附ヲ免シ後備歩兵第四十八聯隊仰付ラレ翌廿九日出發セリ五月二日大尉矢嶋謹爾中尉渡利彌兵衛後備歩兵第三十二聯隊附ヲ免シ第七師團轉屬仰付ラレ翌三日出發セリ五月二十日後備第二師團長三好中將閣下及全司令部員一同臨暎驛ニ來着翌廿一日左ノ命令ヲ受ク

- 一 北關支隊タリシ諸部隊ハ本日ヨリ戰闘序列ニ基ツキ各固有ノ令下ニ復歸ス可シ但騎兵小隊野戰砲兵大隊第二中隊第一歩兵彈藥縱列及砲兵彈藥縱列ハ當分予ノ直屬トス
- 二 諸隊ノ宿營及警戒ハ從前ノ通りトス

### 三 予ハ臨暎驛師團司令部ニ在リ

五月二十三日當大隊ハ第二大隊ト交代泉浦附近ニ位置シテ前哨勤務ニ服シ第三中隊ハ右翼前哨トナリ第一中隊ハ左翼前哨タリ共ニ吉州方向ニ對シテ警戒セリ  
全日左ノ訓旨ヲ受ク

### 訓 旨

今般當師團長閣下來着セラレ諸隊ハ各其戰闘序列ニ復歸セシメラル將來新任務ニ活動スベキ時機ノ倍々近運シタルヲ知ル可ク諸子ト共ニ踴躍ニ耐ヘサル所ナリ

抑モ本戰役ニ於テ當隊カ任ニ韓國ニ渡航セシハ昨年七月ヲ初動トシ爾來已ニ一ヶ年ニ垂々トスルノ間陸暑ニ酷寒ニ其他種々ノ障礙ニ遇ヒ之ヲ排却シ約百五十里ノ北進行軍ヲ遂ケ當地ニ着セリ

然ルニ當面ノ敵狀ハ如何我進メハ彼退キ止マレハ來ル等唯一縷ノ接觸ヲ保チシニ過ギズ未タ以テ濫濫セル技能ト膽力トヲ試ムル機ナカリシハ諸士ノ深ク遺憾トスル所ナラン余モ亦同情ヲ表スル所ナリ

然レモ今ヤ戰局ノ大勢數歩ヲ進メ當方面活躍ノ機近キタルヲ以テ一層健全ナル一團ヲ形クリ宛モ滿ヲ持スルノ弩タルベキナリ是カ爲メニハ勤務ノ餘暇最モ多キ當滯在中ヲ好期トシ近キ戰例中先輩ノ遺烈ニ鑑ミ或ハ示サルタル參考書ニ據リ研鑽ス可キモノ妙カラズ例ヒバ戰場連繫方法ノ如キ命令傳達法ノ如キ戰場工事ノ如キ砲兵若クハ機關砲ニ對スル動作ノ如キ或ハ夜間ノ動作等數ヘ來レバ研究ス可キ事例ハ多項ニシテハモ亦足ラザルノ感アリ就中下士ノ動作トシテ斥候傳令夜間(特ニ暗夜)諸動作ノ如キハ怠ラス練習スルヲ

要ス

六〇

右ハ一般ニ熟知スル所ニシテ已ニ攻究ニ餘蘊ナキハ深ク信スル所ナルモ凡ソ前述ノ諸件ノ如キハ朝ニ鍛ヒ  
夕ニ鍊リ其真髓ニ達セザレバ應用ニ裕ナラザルヲ信ス故ニ煩ヲ忍ンテ茲ニ再言スル所以ナリ請フ之ヲ諒  
セヨ

終リニ臨ミ一言謝意ヲ表ス可キコトアリ何ンソヤ隊中一般ニ共同一致ノ精神ニ富ムト各自衛生ニ注意シテ  
患者ノ數僅々ナルコト之レナリ

爾後益々斯心ヲ擴充シテ遺憾ナカラシム

明治三十八年五月二十三日

後備歩兵第三十二聯隊長

嶋村耕作

師團ノ全部及其附屬部並ニ諸材料等凡テ上陸ヲ終リ諸準備ヲ整ヒ北進ノ時期ヲ待テツ、アレトモ彼ノ破羅的  
艦隊ハ支那海附近ニアリテ一舉將ニ浦鹽ニ進航セントスル情況ナレハ大海戰將ニ近キアルヘク而シテ其結  
果ハ直接當方面ノ進止ニ關スルコトトテ一同鶴首其快報ヲ待テツ、ナル折柄五月二十八日左ノ情報ニ接セリ

一 影嶋望樓長報告廿七日午后四時二十八分發全八時五十二分着敵艦隊ノ一部東水道ニ出テ彼我艦隊激戰中  
一部ハ朝鮮海峽ニ來ルモノ、如シ

二 沖ノ嶋發電午後十一時二分着(發電時刻不明)

敵艦隊形亂ル

三 同日午后五時三十分發

彼我艦隊漸次北方ニ行ク砲聲益々盛ナルモ霞ノ爲メ見ヘズ

四 午後十一時四十五分(發電不明)

海戰午後二時ヨリ夕刻ニ至ル迄繼續セシモ午後七時頃砲聲止ム敵ハ北ニ向ヒ逃走ス我艦隊ハ進擊中

全時軍參謀長ヨリ左ノ通報アリ

昨夜一時半聯合艦隊ノ報告左ノ如シ

一 聯合艦隊ハ沖ノ嶋附近ニテ敵艦隊ヲ迎撃シ大ニ之ヲ破リ敵艦少ナクモ四隻ヲ擊沈シ其他ニモ多大ノ損害  
ヲ與ヒタリ我艦隊ニハ損害少ナク驅逐艦水雷艇隊ハ日没ヨリ襲撃ヲ續行ス

今朝「ナシモス」形一隻對嶋ノ「シウシ」灣ニ漂ヒ居ルトノ報アリ

二 元山防備隊司令官ヨリ通報情報ニ依レハ本日午前九時三十分頃ヨリ鬱陵嶋附近ニテ砲擊中ナルカ如シ  
起ヒテ三十日左ノ情報ニ接ス

二十八日正午マテニ得タル情報

一 二十七日ノ戰鬪ニ於テ敵艦四隻ヲ擊沈ス

二 二十八日「アドミラルナイモフ」(五、八八七噸)ハ對嶋東北海岸ニ於テ沈沒韓國竹邊沖ニ於テ午前十一  
時五分「オレグ」(六、六四五)形一隻擊沈ス

三 「シマイウエオキ」(一〇、四〇〇)及「ドミトリドンスコイ」(六、二〇〇)ヲ捕獲セリ

四 長門見嶋ニ敵ノ水兵五十五名短艇ニテ上陸直チニ降服内十名ノ負傷者アリ

二十八日午后七時迄テ得タル情報

- 一 敵ノ驅逐艦一隻韓國竹邊沖附近ニ於テ我新高叢雲ニ追ワレ陸ニ乗上ケ後沈没セリ
  - 二 「カムチャカ」(七、二二五)ヲ撃沈ス
  - 三 廿七日撃沈セル中戰團艦「ボロシノ」(一三、六五〇)アルカ如シ
  - 四 廿八日午前捕獲セシ戰團艦及巡洋艦ハ共ニ沈没セリ
  - 右ノ外病院船ニヲ捕獲セリ該病院船ハ皆無線電線ヲ有シ從來哨艦ニ服シ居レリ
  - 五 韓國鬱陵嶋西沖合ニテ敵ノ驅逐艦一ヲ捕獲シ一ヲ撃沈中
- 全日午后八時四十分左ノ通報ヲ受領ス

去ル二十七日以來繼續シタル日本海戰ニ於テ昨日午后四時迄ニ得タル敵ノ損害左ノ如シ

撃沈戰團艦二隻巡洋艦五隻裝甲海防艦一隻特務艦二隻驅逐艦三隻其他戰團艦巡洋艦ノ内三隻捕獲戰團艦二隻裝甲海防艦二隻特務艦一隻驅逐艦一隻

捕虜三千以上我艦隊ニ損害ナシ

此數次ニ於ケル情報ハ如何ニ北韓軍ニ愉快ヲ與ヒタルカ萬歲ノ聲ハ各所ニ起リテ士氣大ニ奮フヲ認ム蓋シ當方面活動ノ期近ツキタレハナリ去ル三月三十一日吉州戰團以來敵兵大舉南下スルノ情報切リナリシガ多クハ針小棒大ノ虛報ニ屬スト雖モ五月二十九日得タル信スベキ情報ニ依レハ當方面ニ於ケル敵ノ兵力左記ノ如クニシテ前日ニ比シ多少敵ノ南下シタルナランカ

一 煙	秋	三千名	二木許偶	七百名
三 瑯	春	一千六百名	四地他守	五百名
五 茂山板長		五十名	六會	二百名
七 富	寧	三百名	八輪	百名
九 鏡城及其附近		二千名		

六月九日漸ク前進ノ期到來左ノ師團命令アリ

後備第二師團命令

- 一 敵情ニ就キ著シキ新報ヲ得ス
  - 二 師團ハ鏡城ニ向テ前進セントス
  - 三 後備步兵第五十六聯隊第一大隊ハ城津鏡城間ノ兵站守備ニ任シ兵站監ノ指揮ヲ受クベシ
  - 四 爾餘ノ諸隊ハ別紙前進計畫ニ基キ前進スベシ
- 但シ第一梯團ハ前衛トナリ明川ニ達セハ其東北方地境場附近ノ高地ヲ占領シテ後續梯團ヲ掩護スベシ特ニ一部隊ヲ黃谷仲坪ヲ經テ立石ニ通スル道路ヲ前進セシメ又茂山方向ニ對シ警戒スルヲ要ス爾後ノ行動ニ關シテハ更ニ命令ス
- 五 給養ハ倉庫給養ニ依ルベシ
  - 六 余ハ第三梯團ト共ニ行進ス

別紙前進計畫表摘要梯團區分左ノ如シ

師團長 三好成行

六四

第一梯團乃チ前衛

長 池田少將

後歩第十七旅團司令部

後歩第三十二聯隊

全 第四十七聯隊本部並第二大隊騎兵中隊

山砲大隊(第三中隊欠)

工兵中隊

機關砲一小隊

第二梯團

長 梅地大佐

後歩第三聯隊

山砲大隊第三中隊

第三梯團

長 内藤中佐

後歩第五十六聯隊(第一大隊欠ク)

機關砲隊(一小隊欠)

師團司令部

第四梯團

長 酒井少將

後歩第十八旅團

後歩第二十五聯隊第一大隊

全 第四十七聯隊第一大隊

獨立野戰砲兵中隊

第一梯團宿營地豫定左ノ如シ

六月十日	吉州
十二日	明川
十四日	全
十六日	全
十八日	山水浦
二十日	朱乙温場

六月十一日	古站
十三日	明川
十五日	全
十七日	全
十九日	柴門洞
廿一日	鏡城

第二梯團以下逐次一日ヲ遅ル、モノトス

第十四 泉鏡間行軍

六月十日午前九時第一梯團ハ其前衛ノ先頭ヲ以テ泉浦附近ノ前哨線ヲ出發シ豫定ノ如ク吉州古站ニ宿營シ  
 六月十二日明川ニ着第四十七聯隊ノ一ヶ中隊ハ右翼前哨トナリ城基附近ニ位置シ右ハ富潤ヨリ左ハ立石巖西  
 南方高地ニ亘リ前衛ハ前哨トナリテ右翼立石巖西南方高地ヨリ左翼松坪ニ亘リ共ニ鏡城方向ニ對シ營大隊第  
 三中隊ハ明加洞附近ニ位置シ茂山方向ニ對シテ警戒ス爾餘ノ諸隊ハ明川ニ宿營セリ翌十三日我搜索騎兵ハ良  
 鏡附近ニ於テ敵騎約三十ト衝突シタルモ彼我損害ナク敵ハ直チニ退却シテ其踪跡ヲ失ヒタリ他ハ凡テ前日ノ

姿勢ヲ以テ滞在セリ

六月十五日後歩第四十七聯隊ハ水南ニ向テ前進セリ蓋シ水南東方二里某港灣ニ糧食ノ揚陸スルヲ掩護セン  
カ爲ナリ六月十七日大隊ハ城基ニ前進シ後歩第四十七聯隊第八中隊ト交代右翼前哨ニ服ス翌十八日右縱隊ト  
ナリ良鏡ニ前進ス午后三時良鏡ニ着シ河南及良鏡ニ分宿セリ全夜後歩第四十七(一大隊欠)及機關砲小隊ハ  
小洞附近ニ位置シテ前哨トナリ爾餘ノ諸隊ハ水南及其附近ニ宿營セリ全夜左ノ情報アリ

一 敵ノ砲二門ハ鏡城西北方約二千米突ノ高地ニ在リ尙ホ獨津北方ノ高地ニモ砲二門海岸ニ向ヒ排列シアリ

城内ニハ砲四門アリト

二 鏡城ノ露兵ハ荷物ヲ梱包シ運搬ノ準備ヲナシ四ヶ所ニ積堆セル馬糧中最大量ナルモノニハ昨夜火ヲ放ツ  
ヲ目撃セリ元帥臺及生氣嶺ニハ各百餘騎駐屯警戒シアリト

七月十八日後歩四十七ハ前兵トナリ石乙陽ニ向ヒ第四中隊ハ左側衛トナリ海岸道ヲ船九味ニ向ヒ第六中隊  
ハ左側衛トナリ他ハ本隊ニアリテ柴門洞ニ向ヒ前進セリ全日午後一時柴門洞着全時敵ハ鏡城ヲ退却シツ、ア  
リ生氣嶺ニハ敵ノ隻影ナキノ情報ニ接ス全夜前兵ハ南部院洞ニ前衛本隊ハ柴門洞及其附近ニ而シテ當大隊ハ  
柴門洞東方約一里海岸ノ數部落ニ宿營シ第三中隊ハ接王附近ニ位置シテ海岸道ノ警戒ニ任シタリ翌十九日前  
衛ハ朱乙温場ニ向ヒ前進シ第三中隊ヲ右側衛トシ海岸道ヲ朱乙温場東方海岸路下ニ向ヒ前進セシム全日正午  
前衛本隊ハ朱乙温場ニ着ス時ニ敵ハ尙ホ鏡城ノ退却ヲ續行中ナルノ情報ニ接ス全日前兵タル後歩第四十七ハ  
鏡城占領ノ目的ヲ以テ該地ニ向ヒ前進ヲ續行シ前衛本隊ハ朱乙温場及ヒ其附近ニ第三中隊ハ路下ニ宿營セリ

而シテ當大隊ハ前兵ト前衛本隊トノ聯絡ヲ保ツノ任ニ當リ十里程生氣嶺及四郷ニ分宿セリ全夜我前兵ハ確實  
ニ鏡城ヲ占領シ敵ハ全ク全地ヲ退却シタルノ報告ニ接セリ

七月二十日午前十一時前衛本隊ノ諸隊ハ鏡城着全城占領ヲ祝シテ分列式ヲ施行シ北門外ニ於テ休憩ス折柄  
右側衛第三中隊無事來會セリ全時輸城附近ニ約二百ノ敵騎停止シアルモノ、如キ情報ニ接ス而シテ我前兵ハ  
水北附近ニ停止シアリ前衛本隊ハ今夜許山洞附近ニ宿營スベキ命ヲ受ケ午後二時鏡城ヲ出發シ全四時宿營地  
ニ到着セリ前兵タル後歩四十七ハ水北ニ位置シテ右翼前哨トナリ當大隊ハ羅北ニ位置シテ左翼前哨ノ任ニ當  
リ爾餘ノ諸隊ハ許山洞及其附近ニ宿營セリ前哨第一中隊ハ其小哨ヲ弘浦ニ出シ警戒配備中敵騎約二百來襲シ  
猛烈ナル射撃ヲ爲シツ前進シ來レリ小哨長石川少尉ハ部下ヲ指揮シテ敏速ニ左翼前哨主要ノ高地ヲ占領シテ應  
戰セリ前哨中隊及本隊相次テ應援シ敵ヲ擊退シタリ敵ニ十數名ノ死傷者アルモ巧ニ之レヲ收容シ去レリ元ヨ  
リ馬足ヲ利用シ迅速ノ行動ヲ爲スノ敵ニ對シ到底徒歩ノ之レヲ追及シ得ザルハ又止ムナキノ事ニ處スト雖ト  
モ隔靴搔痒ノ感ニ堪ヘザルモノアリト全夜前哨中隊ハ康德ニ位置シテ輸城方向ニ對シ警戒セリ

#### 泉浦鏡城間宿營地ノ景況

吉州明川ハ共ニ郡衙所在ノ地ナリ頗ル廢頽シタルモ石造ノ城壁アリ戸數各八百餘吉州ハ稍富裕ナルカ如シ  
ト雖モ明川ハ甚ク疲弊ノ状態ナルヲ認ム其他ノ各宿營地ノ如キハ全ク僻地ノ寒村ナリ殊ニ昨年以來露兵常ニ  
往復シテ奪掠ラザルナク今又我軍ノ北進ニ當リ戰鬪各所ニ起ルベキヲ豫想シ人民多クハ避難シテ沿道村落  
ノ如キ概シテ空屋ナリキ

鏡城ハ威鏡北道觀察府所在ノ地ニシテ堅固ナル石造ノ城壁アリ南北三百米突東西七百米突餘ノ長方形ニシテ四門ヲ通セリ四隅ニ櫓郭アリ彼是レ相應ジテ壁下ノ側防ニ備フ南門ハ二層樓ニシテ高ク登ヒ郊外萬頂ヲ一望スベシ城内ノ大部ハ諸官衙兵營等ニシテ民屋ハ纔カニ東隅ノ一部ヲ占ムルノミ市街ハ城外ニシテ戸數二千餘城ノ西百部ヲ圍繞ス城壁ノ處々崩壞セル官衙ノ朽敗セル市街ノ不潔ナル等ハ亡國ニ瀕セル韓土ノ元ヨリ免ルベカラズト雖モ五百年前ニ於ケル創築當時ノ盛況ハ轉々追想スルニ足ルベシ當城元ト鎮衛大隊駐屯地タリシカ昨年四月露兵南下ニ際シ之レト衝突シテ退却セリ爾來露軍此地ニアリテ物資ヲ掠奪シ婦女ヲ辱シ亂行ヲ極ムルコト歲餘人民塗炭ノ苦ニ陥リシト今皇軍ノ北進ニ依リ仁慈ナル軍政ノ下居民始メテ蘇生ノ幸福ヲ詒フ

#### 運搬及道路ノ景況

糧食ノ運搬ハ此行軍間ヲ三次ニ區分セリ其第一次ハ臨暎驛明川間ニシテ第二次ヲ水南鏡城間トナシ鏡城以北ヲ第三次トサセリ第一次ハ臨暎驛倉庫ヨリ第二次ハ水南東方二里ノ某港灣ニ揚陸シタルモノ第三次ハ鏡城東方約一里獨津港ニ揚陸シタルモノヲ發送セリ而シテ各次ノ運搬ハ糧食縱列及ヒ手車編成ナル數百人ノ軍役夫並ニ地方運搬材料(牛車及牛馬)ニ依レリ道路ハ露軍ノ改修セルモノニシテ頗ル良好故ニ後方勤務ハ比較的好況ヲ呈シテ供給ハ常ニ需要ヲ滿タシ給養取ヘテ欠乏ヲ來サザリシハ海路並用ノ利以テ然ルヲ認ム

#### 第十五 康徳及南夕附近ノ滯陣

六月二十一日淺黃小隊ハ敵情偵察トシテ輪城ニ至リ敵ノ退却方向及其兵力等有利ノ報告ヲ齎ラセリ其報告ニ依レハ敵ノ大部ハ會寧方向ニ其一部ハ富居方向ニ而シテ敵ノ校習ナル其退却方向ヲ暗マタン爲メ其主力ヲモ始メ富居ニ退却シ迂路ヲ採リテ會寧方向ニ向ヒタルモノ、如シ

六月二十二日我搜索騎兵及其支援タル後歩四十七ノ一ヶ中隊ハ輪城北方向洞ニ於テ敵騎約五十ト衝突シタルモ敵ハ直チニ退却セリ

六月二十三日警戒配備ノ都合上旅團司令部ハ羅北ニ聯隊本部及機關砲一中隊並ニ大隊本部ハ康徳ニ第二大隊ハ羅南及羅赤洞ニ後歩四十七ハ沖坪東村水北ニ騎兵中隊ハ水南ニ砲兵大隊ハ芦田許山洞羅北ニ工兵中隊ハ磨岩ニ第四中隊ハ龍康ニ宿營ヲ移轉セリ但シ第一中隊宿營元ノ如シ而シテ第二中隊ハ康徳場店ニ第三中隊ハ松亭ニ位置シテ前哨中隊トナリ輪城及茂山方向ニ對シ警戒セリ

六月二十三日師團司令部ハ鏡城ニ着シ滯陣ニ關スル命令アリ其要項左ノ如シ

- 一 第一梯團ハ依然前衛トナリ許山洞附近ニ位置シ其前哨ヲ以テ慶興會寧茂山方向ニ對シ警戒スベシ
- 二 爾餘ノ梯團ハ爾今其區分ヲ解キ各其固有ノ隸下ニ復歸スベシ
- 三 諸隊(前衛ヲ除ク)ノ宿營地配當

六月二十六日師團ハ爾後ノ前進ヲ準備スル爲メ北關ノ占領地區ヲ輪城附近ニ擴張シ後歩第十八旅團ニ諸兵ヲ附屬シテ前衛トナシ輪城附近ニ位置セシメ慶興會寧方向ニ對シ警戒セシム其慶興方向ニ對スルヲ右翼前哨ト爲シ富寧方向ニ對セルヲ左翼前哨ト稱セリ本隊ノ諸隊又宿營ノ移轉アリ聯隊本部及第二大隊ハ南夕及松亭ニ旅團司令部ハ康徳ニ移轉セリ

七月二日敵騎約三百左翼前哨前ニ出現シタルモ前哨部隊ハ之レヲ擊退セリ爾來敵兵約二百處通附近其一部ハ獠頂ニアリテ彼我ノ斥候ハ數回ノ衝突アリ

七月五日師團司令部ハ康徳及龍康ニ旅團司令部ハ康徳場店ニ而シテ大隊本部及第四中隊ハ南夕ニ第一中隊ハ松峴ニ宿營ヲ移轉ス爾來師團ハ專ラ北進準備ヲ爲セリ糧食ハ輸城ノ東方清津ニ揚陸シ全地ニ積載セラル全港ハ一岬凸出シテ東北風ヲ防キ港内十餘隻ヲ碇泊セシム而シテ會寧方向ニ對スル海運ノ最終點ナルヲ以テ爾後ノ物資ハ皆此港ニ依ルベキヲ以テ諸設備ヲナセリ

七月十九日補充兵三十九名到着各中隊ニ配屬セリ

七月十二日樺太南部上陸隊ハ大ナル敵ノ抵抗ヲ受クルコトナク七月八日早朝「コルサコフ」ヲ占領セルノ情報ニ接セリ

七月二十二日師團命令アリ師團ハ四縱隊トナリ明二十三日ヲ以テ北進行動ヲ起スベク而シテ丸井技隊ハ海岸道ヲ富居方向ニ本隊ハ會寧街道ヲ富寧ニ向ヒ右縱隊ハ丸井技隊ト本隊トノ中間ヲ前進シ多葛洞ヲ經テ白沙峰方向ニ左縱隊ハ本隊ノ左側茂山街道ヲ前進シ龍世洞ヨリ富寧方向ニ轉進スベシト（是レヨリ前丸井旅團ハ北關師團ニ隸屬セラレテ昨日漸ク輸城附近ニ着セリ）

前記ノ如ク師團ハ數縱隊トナリ北進スベク區分セラレタル所以ノモノハ是レ全ク地形上且ツハ當時ノ敵情ニ依ルモノナリ茲ニ輸城以北ノ地形ヲ論ジ以テ讀者諸君ノ參考ニ供セントス

輸城ハ鏡城ノ北四里ニアリテ二百餘戸ノ一邑ナリ北韓ノ二大路乃チ海岸道路及會寧道路ハ此地點ヨリ分岐ス其他此附近ヨリ北行セル道路數條アリ輸城以北圖們江畔ニ至ルノ間ハ地形學上ノ所謂中連山地トモ稱スベキカ起伏セル幾多ノ山岳ハ狹長迂曲セル幾多ノ谷地ト縱橫相交又シ參差トシテ殆ント主支派絡ヲ分ツベカラズ地形甚々錯雜ナリ三々伍々ナル住民地ハ此谷地間ニ散在シ處々又郡邑アリ此住民地ヲ有スル谷地ト谷地トハ各方向ニ通路ヲ有シ鞍部ヲ越ヒテ連絡セラル、ヲ常トス故ニ道路ハ縱橫恰モ道路網ヲ成形セリ而シテ北韓ノ露軍ハ常ニ守勢ヲ執レリ思フニ其任務ハ我軍ニ觸接ヲ保テテ單ニ我軍ノ前進ヲ監視スルニアルモノ、如シ地形前記ノ如キヲ以テ常ニ其兵力ヲ諸道路ニ分布セリ從テ攻勢ヲ執ル我軍ハ勢ヒ數條ノ道路ニ依リ分進スルノ策ハ山地戰術上ノ然ラシムル所以ナリ

尙ホ茲ニ將來北韓ノ經營上輸城附近ハ如何ナル價值ヲ有スルヤノ問題ヲ起シテ一言ヲ附記シ合セテ讀者諸君ノ參考ニ供セント欲ス鏡城ノ北方輸城附近ニ至ル一望ノ平原之レヲ龍城野ト稱ス土地頗ル肥天ニシテ耕地開ケ村落又稠密ナリ居民稍富裕ニシテ古來咸鏡北道ノ富源ト稱セラル而シテ前記ノ如ク輸城ハ北關二大路ノ分岐點タリ且ツ清津港ハ其一隅ニアリ故ニ北韓全地ノ物資ハ凡テ此地ニ集積セラルベク從テ北關全地ニ供給スベキ物資ハ凡テ此地ヨリ分配セラルベシ全地ハ北方ニ對スル軍事上ノ咽喉部ニシテ且ツ又商業上樞要ノ位置タリ將來諸般ノ設備ヲ施サルベク從テ其發達年ヲ追フテ觀ルベキモノアラン

第十六 統屬系並ニ師團ノ編制

後備第十六旅團	後步第三聯隊
全 第十七旅團	後步第三十二聯隊 第一大隊
全 第十八旅團	後步第四十七聯隊 第二大隊
全 騎兵一大隊	
全 山砲兵一大隊	
全 野砲兵一中隊	
機關砲一中隊	
後備工兵一大隊	
全 電信隊	
衛生隊一隊	
第一第二野戰病院	
第一第二歩兵彈藥縱列	
第一第二砲兵彈藥縱列	

韓國駐劄 後備第二師  
軍司令部 團司令部

以上ノ外補助輸卒隊二隊及軍夫三千餘名ハ兵站線ノ輸送業務ニ服セリ

第十七 輸城以北第一次北進行動

七月二十三日午前九時聯隊ハ松峴集合所ヲ出發シ軍隊區分ニ依リ師團本隊ニアリテ前進ス午后一時南部司下洞ニ到リ宿營セリ全夜丸井技隊ハ道洞ニアリテ富居方向ニ右縱隊ハ松幕朴沙洞ニ位置シテ多葛洞及下仇井硯兩方向ニ前衛ハ獐項北方高地ヲ占領シテ富寧方向ニ左縱隊ハ龍世洞ニ到リ富寧及茂山方向ニ對シ警戒セリ當時富寧附近ニアリシ諸兵連合ノ敵ハ其一部會寧方向ニ退却セシメタルカ如シト雖其一部ハ依然多葛嶺附近ニアリ師團ハ明拂曉此敵ヲ攻撃スルノ目的ヲ以テ前衛ハ午前一時獐項ヲ出發シ得ル如ク右縱隊ハ午前二時青溪山ノ頂ヲ越ユル如ク左縱隊ハ午前四時虛通洞西方隘路ニ達シ得ル如ク出發セリ而シテ當旅團ハ本日ノ序列ニ從ヒ師團ノ本隊タリ大隊ハ午後十一時宿營地ヲ發シテ行軍序列ニ入り前進シタルモ敵ハ已ニ退却シテ我前衛騎兵縱カニ敵ノ後衛ニ追接シ十數發ノ追撃ヲ爲セルニ過キズ

七月二十四日正午聯隊ハ富寧ニ着セリ全夜右縱隊ハ倉坪附近ニ前衛ハ古茂山附近ニ而シテ師團本隊ハ富寧及其附近ニ宿營セリ(是レヨリ前左縱隊ハ已ニ本隊ニ合セリ)

七月二十四日午後五時半左ノ師團命令アリ

師團命令  
軍隊區分

右縱隊(變更後ノ右縱隊ナリ)

司令官 後備第十七旅團長 池田少將



後備步兵第三聯隊

後備步兵第三十二聯隊本部並ニ第一大隊

後備騎兵第一中隊ノ半部

工兵第二中隊ノ一小隊

左縱隊ヲ本隊ニ合シ中央縱隊ヲ左縱隊ト改稱ス

一 富寧附近ニアリシ敵ノ一部ハ會寧方向ニ其主力ハ白沙峰方向ニ退却セルモノ、如シ

二 師團ハ富寧附近ニ停止シ前進ノ期ヲ待タントス

三 右縱隊ハ富居附近ニ停止シ慶興德明方向ニ對シ警戒シ其前哨線ノ左翼ハ寺洞附近ニアリ

シ特ニ一部隊ヲ葛麻德ニ出シ前衛ト連絡セシムルヲ要ス

敵襲ニ際シテハ警戒線ヲ固守スベシ

四 前衛ハ倉坪會寧街道上武陵亭間ニ宿營シ右翼ハ東南部全距離南方鞍部ヨリ西北部全距離ヲ經テ待郷徒ニ

亘ル線ヲ警戒スベシ

特ニ一部ヲ楡坪(東西兩村共)ニ位置セシメ茂山ニ通スル道路ヲ警戒スルヲ要ス

敵襲ニ際シテハ葛麻德東南方標高八百八十高地ヨリ梨峰茂山岭ヲ經テ待郷徒ニ亘ル間ヲ固守スベシ

五 本隊ハ現在ノ位置ニ宿營スベシ富寧ノ舍營司令官ハ後歩三三第二大隊長川上少佐トス

六 輜重梯隊ハ下仇井硯ヨリ富寧迄第二糧食縱列ハ楡城ヨリ下仇井硯迄ノ糧秣ヲ輸送スベシ

七 給養ハ糧食縱列ニ依ルベシ分配時刻ハ午后五時分配所ハ富寧東門外畑地

八 余ハ富寧ニアリ

後備第二師團長 三 好 成 行

右命令ニ依リ聯隊本部及第一大隊ハ二十五日午前六時二十分富寧出發午前十時十分倉坪(白沙峰街道上)ニ

着ス折柄後歩第三聯隊ハ倉坪内洞附近ニ宿營シアリシカ白沙峰ニ向ヒ前進シ第十七旅團司令部及當聯隊ハ倉

坪ニ宿營シ第三中隊ハ左翼前哨ニ任セラレ葛麻德ニ向ツテ前進シ他ハ倉坪ニ村落露營ヲナセリ倉坪ハ一小隊

村ニシテ戸數僅カニ二十六戸内旅團司令部六戸聯隊本部一戸ヲ除キ大隊ノ宿營スベキ僅カニ十九戸各中隊ニ

漸ク數戸ヲ配當セルノミ加フルニ家屋極メテ矮少ニシテ宿營最モ困難ナリト雖モ天幕ハ不完全ニシテ用ヲ爲

サ、レハ極メテ狹縮ナルモ強雨ニ洒スニ優レリト全員屋内ニ入ルヲトセリ

第十八 倉坪附近雨中滯陣

午後四時左ノ大隊命令アリ

一 第一中隊ヨリ將校斥候ヲ白沙峰ニ派遣シ前衛タル後歩第三聯隊ニ連絡並ニ其間ノ道路偵察ヲナサシムベ

シ

二 第四中隊ヨリ下士斥候ヲ葛麻德ニ派遣シ前哨第三中隊ト連絡ヲ執ラシムベシ

七五

第一項ノ任務ハ第一中隊角少尉之レニ當リ板本軍曹以下五名ヲ引率シテ出發シ第二項ハ第四中隊軍曹以上六名出發セリ

午後七時左ノ通報アリ

白沙峰北方高地ニ兵力未詳ノ敵兵正面約二個中隊ノ掩護ヲ構成シテ依テ第三聯隊ハ豫定ノ警戒線ヲ探ルヲ能ハズ前衛司令官ハ前面ノ敵ヲ撃退シテ警戒配備ヲ爲スノ必要ヲ認メ正面ヨリ四個小隊側面ヨリ一小隊ヲ以テ包圍シ目下交戦中ナリト依テ後歩第三十二聯隊ハ何時警戒ニ接スルモ直ニ應スルヲ得ル如ク準備シア

午後七時左ノ命令アリ

第一中隊ヨリ二小隊ヲ旅團司令部前ニ出シ本夜徹夜架橋工事ニ従事スベキ工兵小隊ニ援助ヲ與フベシ  
更ニ其中隊ヨリ葛麻德前哨第三中隊應援ノ爲メ一小隊ヲ派遣スベシ

一 右ノ命令ニ接シタル第一中隊ノ二小隊ハ第一項淺黃小隊ハ第二項ノ任務ニ就ケリ強雨益烈シク到底燈火ヲ用ユル能ハズ暗中強雨ヲ冒シテ架橋材料ノ蒐集ニ従事セルヲ數時間其困難命狀スベカラザルモノアリ  
淺黃小隊又暗中強雨殊ニ危険ヲ冒シテ激流ヲ渡ルヲ幾回峻嶮ナル山路ヲ經テ葛麻德ニ至レリ三里ノ行程ニ七時間餘ヲ要シタリ以テ此行軍ノ困難ナリシヲ知ルベキナリ

午後十時五十分旅團命令ニ依リ第二第四中隊ニ緊急集合ヲ命セラルル午後十一時二十分第四中隊ノ全部及第二中隊ノ半小隊漸ク集合セリ蓋シ第二中隊集合地ニ向ツテ前進スルニ當リ大隊本部前ノ河川ヲ通過セザルベカラズ緩カニ其先頭タル半小隊通過セルニ際シ橋梁ハ流失セリ此時已ニ増水一米餘激流恰モ矢ノ如クニシテ到底徒渉スルヲ得ス百法計ヲ盡スト雖モ遂ニ其目的ヲ達セズ中隊長ハ此情況ヲ報告セント欲スルヲ切ナレモ傳達ノ道ナキニ苦心セリ折柄勇敢ナル藤木一等卒ナルモノアリ奮勵進シテ此任ニ當リ流レヲ亂シテ渡河ヲ始メタリ中流ニシテ押流サレ忽ニシテ彼レノ姿ハ暗中ニ葬ラレ暫ク其生死ヲ知ル可カラザルニ至レリ天ハ此ノ勇敢ナル兵ヲ失ハス彼レハ流サル、一數十米突ニシテ漸ク對岸ニ達スルヲ得タリ暗中ニ藤木一等卒ハ渡河シ得タルヲ報ジ命令ヲ傳達スヘク走り去レリ

緊急集合セル部隊ハ午後十一時二十分白沙峰ニ向テ前進セリ途中角將校斥候ノ歸來セルニ會ス其報告ニ依レハ前衛タル第三聯隊ハ本日午後六時ヨリ白沙峯北方高地ノ敵ヲ攻撃シ交戦一時間ノ後敵ヲ北方ニ撃退セリ敵ノ死傷約五十ヲ下ラズ我死傷四名ナリト茲ニ於テ旅團長ハ緊急部隊ヲ歸還セシメ只宮森中尉以下二十名ノ護衛ヲ附シテ白沙峰方向内洞ニ向ヒ前進セリ

是レヨリ前第三中隊ハ非常ノ困難ヲ排シテ日没後葛麻德ニ達シ警戒ノ任ニ當レリ二十六日午前一時三十分大隊ニ到着シタル報告ニ依レハ全地ニハ二十四日マテ敵兵約百餘アリシモ二十五日以來一兵モ見サル旨土人ノ答フル處ナリト

前哨第三中隊ニ増援トシテ派遣セラレタル淺黃小隊ハ二十六日午前四時三十分葛麻德着敵ニ就テ異狀ナキヲ報告シ全日夕歸還セリ前日來ノ降雨ハ諸河川ノ氾濫ヲ來タシ増水殆ント丈餘而シテ流水ノ急激ナルコト矢ノ如シ倉坪附近ハ狹長ナル谷地ナリ人家ハ點々各處ニ散在セリ無名川ハ此谷地間ヲ迂曲流過セリ故ニ宿營地

ハ河川ニ依テ兩分セラレ電線ハ切斷シテ交通全ク杜絶河川ヲ隔テ相見テ只呆然タルノミ

二十六日午前八時神保大尉自ラ百法ヲ講シ網渡通信法ヲ架設スヘク盡力セリ其部下伊藤上等兵ナルモノアリ尤モ抛石法ニ妙アリ途ニ其目的ヲ達シ鐵線ヲ加シ以テ對岸ニ通信スルヲ得且ツ電線ヲ連結シ漸ク前衛ト通信スルヲ得タリ作戰上ノ利益シ大ナリシヲ認ム

二十六日午后十時四十分左ノ命令アリ

右縱隊命令 七月二十六日午前八時於内洞

- 一 降雨止ムノ徵ナシ故ニ各隊ニ於テハ目下携行セル糧秣ヲ半量宛給與シ他ハ現地調辨（人ニハ粟豆馬鈴薯馬ニハ粟青麥豆等）ニヨリ以テ少クモ一週間分ノ準備ヲ爲スベシ
- 二 各隊ハ左ノ如ク急造架橋ニ從事スベシ

後歩第三聯隊第一大隊ハ全隊宿營地ヨリ後歩第三二聯隊ノ宿營地間

昨二十五日午后天候不良ノ徵アリ河川氾濫糧食運輸ノ道絶タンコヲ恐レ成ルベク多クノ糧食ヲ急速ニ運搬セシメント欲シ大行李員ノ全部ヲ三里ノ行程ナル富寧ニ向ヒ派遣シタリ全行李ノ人馬ハ今朝以來雨中數里ヲ行進シ而シテ今又此ノ困難ナル任務ヲ受ク其勞苦頗ル烈シト雖モ彼等ハ皆ナ勇奮シテ去レリ彼等ノ曰ク輸卒ノ國家ニ盡スベキハ乃チ此時ナリト其忠勇誠ニ賞スベキナリ其後天候益々不良降雨益々強ク時々刻々ニ増水スルヲ以テ糧食運搬ノ危險ヲ慮リ第二中隊佐藤特務曹長以下卅六名ヲ糧食運搬援助トシテ急行追及セシメタリ爾後増水ノ狀況前記ノ如ク交通全ク杜絶スルニ至レリ大行李及佐藤特務ノ一行ヨリ何等ノ報告ナキヲ以テ

二十六日午前第二中隊渡邊上等兵以下數名ノ斥候ヲ出シ川ノ左岸山腹ニ添ヒ下流最賢洞方向ヲ搜索セシメタルニ全斥候ハ全日午后六時歸還其報告左ノ如シ

- 一 本日午后二時頃最賢堂對岸ニ達シ左ノ諸件ヲ確ムルヲ得タリ
- 二 最賢洞ニハ牧野主計到着シアリ糧秣ハ全地ニ到着シアラズ
- 三 第二中隊ヨリ出シタル外衛兵ハ牧野主計ニ於テ給養シアリ
- 四 糧食運搬援助ノ爲メ派遣シタル佐藤特務曹長一行ノ内伊藤上等兵以下七名ハ最賢洞ニテ其言フ處左ノ如シ
- 五 昨日午后十時頃運搬隊ノ一行ハ泇洞ニ到着セリ全所ニハ糧食未タ到着シアラズ泇洞富寧間ハ河川汎濫通過スルヲ得ズ

六 余ハ昨夜十一時佐藤特務曹長ノ命ニ依リ此情況ヲ報告スベク倉坪ニ至ラントシ當所マテ來ルモ出水ノ爲メ其意ヲ果サ、ルヲ遺憾トナス此任務ノ果シ得ザル旨ヲ佐藤特務曹長ニ通セントシタルモ是レ又増水ノ爲メ泇洞ニ至ルヲ得ズ玆ニ進通谷マレリト

七 昨夜運搬隊ハ全クノ露天ニ露營セシナラン

二十七日拂曉ヨリ大隊全カヲ盡シ大隊本部前ニ架橋スベク方法ヲ講シタルモ増水奔激昨日ニ異ナラズ架橋ノ目的ナキヲ以テ中止セリ全日早朝神保大尉ハ命ヲ受ケ架橋點ヲ搜索セリ全大尉ハ選拔游手六名ヲ引率シ河川ノ左岸ニ添フテ遡レリ午前十時歸還宿營地ノ上流約八百米突ノ點ニ於テ恰好ノ架橋點ヲ發見シタル旨報告セリ故ニ全日午后第一第四中隊ニ命シ工兵小隊ト協力架橋セシム午后四時人馬一列行進ニ差闕ナキ橋架

ハ完成セラレ兩岸始メテ交通スルヲ得タリ之レヲ薯食橋ト稱セリ蓋シ薯ヲ食シテ作業シタルヲ意味スルナリ  
 三十日河水稍減シタルヲ以テ第一第四中隊ハ大隊本部前ニ第二中隊ハ宿營地西端ニ架橋シ翌三十一日共ニ  
 完成セリ前日來交通運輸全ク杜絶糧食欠乏馬鈴薯ヲ食シテ漸ク飢餓ヲ醫スルノミ糧道ヲ求メントシテ山地ヲ  
 偵察スルヲ連日漸ク二道ヲ得タリ一ハ石川少尉偵察ノ結果新基洞ヲ經丸井技隊ノ所在地タル富居方向ヨリ一  
 ハ佐藤特務曹長ノ偵察ニ依リ最賢洞北方山上ヲ通過シテ冷洞ヨリトス共ニ險難ニシテ道形ナキノ山地ナリ各  
 將校ハ部下ヲ指揮シテ糧食運搬ニ從事セリ下士以下各人一斗ヲ負擔シ險崖ヲ攀登シ激流ヲ徒涉セリ一步其踏  
 ミ處ヲ失ツンカ身ハ忽チ崖下ニ粉粹スベク或ハ激流ノ藻屑ト化センノミ其危險ナルヲ彈雨ノ裡ニ奮闘スルト  
 何ソ夫レ異ナランヤ勇健ナル我士卒ハ生死ノ間髪ヲ入レザルノ危難ヲ冒シテ連日糧食運搬ニ從事シ以テ諸隊  
 ノ飢餓ヲ救フニ至レリ七月二十三日以來ノ降雨三十一日ニ至リ漸ク霽レ茲ニ始メテ天日ヲ拜スルノ愉快サヨ  
 七月三十一日左記各項ノ通報アリ

#### 軍參謀長通報

原口師團ハ去ル二十四日「アルコワ」(アレキサントロースキ南方)ニ上陸ヲ始メ大ナル抵抗ヲ受クルヲ  
 ナク上陸ヲ終レリ敵ハ全所ヲ燒キテ退却セリ

#### 師團ノ通報

輸城附近ハ一帶ノ滄海ト變ジ嶋内里ノ如キハ全ク交通ヲ遮斷セラレタリ  
 清津ヨリ輸城ヲ經テ下仇井硯ニ至ル間ハ船便ニテ糧秣ヲ輸送シツ、アリ

#### 丸井技隊ノ通報

北部加馬院附近及基洞ニハ二十九日夕マテ敵ノ隻影ナキヲ確實ナリ

#### 左縱隊ヨリ通報

二十九日午前茂山嶺前哨前面ニ少數ノ斥候出沒シ午后四時敵ノ騎兵約十騎前進シ來リシモ直チニ北方ニ退  
 却セリ古豊山附近ニハ今尙ホ敵騎宿營シアルモノ、如シ

#### 第三聯隊ノ通報

大鴻雁河北端ニ出セル停止斥候ノ報ニ依レハ敵ノ騎兵八騎全地北方二百米突ニ前進シ來リシモ我レヲ見テ  
 退却セリ新鳳ニ派遣セシ將校斥候ノ報ニ依レハ同地ニハ若干ノ敵兵アルモノ、如ク全村端ニハ敵ノ步哨アル  
 ヲ認メタリ

八月二日ノ情報ニ依レハ當面ノ敵情大凡左ノ如シ

中嶋附近ニ其主力ヲ置キ白沙峰及茂山嶺等ノ我前哨ト對峙セル敵ハ步騎兩兵ニシテ其兵力約五千其他會寧  
 及鹿野附近並ニ海岸道等ニアル敵ノ諸兵ヲ合セ要スルニ當時團們江ヲ渡リテ南下セル敵ノ兵力ハ約三萬ヲ下  
 ラサルモノ、如シ

八月二日淺黃中尉部下ヲ指揮シテ最賢洞冷洞間ノ架橋工事ニ從事シ翌二日完成糧食運搬上至大ノ便ヲ與ヒ  
 各兵漸ク二斗ヲ負擔シ道路ニ依テ運搬スルヲ得タリ爾來大隊全部ハ日々糧食運搬及道路修繕等ニ從事セル  
 十數日間ナリキ滞在以來各方面ノ前哨ハ敵ト相距ル僅カニ三四里ニ過キス彼我ノ斥候ハ時々衝突セリ

八月四日前哨第三中隊ヨリ左ノ報告アリ

本日午前四時三十分敵情及民情偵察トシテ南部全距離方向ニ派遣シタル關口將校斥候ハ午告五時歸還其報告左ノ如シ

八二

- 一 本日午前七時三十五分偵察ノ結果南部全距離ニハ敵ノ隻影タニナキヲ確カム
  - 二 本日午前九時四十分全距離北方約千五百米突ニ在ル標高九四九高地附近ニテ其西北方約千五百米突ノ高地ニ一人ノ展望兵アルヲ目撃シタルニ約二十分ノ後其影ハ隱滅セリ想フニ我レヲ目撃シタル爲ナランカ
  - 三 午后零時五十分標高九四九高地ノ西北方約千八百米突ニアル雜樹林附近ニ出テ古豊山附近ヲ望見シテ得タル敵情左ノ如シ
  - 一 古豊山本道右側雜樹林附近ニハ幕營ニテ張リタル小哨ラシキモノヲ見ル(騎兵約二三十騎)
  - 二 本道上寺洞ニ通スル雜樹林ニハ敵ノ復哨アルヲ見ル
  - 三 古豊山ヨリ標高五一五高地西方鞍部ヲ經テ南部全距離ニ通スル道路上ニハ下士哨ラシキモノアルヲ見ル
  - 四 古豊山城內東北隅ニハ約三十頭以上ヲ容ルベキ馬小屋ノ新築シアルヲ見ル又其附近歩哨ノ倚立シアルヲ見タリ
  - 五 敵ノ騎兵七八騎ハ城外ノ哨舍附近ヲ乘馬ニテ往來シツ、アルヲ見ル
  - 六 寺洞及須岸洞東方高地ニ一ヶ所又須峰洞北方標高五三六高地ニモ二個ノ掩堡アルヲ目撃セリ
- 八月四日左ノ訓示アリ

先般康德附近ヲ發スルニ臨ミ本職ハ諸子ニ若干ノ希望ト注意トヲ與ヒ置ケリ爾來十數日不測ノ天災突如トシテ到ル所謂韓國ノ兩期ナルモノヲ實驗セリ而シテ諸子能ク其欠乏ニ克チ困難ニ克チ又勞役ニ克チツ、アリ本職ハ大ニ其希望ノ徒爾ナラザルヲ喜フ然リト雖モ前程尙ホ遠遠數倍ノ欠乏ト困難トハ相繼テ到ラン抑モ戰爭ノ勝敗ハ劔戟接衝ノ輸贏ニ非スシテ困苦缺乏ニ堪ユル忍耐ノ競争ナリ是レ近ク日露戰爭ノ經驗ニ由テ諸子ハ己ニ其然ルヲ知ラン

今ヤ露領ヲ距ル甚タ遠カラズ諸子ノ奮勵ヲ俟ツ眼前咫尺ノ間ニ迫レリ本職ハ軍旗ノ下共ニ露境侵入ノ第一歩ヲ得ンコトヲ期スルニ際シ聊カ婆心ヲ述ベ其注意ヲ喚起セントス

一 軍紀ハ軍隊ノ神髓ナリ軍紀ナキキハ烏合ノ衆ニ等シ抑モ命令ニ對シ誠心誠意已レヲ空フシテ服行スルハ帝國軍人ノ最大美德ニシテ軍紀嚴肅ナル軍隊ノ徽章ナリ今回我軍ノ連戰連勝ハ實ニ之ニ職由スルコトヲ記臆セヨ

二 敬禮ハ中心ヨリ出テザルベカラズ長老ヲ恭敬スルハ古來帝國ノ本色一家ハ然リ鄉黨然リ一國又然リ況ンヤ我軍隊ニ於テオヤ本職ハ諸子ノ敬禮其中心恭敬ノ眞意ニ出ツルヲ認ム然レモ軍隊ニハ夫々禮式ノ作法アリ宜シク遵守シ上愛シ下親ミ相待テ一致協同ノ美果ヲ收ムベシ敬禮ハ實ニ此眞意ノ發表ニ外ナラズ

三 兵語ニ徵發ナル語アリ然レモ軍隊ハ決シテ各個ノ徵發ヲ許サズ徵發ニハ嚴重ノ規定アリ敵國ニ於テモ相當代價ヲ支拂フヲ常則トス而シテ之ヲ實施スルニハ命令ニ依リ經理官若クハ其他將校ノ監視ノ下ニ行フモノトシテ各個徵發ハ法規ノ許サル所殊ニ言語不通ノ外國ニ在テハ紛紜ヲ醸生シ易ク個人ノ汚辱ノミ

八三

カハ軍隊ノ名譽ヲ害シ法律ノ罪人トナルニ至ル恥チ且ツ戒飾セザル可ケンヤ

四 歩兵銃及銃剣ハ歩兵唯一ノ武器ニシテ馬匹ハ行李附其他乘馬本分者ノ主ナル兵器ナリ共ニ細心注意シ之レヲ愛護シ必要ニ際シ連續ノ使用ニ堪ヒシメザルベカラズ

五 彈藥ノ浪費ハ敵ノ輕侮ヲ招キ火器ノ効力ヲ失ヒ時期ニ先チ彈藥ヲ射盡シテ敗戦ノ基ヲナス故ニ數多ノ場合ニ於テハ騎兵ニ對スルモ六百米突以外ニ於テ應射セザルヲ要ス勝利ノ月桂冠ハ敵ノ大部隊猛進スルニ係ハラズ從容トシテ好機ニ處スル者ニ歸スル事ヲ記憶スベシ

六 戦闘ノ勝敗ハ忍耐ノ程度ニ因テ決ス劍電彈雨死傷算ナキ時ニ當テハ敵ノ損害モ亦我レト同等若クハ以上ナルベシ則チ我ノ困難ヲ感スルキハ敵兵亦困難ヲ感スルノ時ナリ此機ニ於ケル忍耐一分ハ勝敗ノ決ヲナス兵力ノ多寡ノ如キハ必スシモ問フ所ニアラズ瞬時ノ耐忍ハ能ク不利ヲ轉シテ勝利ヲ得セシム本職ハ此等ノ時機ニ於テ諸子ノ増々其光明ヲ發揮スルヲ疑ハズ

七 健康ハ幸福ノ母戦闘ノ最大要素ナリ時方ニ炎暑ニ向フ各自自愛シ戰友相戒メ嗜臍ノ憾ナカラシムコトヲ期

セヨ

明治三十八年八月五日

聯隊長 嶋村耕作

八月五日得タル樺太軍ノ狀報左ノ如シ

樺太軍ノ情況

七月二十八二十九ノ兩日間ニ「パウラントオノル」ノ敵ヲ攻撃シ之レヲ撃退セリ三十日午前敵ノ軍使降參

書ヲ携ヘ我軍門ニ來レリ其要旨左ノ如シ

綑帶材料醫藥ノ欠乏並ニ負傷者ニ對スル治療不可能ハ人道上ノ感覺ニ依リ予ヲシテ閣下ニ向ヒ戦闘ノ中止ヲ申込ムノ止ムヲ得ザルニ至ラシメタリ

我軍回答ノ要旨左ノ如シ

一 總テノ軍需品及官ニ屬スル總テ動産不動産ヲ現在ノ儘引渡ス

二 行政及軍事ニ係ワル總テノ圖書類ヲ引渡ス

以上ノ承諾ノ回答ヲ三十一日午前十時迄ノ第一「ハムタサ」ニ提出スヘキトナシ其時刻ニ回答ヲ得サレハ直チニ攻撃ヲ實施スルコト三十一日午前七時我追撃隊ハ第二「ハチタサ」ニ進ミ攻撃準備ノ姿勢ヲ取レリ此日我全權小泉大佐敵ノ全權大佐「トリヒラチ」ト第一「ハムダサ」ニ會見ノ結果我呈出條件ニ一モ異議カク軍務知事「中將「チアブノフ」以下將校約七十下士以下約三千二百人ハ悉ク捕虜トナレリ軍司令官ハ敵ノ無條件降服ニ對シ特ニ軍務知事ニ帶劔ヲ許可セリ

八月七日右縦隊ノ前衛在白沙峰ナル第三聯隊ヨリ得タル情報左ノ如シ

石井偵察隊ハ午前五時全議尙洞ニ於ケル敵ノ前哨部隊（約五十騎）ヲ撃攘シ松坪ニ向ヒ前進松坪東方高地ノ突出部ニアリシ優勢ナル敵ノ頑強ナル抵抗ヲ受ケ目的ヲ達セズ死傷五六名ヲ出セリ敵ノ兵力約五中隊到底偵察隊ノカヲ以テ之ヲ撃攘スルヲ能ワズ偵察隊ハ死傷ヲ收容シテ飯還セリ

八月八日補充兵七十名到着各中隊ニ配屬セリ

八月八日得タル情報左ノ如シ

前衛ヨリ古豊山方向ニ出セシ部隊ハ昌斗嶺附近ノ高地ニ在ル優勢ナル敵ニ阻止セラレ前進スルヲ得ス五柳洞方向ニ派遣セシ部隊ハ同地西方高地ノ防禦工事ニ據レル約二百ノ敵ヲ攻撃シ北方ニ撃退シ抄クモ二十名ノ損害ヲ與ヒタリ内沙砲兵ニヲ捕ヒ一ヲ殺セリ其服裝ハ前日ノ間諜ノ言ト同様ナリ我レニ戦死一負傷下士卒三アリト

八月十一日第一中隊ハ内洞ニ宿營ヲ移轉セリ内洞ハ倉坪ノ北方約三千米突倉坪白沙峰トノ中間ニアリ前衛タル後歩第三聯隊及前哨第三中隊トノ聯絡ノ任ニ當レリ

是ヨリ前八月一日以來天候恢復シテ晴天打續ク十有五日此間橋梁ハ架設セラレ道路ハ修築セラレテ交通運輸ノ便又前日ノ比ニ非ズ諸隊ハ日夜糧食運搬ニ從事セリ折柄酷暑ノ候假ヒ北韓ト難厶雨後ノ炎熱ハ又格別ニ感シタリキ奇ナル哉過タル七月廿五日降雨ノ夜ニ當リテ第三聯隊前哨ニ凍死者十數名ヲ出スカ如キ冷寒ヲ生シ而シテ今又炎熱斯ノ如シトハ北韓ノ氣候劇變蓋シ想像ス可ラザル者アリ八月十七日内命アリ師團ハ來ル廿一日北進ヲ始ムベキニ付キ諸隊ハ其準備ヲ爲スベシト然ルニ翌十八日以來降雨連日ニ亘リ諸河川再ヒ汎濫シテ諸橋梁流失スルモノアリ道路壞敗スル處多ク爲ニ師團ノ北進ハ遂ニ見合スベキノ止ムヲ得サルニ至レリ八月十九日師團參謀部ヨリ得タル情報左ノ如シ

一 韓國内ニ於ケル敵兵八月一日以後著シキ増加ナシ

二 目下敵ノ所在ハ判然セザレ厶大凡左ノ如ク判斷ス

1 敵ノ主力ハ行營德明葛布嶺ノ三點ヲ以テ三角形ノ區域内ニ在ルモノ、如シ

2 狙撃歩兵第七聯隊長ノ指揮スル歩兵二大隊騎兵一千五百山砲四門ハ中嶋附近ニ露營シ全地附近ニ稍々延長セシ工事ヲ構成シアルモノ、如シ

3 會寧附近ニ步騎合セテ約三千アルモノ、如シ

4 富寧ヨリ會寧ニ通スル道路ト茂山トノ間ノ敵兵ハ約八百アルモノ、如シ

5 茂山ニハ一旦皆無トナリシモ近來若干ノ敵騎出沒セリ

6 右縱隊ノ前面ヨリ富寧會寧街道ニ亘ル地區主トシテ梨親洞倉坪附近ニ稍々優力ナル敵兵アルモノ、如シ  
(土人ノ言約二千)

7 右縱隊ノ前面ヨリ五幕洞ヲ經テ沙坪ニ至ル谷ニハ千五六百ノ步騎アルモノ、如シ

8 丸井支隊方面ニ於テ海岸道及本道ヨリ慶興ニ至ルノ地區ニハ三千餘ノ步騎兵及砲四門アルモノ、如シ

9 慶源隱城ニモ小數ノ敵兵アルモノ、如シ師團長アニシモンハ行營ニアルモノ、如シ同地ニハ其附近ノ兵ヲ合シ三千餘ノ步騎ト砲若干アルカ如シ

韓國外ノ敵情ニテ我ニ關スルモノ左ノ如シ

1 隱城以南朝鮮間嶋間ニハ敵情詳カナラザレ厶優力ナル敵兵アルノ報ニ接セズ

2 「チタン」ヨリ吉林ニ通スル街道上「オモツワ」ニ至ル迄ハ第二項ニ同ジ

3 「アボブサリ」(慶興ノ對岸)ニハ步騎兵三四千ト砲若干アルモノ、如シ

「ラスドリヌイ」以南圖們江間ニハ合計約三萬ノ敵兵アルモノ、如シ

捕虜ノ言ニ依レハ第八聯隊モ到着シアリト

十八日以來ノ降雨増水ハ淺黃橋ヲシテ流失ノ悲運ニ陥ラシメタルヲ以テ毛内大尉主任トナリ工兵小隊ト協力架橋作業ニ従事スルヲ數日頗ル完全ナル橋架ヲ加設シ且ツ諸隊ハ道路修築ニ盡力シタル結果交通運輸再ヒ舊ニ服セリ

八月二十二日左ノ訓示アリ

訓 示

教育ニ關シハ般更ニ師團長閣下ノ御意圖ヲ体シ參謀長ノ口達アリ豫テ教育ニ就テハ一再トナク指示セシ次第モアリ將校ハ勿論各下級幹部ニ於テモ不懈研鑽ヲ遂ケツ、アルハ予ノ深ク信スル所ナルモ既往ニ鑑ミ將來ヲ推シ又望蜀ノ感ナキ能ゾ豫テ陳ベタルモノ、外更ニ二三記憶ノ儘ヲ左ニ引例シテ各官ノ猛省ヲ望ムト共ニ直接ノ監視者タル諸官ニ於テ確實ニ之ヲ督視シ而モ森嚴ナル軍紀ノ中ニ自然ノ意旨ノ疏通ト情致ノ融和トヲ致シ協同ナル一致以テ我隊ノ名義ヲ顯彰シ克勝ノ美果ヲ收メンコトヲ切望ス尙一言スベキコトアリ軍隊教育ハ元來一定不變ノモノニアラズシテ時ト共ニ改善ノ域ニ進マザルベカラズ故ニ實見ヨリ生スル各官ノ所見ハ本職ノ大ニ歡迎スル所ナリ諸官夫レ之レヲ諒セヨ

一 將校カ下士上等兵ノ號令ヲ以テスル教練ヲ監視スルニ際シ其過失アルモ之レヲ矯メズ一々列兵ノ動作ノ

ミニ注意スルモノアリ尤モ直接號令ヲ掌ルモノヲ列兵ノ面前ニ於テ叱責スルハ其人ノ威信ニ關スルヲ以

テ可成之ヲ避ク可シト雖モ又過失ノ矯正ハ當時ヨリ時間ノ變移セザル時ニ於テナスヲ要ス例令ハ射撃ノ目標ヲ示シ或ハ距離ヲ示スニ杜撰ナルアリ是等ハ爲シ得ル限り實距離ト確實ナル目標ヲ示スコトニ努メシメハ下級幹部ノ自然ノ溫習トナリ一舉兩得ノ益ヲ得ベシ

二 先日ノ夜行軍ニ於テ各隊共ニ靜肅ヲ欠キ又連絡ノ充分ナラザリシハ諸官ノ目撃セラル、所畢意道路ノ險惡ト天候トニ制セラレタルハ勿論ナルモ平素實習ノ不足ハ缺點ノ一因タルヲ疑ハズ爾後ハ決シテ學習ノミニ委セズ實兵指揮ノ練習ヲ望ム

三 傳令卒ノ教習未タ充分ナラザルアリ特ニ過日着隊セシ補充員モアリ一層確實ニ教習スルヲ要ス現時ノ如ク各宿舎數ヶ所ニ分離スル時ニ在テハ之ヲ適當ニ應用セハ實地的教育上至便ナルモノト認ム

四 幹部ニシテ號令ノ活潑ナラザルアリ銃砲聲ノ熾盛ナル戰線ニ在テハ如何ニ大聲疾呼ヲ要スルカヲ顧慮シ活潑ニ號令スルノ習慣ヲ爲スヲ要ス但シ行軍ノ如キ靜肅ヲ要スルキハ此限ニ非ラス

五 敵ハ防禦工事ヲ爲スノ位置及其附近ニハ必ス擬工事ヲ施シ我ヲ欺カントスト是又一時ノ利用タルヲ疑ハサルト共ニ充分ニ留意ヲ要スルノミナラズ前哨ニ任スル部隊ニ在テハ實用工事ヲ終レハ擬工事ヲモ設クルハ一策タルヲ忘ルベカラズ

六 敵ノ詐術ニ巧ミナル戰時公法ヲ無視セル其實例既ニ一再ニシテ止マラズ將來對敵動作中細心注意シテ之ヲ利用スルヲ忘ルベカラズ

1 幟項附近ノ戰鬪ニ於テ敵ハ赤十字旗ヲ濫用シ九死ヲ免レタリ



2 古豊山松坪附近ニ於テ葉人形ヲ樹立シ我レ敵ノ歩哨ト誤認シ之ヲ射撃スレハ敵ハ容易ニ我位置ヲ發見シ我レニ射撃ヲ試ミタリ

3 倉坪其他ニ於テ巧ニ其身ヲ蔭蔽シ或ハ韓人ノ笠ヲ用キ牛車ヲ楯ニシ能ク我兵力及動作ヲ觀察セリ

4 松坪ニ於テ敵ハ我偵察隊ヲ二百米突以内ニ近接セシメ射撃ヲ開始セリ

5 鏡城及古豊山附近ニ於テ牛車若クハ木筒ヲ以テ擬砲ヲ作レリ

6 敵ハ能ク韓人ヲ使用ス我前進路ニ彷徨スル土人ハ是ヲ逮捕訊問スルノ要アリ若シ敵ニ内通セントスルハ明瞭ニシテ我企圖ヲ防害セラル、恐アルキハ之ヲ射殺スルモ一方便ナラン

7 敵ハ能ク退却スルモ亦剛膽ニ前進スルヲアリ故ニ機敏ニ動作スル我小部隊ハ殊勳ヲ奏スルノ機會ヲ發見スルヲ得ベシ

8 敵ハ地形地物ノ利用ニ長ス松坪ニ於テ敵前二百米突ニ近逼シ然カモ能ク之ヲ發見スルヲ能ハザリシハ抑モ之カ爲メナリ

9 月下常面ニアル敵ハ射撃術鍛能ニ非サルモ亦直チニ侮リ易カラス

10 敵ハ馬足ヲ利用スル多キヲ以テ我能ク地形ヲ利用セハ敢テ恐ル、ニ足ラズ然レモ我獨立部隊ノ敵ニ接近スルニハ敵ノ脅威ヲ受クベキ交通路ニハ特別ノ注意ヲ拂ヒ要スレハ監視隊ヲ殘留スベシ此際土人ノ通交者ハ一切之ヲ抑留セザルベカラズ

11 敵ノ韓人ヲ使用シテ便利ヲ得ルカ如ク我又此利用ヲ勉メザルベカラズサレバ將校下士卒ニ論ナク常ニ等土人ノ撰擇ニ注意スルヲ要ス

12 敵ヲ侮ルモノハ敗レ兵驕ル者ハ敗ル之レ古今ノ金言敵ノ不利ヲ鼓吹シ敵軍ノ紊亂ヲ鳴ラスハ我國ノ所謂新聞屋輩ノ弊ト蹉躑ヲ以テ我安危ニ關スル大事件トシテ怒號スルハ鼠輩ノ言フノミ今日吾人ノ敵ニ對スル萬能ノ敵トシテ畫策セザルベカラズ是レ實ニ必勝ノ道ナレハナリ

斥候歩哨等須ラク細心ナカルベカラズ敵ノ斥候哨ヲ稜線ニ置キ他方面ヨリ觀察シ帽ニ對シ射撃スルヲ俟テ我レノ位置ヲ偵察スルカ如キ或ハ敵ノ單獨兵我前哨線ニ侵入シ後方ヨリ我歩哨ニ襲撃ヲ試ムルカ如キ之レ皆滿洲其他ニ於テ實見セル所ナリ

七 前哨ニアル歩哨ニシテ前方著名ノ目標ニ對スル距離ヲ知ラザルベカラズ是レヲ教示スルハ分隊長小隊長ハ專心任スベキ所ナルモ各自亦細心之レニ注意スルヲ要ス

八 戰例ヲ見聞スルニ生死不明者ヲ出スノ多キハ激戰ノ時ヲ除ケハ斥候歩哨等ノ勤務中ニ在リ之レ警戒ノ不充分ナルニ起因スト雖モ亦兵數ノ少ナルモ一因タラズンハ非ス故ニ爾後歩哨斥候等ノ兵力ヲ定ムルニハ此顧慮アルヲ要ス

九 斥候若クノ散兵ニシテ地物ヲ利用スルニハ先ツ身ヲ前方ニ顯ハシ然ル後若干退引停止スル無キニ非ス監視ニ急ナルハ可ナレモ我位置ヲ彼ニ知ラシムルハ一層不利ナルヲ教ヒザルベカラズ然ラザレハ本然ノ任務ヲ遂ケ難シ

十 必要ナル時機ニ確實ナル報告ヲ爲スニ當リ簡約明瞭ヲ期スルカ爲メ怠ラズ練習スルヲ要ス

十一 戰開後各幹部トシテ當然ナスベキ内務アルコトヲ緩ルヘカラズ就中功勳者ニ關スル調査若クハ死傷者ニ關スル父兄ヘノ通信(最モ慎重ナルヲ要ス)或ハ兵器ニ被服ニ其他ノ雜件ヲ急劇ニ整理シ應急ノ準備ニ寸尅モ延引セザルニ留意シ以テ直接上官ヲ補佐シ或ハ臨時之レカ代理ヲ爲スモ迅速ニ處決シ得ルノ覺悟ナカルベカラズ

十二 此外敵前工事ニ或ハ常方面ノ如キ重層セル山地行軍ニ於ケル隣接隊トノ連絡手段ニ或ハ幕營法ノ熟達ニ風土氣候ニ伴フ各自ノ衛生ニ多ク盡スヘキ事項少ナカラズ要ハ諸官献身的ニ攻究シテ徒ラニ列兵ヲ失フコトナク以テ克勝ヲ完スルヲ期スルニアリ故ニ多クノ場合ニハ必ス實兵ヲ以テスル練習ヲ要シ滯陣中ハ勿論苟モ餘暇ト機會トヲ得ル毎ニ必ス實施セザルベカラズ

明治三十八年八月二十一日

聯隊長 嶋村耕作

前日來ノ降雨ハ漸次其雨量ヲ減シタリト雖モ連日霏々トシ全月二十七日ニ至ルモ尙ホ止マラズ全日師長ヨリ左ノ要旨ノ訓示アリ

目下日露兩國ノ關係ハ當師團ノ前進ヲシテ急ナラシムルヲ要スルカ如シ師團ノ前進ハ天候ノ定マルヲ待ツベカラズ雨中ノ衛生上ニ就キ充分ノ注意ヲ要スト蓋シ日露談判ノ難境ニ立至レルノ時ナランカ

八月二十八日左ノ師團命令アリ

後備第二師團命令

八月二十九日午前十時三十分  
於富寧師團司令部

軍隊區分

丸井支隊

長第十六旅團長丸井少將

後步第五十八聯(第二大隊欠)

後騎兵大隊第二中隊(二小隊欠)

機關砲一小隊

臨時衛生隊

梅地支隊

後步第三聯隊(機關砲六門ヲ附ス)

後騎兵隊第一中隊ノ二分隊

前衛

司令官後步第十八旅團長酒井少將

後步第二十五聯隊(第二大隊欠)

後步第五十六聯隊第三大隊

後步第四十四聯隊第一大隊

後騎兵大隊(二小隊半欠)

後野戰山砲兵大隊第三中隊

全 野砲兵獨立中隊

後工兵大隊本部及第二中隊

機關砲中隊(二小隊欠)

衛生隊半部

本 隊

師團司令部

後備第五十六聯隊本部及第二大隊

後歩野戰砲兵大隊(第三中隊欠)

後歩第十七旅團(第三聯隊欠)

後歩第五十三聯隊(一大隊ト一中隊)

全 第二十五聯隊第三大隊

機關砲一小隊

衛生隊半部

輜重第一梯隊

長彈藥大隊長萩少佐

第二野戰病院

第二歩兵彈藥縱列

第一砲兵彈藥縱列

第一糧食縱列

輜重第二梯隊

長輜重兵大隊長少佐

第一野戰病院

第四野戰病院

第一歩兵彈藥縱列

第二砲兵彈藥縱列

第二糧食縱列

一 敵情ニ就テハ著シキ新報ヲ得ス

二 師團ハ明日主力ヲ倉坪富寧間ノ地區ニ集結セントス

三 丸井支隊ハ孟山峠ヨリ南部駕馬院附近ニ亘ル線ヲ占領シ師團ノ右側背ヲ掩護スル筈

四 梅地支隊ハ明日現在ノ地點ニ在アリテ前進ノ準備ヲ整ヒアルベシ

前衛ハ明早朝ヨリ其警戒線ヲ東南部全巨里ヨリ西北部全巨里ヲ經テ其西北方高地ニ亘ル線ニ進メ許古院以北ノ地區ニ宿營スベシ 但シ後歩第四十四聯隊第一大隊ハ待郷徒ニ宿營シ五柳洞及揭浦方向ニ對シ警

戒セシムベシ

五 本隊ノ内後歩第三十二聯隊第三中隊ハ依然葛麻德ニ在リ明後三十一日午前五時出發西北部全巨里南方三又路附近ニ至リ命ヲ待ツベシ

爾餘ノ諸隊ハ左ノ如ク村落露營スベシ

師團司令部北部古茂山

後野戰砲兵大隊(第三中隊欠)南部古茂山

后歩第五十六聯隊本部及第二大隊武陵臺

全 第二十五聯隊第三大隊武陵臺ノ西南方部落

全 第十七旅團司令部

全 第三十二聯隊 } 攝坪柳洞揚洞三又路以北

全 第四十七聯隊柳揚洞(三又路以南及起川洞)

全 第五十三聯隊(第一大隊ト一中隊欠)

機關砲一小隊

衛生隊半部

以上富寧

六 輜重ノ内第一糧食縱列ハ明日倉坪ニ前進シ全地ニ宿營スベシ爾餘ハ現在地ニ宿營シアルベシ

七 給養ハ前衛ハ倉坪倉庫ヨリ南部古茂山以南宿營ノ部隊ハ富寧倉庫ヨリ梅地支隊ハ白沙峰倉庫ヨリ補給ヲ

受クベシ

但シ后歩第五十六聯隊第二大隊后歩第二十五聯隊第三大隊及葛麻德ノ中隊ハ各其積置糧秣ヲ用ユベシ  
八 余ハ明日午前七時出發古茂山ニ至ル同日午后三時命令受領者ヲ出スベシ

師團長 三好中將

八月二十九日左ノ命令アリ

大隊命令

- 一 敵ニ就キ著シキ新報ヲ得ス
- 二 大隊ハ明日午前八時吉川橋ヲ右翼トシ第二第四第一中隊ノ順序ニ途上縱隊ニ整列スベシ
- 三 第三中隊ハ依然葛麻德ニ在リ明後卅一日午前五時出發西北部全距離三又路附近ニ在リテ命ヲ待ツベシ
- 四 大行李ハ午前八時三十分共宿營地附近ニ在リテ大隊ノ後尾ニ跟隨スベシ
- 五 余ハ明日午前七時吉川橋ニ在リ

### 第十八 第二次北進行動

八月三十日連日ノ曇雨始メテ霽レ天氣頗ル快晴殊ニ今回コソハ勇戰奮闘宿志ヲ遂クルノ期アラント志氣ノ振起蓋シ思フベキナリ大隊ハ定刻ニ至リ出發セリ午前十一時富寧ニ到ル第二大隊己ニ集合シアリ全大隊ト分屯以來三十有五日互ニ其勇健ヲ祝シ且ツ武運長久ヲ祈リ懇談時ヲ移セリ聯隊ハ茲ニ建制ヲ完フシテ午后零時

三十分發進シ午後一時三十分攝坪洞ニ着シ村落露營ヲナセリ全日午後八時左ノ大隊命令アリ

### 大隊命令

一 兵力未詳ノ敵ノ歩兵ハ全儀尙洞李親洞仲嶋ノ各地ニ分屯シアリ又騎兵五百ハ沙器幕洞燈京洞鴻雁洞附近ニ約八百ノ騎兵及砲三門ハ五峰山北方鞍部附近ニアルモノ、如シ

師團ハ明日古豊山占領ノ目的ヲ以テ前進ス

梅地支隊ハ明日石浦村附近ヲ占領シテ師團ノ右翼ヲ掩護スル筈

前衛ハ日南洞ニ向ヒ前進ス

本郷支隊ハ待郷徒出發燈京洞ニ前進シ師團ノ左側ヲ掩護スル筈

二 大隊ハ明日午前六時攝坪洞北端獨立家屋ヲ先頭トシ第四第一第二中隊ノ順序ニ途上縱隊ニ集合スベシ患者ハ一團トナリ古參者之ヲ引卒シ聯隊ノ後尾ニ在リ第二大隊看護長ノ指揮ヲ受クベシ

三 大行李ハ午前八時大隊ノ緊急集合所ヲ出發シ古茂山北方畑地ニ於テ佐藤大尉ノ指揮ヲ受クベシ

四 余ハ明日午前六時大隊集合地ニ在リ

八月三十一日午後六時集合全六時五十分小茂山ニ到リ師團ノ行軍序列ニ入レリ此日天氣炎熱行軍頗ル困難ナリ午前十時三十分茂山嶺ヲ越ユル比ヒ前方砲聲轟々タルヲ聞クヤ行進ハ自然ニ急速トナリ且ツ空腹ヲ感シタルヲ以テ途中落伍者少ナカラザルヲ見ル午前十一時嶺上ナル梁永洞ニ着シ午食ヲ喫ス折柄命令アリ第一第四中隊ハ武装ヲ解キ梁永洞ヨリ器具ヲ受領シ須峰洞ニ向ヒ前進スベシト大隊本部及第二中隊ハ古豊山ニ向ヒ行

進ヲ續行シ途中全巨里西北部ニ於テ第三中隊ヲ合シ午後零時三十分古豊山ニ到着セリ此時我砲兵ハ古豊山北端ニ砲列ヲ布キ昌斗嶺ニアル敵ト砲戰中ナリキ午後一時第一第四中隊ハ古豊山北端ニ到着シ土工作業ニ從事スベキ任務ヲ受ケシモ戰況上其命令ハ變更セラレ再ヒ梁永洞ニ引返シ武器裝具ヲ運搬スルノ徒勞ニ歸セルノミ

午後三時砲戰止ム此夜前衛ハ日南洞附近ニ本隊ハ古豊山以南ニ宿營セリ而シテ大隊本部及第二第三中隊ハ古豊山ニ第一第四中隊ハ須峰洞ノ一部ニ露營セリ

茂山嶺以北會寧平原ニ至ルノ間ハ狹長ナル河谷ニシテ古豊山日南洞附近稍々開廣セルノミ昌斗嶺ハ日南洞附近ノ谷地ヲ前ニシ而シテ此谷地ヨリ梅地支隊ノ前進方向ナル全儀尙洞ニ到ル谷地トノ交叉點ニ凸出セル高地ニシテ敵ノ我前進ヲ拒止センニハ頗ル良好ノ陣地ナリ古豊山ハ昌斗嶺及茂山嶺ノ中間ニアル一邑ナリ城壁アリト雖トモ敗城以來多クノ星霜ヲ經タルモノニシテ只其石壘ヲ殘セルノミ城内外合セテ二百餘戸ニ過キス居民頗ル疲弊セルヲ見ル

### (1) 昌斗嶺附近ノ戰鬪

全日午後十時左ノ命令アリ

### 大隊命令

一 兵力未詳ノ敵ノ歩砲兵ハ昌斗嶺附近ノ高地及五峰山ヲ占領セリ

二 師團ハ明早朝此敵ヲ攻撃ス

前衛ハ明拂曉其主力ヲ以テ昌斗嶺ノ敵ヲ一部ヲ以テ下坪ノ敵ヲ攻撃スル筈

植村大隊ハ(二中隊欠)風儀洞西北方高地ヲ占領シ下坪洞北方高地ノ占領ヲ容易ナラシムル筈

奥本隊ハ現在地附近ヲ守備シ五峰山及橙浦洞ニ對シ師團ノ左側ヲ掩護スル筈

本郷支隊ハ白峴附近ノ敵ヲ驅逐シ同地東方高地ヲ占領スル筈

三 大隊ハ明日午前四時緊急集合所ニ集合スベシ

但シ須峰洞ニ宿營セル部隊ハ午前三時二十分其集合所ニ集合シ聯隊本部ト共ニ緊急集合所ニ到ルベシ

四 大行李ハ四日午前六時三十分宿營地ヲ發シ須峰洞西南畑地ニ集合シ師團大行李長ノ指揮ヲ受クベシ

五 余ハ明日午前四時集合地ニ在リ

九月一日午前四時大隊ハ緊急集合所ニ集合全四時十二分出發全六時十分日南堂ニ到着師團本隊タル各諸隊ト共ニ其東方谷地間ニ集合豫備隊トナレリ折柄我前衛及昨夜ノ命令ニ基ケル諸隊ハ各其任務ノ敵ニ向ヒ攻撃實行中ニシテ銃砲聲各所ニ盛ナリ午前八時以來集合地ノ西北方小風儀洞附近ノ高地ヲ占領セル植村大隊及后歩第二十五聯隊ハ小風儀洞西方鞍部ヲ占領シアル敵ニ對シ戰鬥將ニ酣ナルヲ見ル午前九時大隊ハ左ノ命令ヲ受ク

### 命令

一 小風儀洞西方鞍部ノ敵ニ對セル植村大隊及后歩第二十五聯隊ハ苦戰中ナリ

二 立花大隊ハ今ヨリ應援トシテ小風儀洞附近ニ至リ后歩第二十五聯隊長ノ指揮下ニ入ルベシ

右命令ニ依リ大隊ハ即時出發セリ途中后歩第二十五聯隊ノ某中隊ハ殆ント全滅ノ慘狀ニ陥リタルヲ聞ク又其

負傷兵ハ續々綑帶所ニ運搬セララル、ヲ擊目セリ午前十時淺黃中尉及角少尉ニ左ノ命令アリ

### 命令

一 淺黃中尉ハ今ヨリ直チニ出發小風儀洞谷地左方ノ高地ヲ占領セル我軍ノ左翼ナル後歩第二十五聯隊ニ連絡ヲ通シ兼テ大隊ノ進路ヲ偵察スベシ

### 命令

角少尉ハ今ヨリ直チニ出發小風儀洞右方ノ高地ヲ占領セル植村大隊ニ連絡ヲ通シ兼テ當面ノ地形及敵情ヲ偵察スベシ午前十時三十分ヨリ大隊ハ第四中隊ヲ先頭トシ少風儀洞西方鞍部ノ敵ニ向テ前進セリ途中角少尉ノ報告ヲ得敵情及地形ヲ確知スルヲ得テ當面ノ敵ヲ攻撃セリ午後一時小風儀洞西方鞍部附近ノ敵ヲ擊退シテ全ク全地附近ヲ占領セリ敵ハ中嶋方向ニ退却セルヲ以テ續テ之レヲ追撃セントスル折柄大隊ハ全鞍部附近ニ停止シ池田少將ノ指揮下ニ入ルベキノ命令ニ接セリ又聯隊本部及第二大隊モ來着セルニ會ス同時ニ會寧川左岸ノ諸隊ハ池田少將ノ指揮下ニ屬シ左翼隊ト名稱セラルル午後四時三十分左ノ聯隊命令アリ

### 聯隊命令

一 敵ハ季益長洞以北ニ退却セリ左翼隊本隊ハ小方儀洞及其附近ニ宿營ス

泉中佐ハ前哨トナリ右翼會寧川ヨリ左翼四七二高地ニ亘リ警戒ス

植村大隊ハ鐵洞ニ村落露營シ一小哨ヲ鐵洞ヨリ西北方ニ通スル點線路上ニ配布スル筈

二 聯隊ハ西北部小風儀洞ニ村落露營セントス

- 三 第一大隊ハ小風儀洞北部ニ村落露營スベシ
- 第八中隊ハ小方儀洞鞍部ニ露營シ植村大隊及第一大隊ト連絡ヲ保持スベシ
- 四 露營日直將校ハ遠藤大尉トス
- 五 本夜午后十時命令受領者ヲ出セ
- 六 余ハ小風儀洞北端ニアリ
- 一 此日朝來曇天午前十時ヨリ降雨午后ニ至リテ益々烈シ而シテ宿舍スベキ人家ニ乏シク大半ハ降雨中ニ露營セリ然レモ幸ヒ燃料豊ニシテ衛生上一大便宜ヲ得タルハ天與ノ恩ニ浴セルモノト云フベシ露營ニ就キタルハ日没後ナリ而シテ谿川悉ク泥水他ニ良水ヲ求ムルノ道ナリ皆泥水ヲ汲ンテ炊爨ス飯爲メニ赤色ナリ終日ノ奮闘飢ヒタルモノニ粗食ナキハ誠ニ金言ナリ之レヲ食シテ快哉ト賞ス或ハ言フ時ナラヌ赤飯ノ御馳走カナト難ニ遇フテ益々勇強ナルハ東北男兒ノ美德ナルカ鑠々トシテ餘裕アルヲ見ル
- 全日午后十二時左ノ命令アリ

#### 大隊命令

- 一 昌斗峠ヨリ退却セル敵ノ一部ハ一時梨親洞南方高地ヲ占領セシモ間モナク退却セリ
- 二 師團ハ明日此敵ヲ追撃ス
- 梅地枝隊ハ明日其一部ヲ以テ全儀尙洞東北方標高九一二高地附近ニ差遣シ敵ノ左側ヲ脅威スル筈
- 本郷支隊ハ明日情況之ヲ許セハ山巴田附近ニ前進セシメ與本隊ハ五峰山脈ノ守備ヲ徹シ本隊ニ追及セシ

#### ムル豫定

- 右翼隊ハ明朝梨親洞南方高地ヲ占領スル筈
- 三 左翼隊ハ明拂曉碑石堂南方約千四百米突ノ高地ニ亘ル線ヲ占領セントス
- 四 大隊ハ明日午前四時小風儀洞西方鞍部ノ南麓ヲ先頭トシ第二第三第四第一ノ順序ニ途上縦隊ニ集合スベシ
- 五 大行李ハ午前八時迄ニ日南堂南端畑地附近ニ集合シ師團大行李長ノ指揮ヲ受ケシムベシ
- 六 予ハ明日午前四時集合地ニアリ
- 九月二日午前五時集合地出發全五時三十分鐵洞ニ着左ノ命令アリ

#### 支隊命令

- 立花少佐ハ二個中隊ヲ率キ即時出發本道ノ左側高地ナル標高千六百六十二、八百十五、千六百十五ヲ經碑石洞南方高地ニ至リ後命ヲ待ツベシ
- 右ノ命令ニ依リ大隊長ハ第二第三中隊ヲ率ヒ直チニ出發第一第四中隊ハ聯隊長ノ指揮下ニアリテ本道ヲ前進セリ午后一時碑石洞ニ着ス折柄我騎兵斥候ハ敵騎ト衝突シ二名ノ負傷者ヲ出セリ午后三時大隊本部及第二第三ノ二中隊ハ途中敵ト遭遇スルコトナク午後十一時三十分任命ノ地點ヲ占領シ午後三時本隊ニ合セリ全時ニ左ノ通報アリ

#### 通報

後備歩兵第三十二聯隊山砲一中隊機關砲一小隊騎兵小隊ハ爾今池田支隊ト稱ス  
午後四時左ノ聯隊命令アリ

命令

- 一 敵ハ會寧方向ニ退却ノ尙其一部ハ綠洞於口東北方標高三百三十一高地及其西方約千米突ノ標高三百三十  
六附近ニ停止シアルモノ、如シ
- 二 當支隊ハ今ヨリ風儀山東方約二千米突ノ鞍部ニ向ヒ前進セントス
- 三 第五中隊ハ風儀山ヲ占領シ標高三百六十三方向ニ對シ警戒スベシ
- 四 予ハ本隊ノ先頭ニ在リテ行進ス

午后五時支隊ハ風儀山東方鞍部附近ヲ占領シ大隊ハ其南麓谷地ニ露營セリ全夜角少尉ハ師團命令受領ノ爲  
メ上等兵以下四名ト共ニ中嶋ニ差遣セラレ翌朝歸還セリ

會寧占領戰(小豊山雨中戰並ニ風儀山附近雨中ノ露營)

九月三日午前三時左ノ大隊命令アリ

- 一 兵力未詳ノ敵ハ小豊山ヨリ綠洞於口北方高地ニ亘リ占領シアリ
  - 二 師團ハ今日未明敵ヲ攻撃セントス
- 早田支隊ハ子仁洞東北方高地ヲ占領シ池田支隊ノ攻撃ヲ容易ナラシメ特ニ一部隊ヲ嚴石洞附近ニ置キ立  
石原方面ニ對シ警戒スル筈

前衛ハ風儀山方向ヨリ此敵ヲ攻撃シ池田支隊ノ攻撃ヲ容易ナラシムル筈

獨立騎兵ハ會寧ノ方向ニ運動シ左翼ヲ掩護スル筈

- 三 大隊ハ午前四時輕裝警戒集合所ニ整列スベシ
- 四 大行李ハ午前五時出發中嶋北端畑地ニ集合スベシ

午前四時廿分集合終リ直チニ小豊山ニ向テ前進シ午前六時四十分小豊山ヲ距ル約千米突ノ高地陰ニ開進セ  
リ當時第二大隊ハ我右翼ニアリ子仁洞方向ニ對シテ散開シ又其右翼ニ第四十七聯隊進出セリ而シテ右翼諸隊  
ハ已ニ敵ト衝突シ銃砲聲殷々タルヲ聞ク此處ニ於テ第三中隊ニ小豊山右方標高五二五高地ノ敵ヲ攻撃スベク  
且ツ第二大隊ト連絡ヲ保ツベキヲ命シ大隊ハ直チニ第二中隊ヲ第一線トシ第一第四中隊ヲ第二線トシテ小豊  
山ノ敵ニ向ヒ攻撃動作ヲ開始セリ同處ノ敵ハ五百ヲ越ヒタル憂弱ナルカ如シト雖トモ地形有利ニシテ堅固ナ  
レ工事ヲ施シアリ而シテ其前面ハ斷絶部多ク我前進大ニ困難セリ各中隊ハ勇戰奮闘遂ニ敵ヲ擊退シテ午前十  
時五十分大隊ハ茲ニ小豊山一帶高地ノ主トナルノ幸榮ヲ有セリ第三中隊又處命ノ敵ヲ擊退シ同高地ヲ占領セ  
リ敵ハ子仁洞ヨリ大小燕巢附近ニ横ハレル谷地ヲ越ヒ長基德北方高地ニ退却セリ大隊ハ尙ホ進撃ヲ續行シ前  
面ノ谷地ヲ越ヒ長基德北方高地ヲ占領セントシ先ツ第二中隊ヲシテ小燕巢附近ノ高地ヲ占領シ大隊ノ谷地通  
過ヲ掩護スベキヲ命シ且ツ淺黄中尉以下十八名ノ將校斥候ヲ長基德北方高地ニ第四中隊ノ下士斥候ヲ其東北  
方高地ニ差遣シ敵偵察ヲ命シタリ而シテ大隊ハ小豊山附近ノ高地ヲ下リ小燕巢ニ向フ其斜面中腹ヲ過クル  
比對岸長基德北方高地ヨリ敵ノ一聲射撃ヲ受クルコト數回然レトモ陰雨濛々敵ノ所在ヲ確認スル能ハズ又我



レニ一ノ損害ナシ大隊ハ小燕巢ノ部落内ニ掩蔽シテ午食ヲ喫シ淺黄中尉以下ノ報告ヲ待ツ折柄長基德方向ニ銃聲ヲ聞ケリ小時ニシテ淺黄中尉ヨリ左ノ報告アリ

一 當將校斥候ハ長基德北方高地ニアル敵騎約五十ヲ擊退シ全高地ノ一端ヲ占領セリ敵ハ山城山方向ニ退却シタリ

二 當將校斥候ハ當地ニアリテ大隊ノ谷地通過ヲ掩護スベク且ツ前方ノ敵情ヲ搜索セントス

大隊ハ右ノ報告ヲ得直チニ長基德北方高地ニ向ヒ前進セントスル一刹那聯隊命令アリ曰ク本日ノ天候甚タ良ナリ衛生ヲ顧慮シテ前進行動ヲ中止ス立花大隊ハ直チニ鳳儀山東方鞍部ニ歸還スベシト此處ニ於テ大隊ハ諸隊並ニ斥候ヲ收容シテ歸途ニ就キ午后五時鳳儀山東方鞍部ニ歸還シ前哨ノ任務ニ服セリ此日朝來強雨終日恰モ篠ヲ突クカ如ク全身悉ク濕潤雨水背ヲ瀧ナスニ至レリ而シテ般々タル銃砲聲ハ雨陰濛々ノ裡ニ響キ喊聲又四方ニ起リテ雨中戰ノ壯觀格別ノ壯快ヲ感シタリ全夜ニ於ケル前哨ハ所謂戰鬪前哨ニシテ第一第三中隊ハ鞍部ノ前方小高地ノ半腹ニ位置シ第四中隊ハ鞍部高地線ノ右翼ニアリテ警戒シ大隊本部及第二中隊ハ前哨本隊トシテ鞍部後方斜面ニ位置ス而シテ旅團司令部聯隊本部及第二大隊ハ其後方谷間ニ露營セリ此日夕刻ニ至ツテ天候益々不良山鳴リ谷響キヲ烈シキ暴風雨トナレリ加フル寒氣凜烈濕潤セル全身ニ迫リテ皮膚其色ヲ變ス上下相戒メテ曰ク思フニ過クル七月廿五日ノ夜白沙峰ニ於ケル第三聯隊ノ前哨部隊ハ二十餘名ノ凍死者ヲ出シタリキ全ク如斯狀況ニ於ケルナラン若シ今夜苟モ自衛ノ法ヲ失センカ其損害蓋シ恐ルベキモノアラン而シテ此天候ノ敵ニ克ツベキノ武器ハ一ニ燃料ニアルノミ然ルニ此附近燃料ニ乏シキハ何タル不幸ゾヤ困難

ニ遭遇シテ益々勇敢ナルハ東北男兒ノ特色ナリ何ゾ奮勵セズシテ可ナランヤト暗夜暴風雨ヲ冒シテ二千米突餘ノ斷絶地ヲ通過シ人家ヲ破壊シテ燃料ヲ運搬スル一再ニ漸ク篝火ヲ設ケテ其周邊ニ倚立シ僅ニ煖ヲ採リ糶ヲ喫シテ空腹ヲ醫セリ全夜深更風雨益々強ク篝火從テ衰ヒ寒氣益々嚴ナリ疲勞衰弱途ニ卒倒スルモノアリト雖トモ上下相抱テ救護シ相勵マシテ奮ヒ一ノ死者ヲ見ズシテ夜ヲ徹シタルハ一隊ノ幸福何ソ是レニ過クルモノアラシヤ蓋シ自衛ノ法其宜シキヲ得タルニ由ルヲ認ム翌四日天明ト共ニ雨止ミ風收マリ日光煌々トシテ東岳ニ登レリ一同期セスシテ快哉ト絶叫シ萬歳ヲ三唱セリ若シ此日尙ホ降雨ナランカ多大ノ損害ハ到底免ルベカラザリシナラン

## 第十九 鳳儀山附近滯陣及休戦下令

九月四日午前八時毛内大尉ハ部下二小隊ヲ指揮シ最谷嶺附近ノ敵情ヲ偵察スベク又磯部少尉ハ後歩第四十七ニ連絡ノ任務ヲ以テ出發セリ當時彼我情況ノ大要ヲ記センニ敵ハ前面ノ谷地ヲ隔テ、其右翼ハ會寧北方高地ヨリ沙吾峙山城山ヲ經テ左翼最谷嶺ニ亘リテ配備シタリ殊ニ最谷嶺ニハ步砲ノ主力沙五地行營附近ニハ騎兵ノ主力アルモノ、如シ最谷嶺ハ我ヲ距ル最モ近ク望遠鏡ヲ以テ步哨ノ位置小部隊ノ行動並ニ土工作業ノ情況等ヲ見ルコト明瞭ナリ而シテ我軍ノ情況ハ左翼會寧ヨリ鳳儀山小豊山ヲ經テ右翼ハ最谷嶺東南方陶幕洞ノ高地ニ亘リ我右翼ハ全ク敵ノ左翼ヲ包圍セリ一度進撃ノ命アランカ當面ノ敵ヲ殲滅セムコト將ニ數時間ニアリト雖トモ昨日ノ大雨ハ又々河川ノ氾濫ヲ來タシ糧食ノ運搬非常ニ困難ナルノミナラズ前日來雨中ノ行動ハ

數多ノ患者ヲ出セルヲ以テ師團ハ茲ニ數日間ノ給養ヲ命セラレ諸隊ハ現位置ニ在テ廠舎ヲ工作シ雨露ヲ避クルノ設備ヲ爲シ且ツ防禦工事ニ從事セリ此間又敵情ヲ偵察シタリシモ別ニ變化ナキモノ、如ク唯其警戒配備及部隊ノ位置等ヲ確知セリ九月四日以来ノ晴朗ナル天氣ハ給養上ニ多クノ効果ヲ與ヒ未タ數日ナラズ心身共ニ恢復セリ折柄初秋ノ候トテ大高ク馬肥ユルノ感ヲ生ジ諸隊勇奮進撃ノ命ヲ待ツノミ越ヒラ七日師團參謀長ノ一行前哨線ニ來リ一高地ニ登リテ敵情ヲ視察セリ全高地ハ最谷嶺附近一帶ヲ瞰視シ得ベク敵情裕モ手ニ取ルカ如シ師團ハ此ノ偵察ノ結果トシテ明朝ヲ期シ當面ノ敵ヲ攻撃スベク決心セラレタルモノ、如ク全日午後二時左ノ大隊命令アリ

一 敵情ニ就キ其後變化ナシ

師團ハ即刻ヨリ行營附近ノ敵情ヲ搜索セントス

右搜索隊支援トシテ一個中隊ヲ妙吾峙ニ配置シ更ニ細谷嶺附近ノ敵ニ對シ本隊ヨリ一個大隊ヲ大燕巢附近ニ第二大隊ノ田中中隊ヲ大燕巢東北方標高四七三高地ニ派遣スル筈

二 毛内大尉ハ部下一中隊(第一中隊ノ一小隊ヲ附ス)ヲ率キ標高四九七ヲ占領シ其斥候ヲ標高四二三ニ出シ細谷嶺柯洞方向ノ敵ニ對シ警戒スベシ

三 前哨ノ各中隊ハ各警戒ノ姿勢ニアルベシ

四 前哨第一中隊ヨリ連絡ノ爲メ前進哨タル毛内中隊マテノ間ニ遞步哨ヲ配置スベシ  
全日午後六時左ノ大隊命令アリ

一 敵ニ就キ著シキ新報ヲ得ス

師團本隊ハ本夜碑石洞附近ニ集合露營ス

早田支隊ハ現在地ニ宿營シ一部ヲ以テ細谷嶺附近ノ敵ヲ監視ス

獨立騎兵ハ沙吾峙附近ニ位置シ其支援隊ト協力シ敵ノ抵抗ヲ受ケザル範圍内ニ於テ成ルベク廣ク占領地域ヲ擴張スル筈ナリ

第五十六聯隊ノ第三大隊ハ大燕巢ニ田中中隊ハ標高四七三附近ニ露營ス

村井小隊ハ毛内大尉ノ指揮下ニアリテ標高五二五附近ニ在リ

二 大隊ハ依然現在ノ姿勢ニアリテ後命ヲ待ツ

三 毛内大尉ハ現在ノ位置ニアリテ從來ノ任務ニ服シ後命ヲ待ツベシ

四 給養ハ先ツ大行李ノ糧秣ヲ用ヒ其補充ハ明朝李益長洞野戰倉庫ニ就テ受クベシ

右命令ハ下レリ此命令ニ依レル配備ハ是レ全ク明日前面ノ敵ヲ攻撃スベキ準備ナリ諸隊勇躍夫レ幾何カ翌八日雞鳴側カニ聞ヒテ東天白光ヲ放テリ發進ノ命令ヤ遲シト待ツノ折柄傳令駟ケ來リテ一書ヲ齎ラセリ一讀シテ呆然自失豈計ランヤ左ノ示達ナリトハ

師團長示達

一 媾和條約成立シ休戦トナリシヲ以テ九月八日當方面ヨリ軍使ヲ派遣スル筈敵軍ヨリモ派遣スベキヲ以テ

之ニ對シ取扱ヲ誤ラザルハ勿論粗略ノ取扱ヲナナル様部下一般ニ傳達スベシ

二 右取扱ニ關シ左ノ通り心得ベシ

- 1 軍使ノ目ヲ縛セザルコト
- 2 殊更ニ迂路ヲ取ル如キコトアルヘカラズ
- 3 武器ヲ脱セシメザルコト

4 叮嚀ニ取扱前哨中隊長（獨立小哨ナルキハ小哨長）當該旅團司令部へ案内スルコト

5 軍使ノ護衛ハ先導者ノ護衛ニ止メ殊更ニ着刃スル様ノコトナキコト

嗚呼萬事已ニ去レリ又勇壯ナル健腕ヲ奮フノ時期ナシ回顧セハ昨年七月渡韓以來祁寒隆暑殊ニ數月ニ亘ルノ降雨ヲ冒シ敵ヲ追撃スルコト三百餘里今將ニ敵ヲ岡滿江ニ壓迫セントスルニ際シ休戦ノ命ニ接ス九仍ノ功一篋ヲ欠クノ憾ニ堪ヘズ將來北關ノ經營上ニ關スル又少ナカラザルベシ然リト雖凡事皆命ナリ今東洋ノ戰雲ヲ拂ツテ平和ノ曙光ヲ放ツ國家ノ爲メ夫レ祝セズシテ可ナランヤ

全日芝生參謀行營街道上ニ於テ師團長ヨリノ書翰ヲ敵ノ騎兵隊ニ交附シタリ

九月九日敵軍ヨリ左ノ回答アリ

未タ日露兩國間ニ平和ノ訂結セラレタルコト及休戦規約ヲ調訂セラレタルニ關シ何等ノ通知ヲ得ス依テ總司令官ニ伺ヒタル上回答スベシト越ヒテ十一日敵ノ軍使來リ其回答ニ曰ク休戦命令ハ受領セリ但シ休戦規約ノ商議ハ後命ヲ待ツベキ訓令ヲ受クト

全日師團司令部ハ會寧ニ其他諸部隊ノ宿營移轉アリ但シ池田支隊ハ依然從來ノ姿勢ニアリ

九月十五日左ノ通報アリ

- 一 彼我ノ海軍ハ羅津浦五里ノ沖ニテ休戦規約ヲ結フ筈
- 二 當方面ノ休戦規約ニ關シ敵ノ少將「コフサスキ」ハ當師團參謀長ト明日行營ノ西方四キロノ地ニテ會見スル筈

三 滿洲軍ハ十五日夕方休戦規約ヲ締結セリ

全日旅團司令部ハ會寧ニ移轉セリ

十七日左ノ通報アリ

昨日休戦ノ規約協商ノ爲メ兩委員會見セシモ彼我ノ考案差異著シク爲メニ其要領ヲ得ズシテ歸還セリ

十八日聯隊ハ子仁洞ヨリ大燕巢ニ亘ル數部落ニ而シテ大隊ハ大小燕巢及德興寺西方無名部落ニ宿營ヲ移轉セリ

十九日左ノ通報アリ

- 一 昨日海軍ハ休戦規約ヲ結定ス其結果敵ノ軍艦ハ羅津浦以南ニ侵入セサルコト
- 二 當方面ノ敵ハ騎兵三個聯隊歩兵三個聯隊砲五十二門ヲ有スル由ナレトモ確カナラズ然レトモ若干ハ豆滿江ヲ渡リテ南下セシナラン

九月廿二日韓國駐劄軍司令官ヨリ左ノ傳達アリ

今回侍從武官ヲ差遣セラレ別紙ノ通り御思召有之候條此旨傳達ス

韓國駐劄軍司令官男爵 長谷川好道

天皇皇后兩陛下ノ御思召覺書

兩陛下ニハ外征將士ノ長時日間ニ於ケレ艱苦ヲ深ク御御心ニ懸ケサセラレ殊ニ暑中ト雨期トニ於テ諸般ノ狀況一層困難ヲ來スコトヲ被聞食特ニ侍從武官伊藤中佐ヲ差遣シ現況ヲ觀察セシメラル

此季節ニ際シ將ニ將校以下一層ノ攝養ヲ加ヒ健康ニ服務セヨトノ 叙旨アリタリ

九月二十五日補充兵卒六十六名到着各中隊ニ配屬セリ

十月十四日長谷川軍司令官會寧着十六日宿營地巡視セララル

十月十八日陸軍大臣寺內閣下ヨリ左ノ内訓アリ

一 精確ニ勳績ヲ調査シ公平ニ輕重ヲ比較シ毫モ情實ヲ容レズ偏ニ銓衡ノ當ヲ圖ルハ論功行賞ノ要義ナリ功績賞賜荷モ權衡ヲ愆リ若シ其賞其功ニ過キンカ受賞者ハ之ヲ名譽トスルニ足ラズ却テ過賞ノ譏ヲ蒙リ其賞其功ニ及ハザランカ受賞者ノ不幸タルニ止マラズ信頼服從ノ念ヲ薄カラシメ叙賜ノ精神ヲ沒却スルノミナラズ延テ一般ノ士氣ヲ沮喪シ將來ノ戰役ニ至大ノ影響ヲ來スニ至ラン今回ノ戰役ノ如キ開戰以來一年半餘ノ長キニ亘リ其間傷病者ノ内地ニ還送セラレタルモノ頗ル多ク部隊長以下轉職セルモノ亦尠カラズ甚タシキハ幹部ノ大半死傷シタル部隊ナシトセズ此ノ如キ異動多キ時ニ於テ調査ノ精確ハ極メテ困難ナリ故ニ調査官ハ關係部隊ニ商議スル等周密査覈ノ手段ヲ盡スト共ニ公平ノ判斷ヲ以テスルニ非サレハ調査ノ完全ヲ望ミ難シ曩ニ殊勳ヲ奏シ戰死シタル者ニ對シ叙功叙勳ノ新典ヲ與ヒラレテヨリ以來今日ニ至ルマテ叙功ノ稟申ニ萬二千餘人ニシテ之レヲ戰死者總數五萬五千餘人ニ對比スルトキハ其半數以上ハ達ス是等ノ功績表彰ハ最モ急ヲ要セムカ爲メ甚シク權衡ヲ失スルモノ、外叙賜セラレタリト雖トモ之ヲ精査スルトキハ後日ノ例ト爲シ難キモノナキヲ保セズ今後ノ調査ニハ一層慎重ノ度ヲ加フルヲ要ス勳績調査ヲ敏速ニシ時期ヲ失セズ功績者ノ名譽ヲ表彰スルコト亦極メテ必要ナリトス蓋シ其調査ニ多數ノ日子ヲ費シ賞賜ノ時期ヲ遲延スルカ如キコトアランカ恩典ノ價值ヲ損シ士氣ノ陵夷ヲ來スノ慮アリ而シテ之ヲ從來ノ例ニ徵スルニ下級者ノ賞賜ハ甚タシク上級者ニ後ル、ヲ免レズ之レ其員數多大ニシテ調査困難ナルニ因ルベシト雖トモ國家カ功勞者ニ酬ユルニ於テ遺憾ナキ能ハズ殊ニ刻下ノ狀況ニ鑑ミ下級者ノ賞賜ハ速ニ之ヲ實行スルノ必要アリ故ニ今回ノ勳績調査ハ下級者ヨリ始メ順次上級ニ及ホシ其實賜又勉テ下級者ヲ先ニシ否ラザルモ上級者ト時ヲ全シテ發表スルヲ至當トス

論功行賞ノ美績ト專ラ勳績調査ノ任ニ當ル諸官ノ勞ニ待タサルヲ得ス茲ニ勳績調査規程發布セラレタルニ際シ特ニ所見ヲ披陳ス希クハ以上ノ主旨ヲ諒シ深ク部下ヲ戒飾督勵シ精確敏速ニ其調査ヲ完了セシメラレントヲ望ム

右内牒ス

明治三十八年九月廿四日

陸軍大臣 寺內正毅

## 第二十 媾和成立及凱旋

去ル九月十六日媾和成立平和勅語ヲ賜ハリシ以來諸隊ハ専ラ凱旋準備ヲ整ヒ且ツ勳績調査其他人事書類及ヒ被服物品等ノ整頓ニ從事セリ十月十九日左ノ師團命令アリ

### 後備第二師團命令

- 一 諸隊ハ別紙配船表ニ依リ逐次清津ニ於テ乘船凱旋スベシ
- 二 余ハ來ル二十六日博多丸ニ乘船ス

師團長 三 好 成 行

當聯隊本部及第二大隊ハ丹波丸ニ當大隊ハ遼東丸ニ乘船ト定メラル

十月廿日乘船準備員トシテ第一大隊ヨリ神保大尉佐藤特務曹長第二大ヨリ吉本中尉外下士以下若干清津ニ向ヒ出發セリ

十月二十二日大隊ハ燕巢出發歸還ノ途ニ就キ二十四日輪城北方道洞ニ宿營翌二十五日午前十時ヨリ乘船午  
后一時出帆セリ航路ハ威鏡道東海岸ナリ往路ノ諸點ヲ指顧シテ過故ノ一年有半ハ再念セラレタリ翌二十六日  
對嶋海峡ヲ過ク海戰當時ヲ想像シテ腦中恰モ現況ノ影スルカ如シ二十七日早朝馬關海峡ヲ通過セリ祖國ノ山  
河欣然トシテ余等ヲ迎フルカ如ク朝風ニ清メラレタル景色ハ余等ヲ喜ハシメタルコト幾何カ全日夕宇品港ニ  
着シ仁品檢疫所前ニ碇泊セリ翌十八日檢疫ヲ了シテ上陸シ廣嶋ニ宿營セリ回顧セバ昨年六月出征ニ際シ此地  
ニ滞在スルコト四十有餘日當時ヲ追懷シテ轉タ今昔ノ感アリ思ハザリキ再ヒ此地ヲ踏マントハ悲シムベシ戰

死病疫者ト此感ヲ供ニシ能ハザルヲ越ヒテ三十一日當大隊本部及第二中隊ハ第一回ニ輸送セラレ續テ四日ニ  
亘レリ先發部隊ハ十一月四日山形ニ着シ七日ニ至リテ聯隊全部到着セリ歡迎門ハ凌雲ノ壯觀ヲ呈シ歡迎人士  
其數幾萬蓋シ其盛況ハ余等ヲシテ郷土ノ親愛熱誠又格別ノ感アラシム翌八日城南練兵場ニ於テ軍旗奉納式及  
招魂祭ヲ施行セリ全日復員下令アリ十三日聯隊一同第二公園ニ集合シ聯隊長告別ノ辭及將來ニ關スル訓示ア  
リ終テ一同陛下ノ萬歲ヲ三唱セリ翌十四日午前九時殘務員若干ヲ殘留セシメ他ハ全部解散歸郷セシメタリ

## 第二十一 北關ノ天候及衛生上ノ成績

北關ノ天候ハ之レヲ大別シテ晴雨ノ兩季トナス九月以降翌年五月ニ亘リ降雨甚タ少ナク殊ニ秋季ノ如キハ  
天氣晴朗ニシテ降雨稀ナリ冬季ニ至リ三寒四溫或ハ三嵐四晴ノ語アリ蓋シ三日間寒氣ヲ催フシテ風雪此時ニ  
アリ四日間溫暖ニシテ天氣快晴ナルヲ意味セリ大凡此言ニ合スル又奇ナラズヤ氣候激變以テ知ルベキナリ故  
ニ酷寒ノ候ト雖トモ尙ホ中春ノ如キヲ見ルコト少ナシトセズ三四月ノ候東北風アリ日々正午頃ニ起リ日没ニ  
至リテ止ムヲ常トス六月以降曇天多シ殊ニ七八月ニ至リ降雨連日而シテ雨量甚タ多ク河川氾濫平地蒼海トナ  
ルヲ常トセリ征露第二年ノ七月二十三日輪城以北第一次前進行動ヲ起シテ以來九月三日ニ至ル間ノ天候ハ如  
何ニ我軍ノ行動ヲ害シ我軍ニ多大ノ困難ヲ與ヘタルカ我軍呼テ露助雨ト稱ス茲ニ細記シ以テ諸氏カ再念ノ資  
ニ供スルヲ左ノ如シ

七月二十二日	雨	七月二十四日	雨	七月二十五日	強雨	七月二十六日	雨
ハ 二十七日	雨	ハ 二十八日	雨	ハ 二十九日	雨	ハ 三十日	雨

三十一日	晴
八月一日	曇
八月二日	曇
八月三日	晴
八月四日	曇
五日	曇
六日	晴
七日	晴
八日	晴
九日	晴
十日	晴
十一日	晴
十二日	晴
十三日	晴
十四日	晴
十五日	晴
十六日	曇
十七日	曇
十八日	強雨
十九日	強雨
二十日	雨
二十一日	雨
二十二日	雨
二十三日	雨
二十四日	雨
二十五日	雨
二十六日	雨
二十七日	雨
二十八日	雨
二十九日	曇
三十日	晴
三十一日	晴
九月一日	雨
九月二日	曇
九月三日	大雨
四日以後	晴

衛生上ニ至リテハ當大隊ノ成績頗ル良好殆ント他ニ比類ナキヲ信ス今之レヲ細説スル却テ繁雜ノ嫌アラシ  
ヲ恐レ單ニ其大要ヲ記センノミ京元行車ニ際シ多數ノ脚氣患者ヲ生シタリシト雖元山滯陣中殆ント快復シ  
テ後送セラレタルモノ纒カニ二三ニ過キズ爾來大隊頗ル強壯常ニ充實セル戰鬥力ヲ保持セリ殊ニ第一第三中  
隊ノ如キハ出征間一ノ病死者ヲ出サ、リキ是レ乃チ他ニ比類ナキヲ誇言スル所以ナリ蓋シ衛生部員ノ盡力ハ  
勿論所謂軍紀ト衛生トノ關係語ヲ代テ之レヲ言フンカ嚴肅ナル大隊ノ軍紀ハ衛生上各自ノ實行スベキ事項ノ  
實施確實ナリシニ因ルヲ信スルナリ (終リ)

後備歩兵  
第卅二聯隊  
**第一大隊連名簿**

# 後備歩兵第三十二聯隊本部

埼玉縣北葛飾郡豐野村大字藤塚一二七番地

聯隊長  
陸軍歩兵中佐

島村耕作

佐賀縣神埼郡蓮池村大字見嶋二一九番地

副官  
陸軍歩兵大尉

大野要

山形縣山形市旅籠町四五五番地

聯隊旗手  
陸軍歩兵少尉

村上貞郎

山形縣南村山郡本庄村大字檜下二十三番地

陸軍歩兵曹長

栗野吉次郎

山形縣北村山郡東根町大字東根甲三九一番地

陸軍歩兵軍曹

板垣新治

# 第一大隊本部

山形縣山形市旅籠町三三〇番地	大隊長	立花順治
岩手縣上閉伊郡遠野町横田二〇一番地	陸軍一等主計	菊池藏五郎
福嶋縣若松市材木町一九六番地	副官 陸軍步兵中尉	宮森久次
山形縣山形市五日町五六五番地	陸軍二等軍醫	佐々木春作
埼玉縣秩父郡大宮町大字大宮一六五番地	陸軍二等軍醫	新井道太郎
山形縣西置賜郡小國本町大字小國小坂町三九四番地	陸軍步兵曹長	今七三郎
山形縣西置賜郡長井村大字五十川五八番地	陸軍一等計手	色摩力彌
山形縣南置賜郡南原村石垣町二、七六六番地	陸軍步兵軍曹	長谷川貞藏
山形縣東置賜郡大塚村大字西大塚一、〇〇八番地	陸軍步兵軍曹	那須友次
山形縣北村山郡玉野村大字原田四七番地	陸軍步兵軍曹	高橋春吉
山形縣北村山郡楯岡町一、九九四番地	陸軍一等看護長	村岡長雄

## 第一中隊

山形縣東置賜郡高島町	中隊長	神保文治
全 北村山郡高崎村大字關山	中隊附	大江伊勢松
全 東田川郡十六合村大字主殿新田	全 曹長	加藤金藏
全 南置賜郡玉庭村大字玉庭	給 養掛	横野源次
全 東村山郡天童町	全 看護手	銚谷寅之助
全 飽海郡西荒瀬村大字酒井新田	喇 叭手	富樫兼藏
第一中隊 第一小隊	第一小隊長	淺黃善吉
山形縣西村山郡谷地町	第一分隊長	木内増次郎
全 北村山郡尾花澤町大字尾花澤	軍曹	鈴木運太郎
全 米澤市木場中町	上等兵	鈴木運太郎
全 東村山郡金井村大字志戸田	上等兵	阿部甚太郎
全 西村山郡西山村大字睦合	一等卒	飯田惣二郎
全 北村山郡大倉村大字櫛山	全	齋藤吉五郎
全 南村山郡堀田村大字上野	全	志鎌勝藏
全 東置賜郡伊佐澤村大字上伊佐澤	全	鈴木團次郎
全 最上郡萩野村大字泉田	全	川内運太郎
全 山形市拾物町	全	武田松治
全 東村山郡千歳村字長町	全	田苗房五郎
全 西村山郡高松村大字谷澤	全	奈良崎繁太郎





山形縣米澤市長町  
 全 北村山郡横山村大字田澤  
 全 東置賜郡上郷村大字川井  
 全 米澤市立町  
 全 西置賜郡小國本村大字小渡  
 全 最上郡新庄町大字飛田  
 全 西村山郡白岩町大字白岩  
 全 東田川郡長沼村大字下通ッ  
 秋田縣南秋田郡脇本村富永  
 全 雄勝郡辨天村森  
 山形縣最上郡新庄町五日町  
 山形縣西村山郡大谷村大字大沼  
 全 南置賜郡中津川村大字須郷  
 全 東置賜郡大塚村大字大塚  
 全 南置賜郡廣幡村大字小山田  
 全 北村山郡東郷村大字泉郷  
 全 最上郡西小國村大字大堀  
 全 南置賜郡六郷村大字一漆  
 全 東村山郡山邊町大字山邊  
 全 東置賜郡糠野目村大字糠野目  
 全 北村山郡袖崎村大字土生田

第五分隊長

一等卒 三條源次郎  
 全 關助 吉治郎  
 全 塚田重 吉治郎  
 全 山内儀 助  
 全 金藤儀 助  
 全 佐藤丑 助  
 全 水澤豐 治郎  
 全 高橋富太 治郎  
 全 鎌田直 治郎  
 全 渡部清兵衛 治郎  
 全 吉田豊 治郎  
 全 小林安太 助  
 全 渡邊芳 助  
 全 渡部徳五郎 助  
 全 竹田兵 助  
 全 菅原玉 治郎  
 全 八鍬房次郎 助  
 全 後藤治太郎 助  
 全 安達孫 助  
 全 相原勝 助  
 全 佐藤久太郎 助

山形縣西田川郡西郷村大字茨新田  
 全 西置賜郡鮎貝村大字高岡  
 全 北村山郡龜井田村大字豊田  
 全 最上郡古口村大字藏岡  
 青森縣中津輕郡船澤村大字中別所  
 山形縣南村山郡柏倉門傳村大字柏倉

第一中隊 第二小隊

小隊長 第六分隊長

宮城縣牡鹿郡渡波町根岸中町  
 山形縣西置賜郡蠶桑村大字山口  
 全 西置賜郡長井村大字五十川  
 全 飽海郡北俣村大字小平澤  
 全 西村山郡塞河江町大字嶋  
 全 最上郡及位村大字及位  
 全 北村山郡常盤村大字鶴子  
 全 北村山郡玉野村大字原田  
 全 最上郡東小國村大字本城  
 全 東村山郡干布村大字原町  
 全 山形市歩町  
 全 南村山郡中川村大字高野  
 全 北村山郡東郷村大字野川  
 全 米澤市山上裏町

上等兵 佐藤彦太郎  
 一等卒 樋口吉藏  
 全 土屋民治  
 全 青柳衆吉  
 全 高谷藤次郎  
 全 高橋仲治  
 二等卒 石川威則  
 植木勇藏  
 高橋貞治  
 久松西藏  
 五十嵐傳作  
 三上與四郎  
 大類十次郎  
 大山次郎  
 工藤榮吉  
 日野清吉  
 安達新次郎  
 堀江佐兵衛  
 瀧口林右衛門  
 田村又吉

(六)

(七)









山形縣北村山郡東郷村  
 全 東田川郡齊村本村  
 全 西田川郡大山町  
 全 北村山郡龜井田村  
 全 東田川郡本郷村  
 全 東置賜郡吉嶋村  
 全 東田川郡泉村  
 全 西村山郡七軒村  
 全 米澤市清水町  
 全 西田川郡京田村

全 山形縣東村山郡長崎町大字遠摩寺  
 全 千布村大字上萩野戸

全 東田川郡齊村大字勝福寺字中通  
 全 北村山郡東郷村大字萬善寺  
 全 東村山郡鈴川村大字上山家  
 全 西置賜郡北小國村大字小股  
 全 飽海郡南平田村大字宮宿  
 秋田縣雄勝郡西成瀬村萩袋

全 山形縣北村山郡大石田町大字大石田  
 山形縣山形市香澄町庚申堂  
 全 東置賜郡漆山村大字漆山  
 全 小松町大字上小松  
 全 南平田村大字飛鳥  
 全 米澤市元中馬口勢町  
 全 山形市香澄町字小鏡  
 秋田縣山本郡森岳村

全 宮城縣登米郡登米町  
 山形縣飽海郡中平田村大字千藏田字小堤

全 中隊長 附 中尉 特務曹長 猪股 忍  
 全 中隊 附 曹長 佐藤 錦吉  
 全 給養掛 曹長 水落 壽一  
 全 給養掛 曹長 黒金 泰次郎  
 全 看護手 曹長 吉川 拾吉  
 全 看護手 曹長 池内 菊藏  
 全 看護手 曹長 尾崎 彦七  
 全 一等卒 庄司 永戀  
 全 特務曹長 庄司 永戀  
 全 曹長 手塚 仁太郎  
 全 曹長 渡部 市太郎  
 全 曹長 佐藤 良吉  
 全 曹長 深瀬 圓五郎  
 全 曹長 太田 清作  
 全 上等兵 伊藤 猪吉  
 全 上等兵 村山 保男  
 全 上等兵 天類 永吉  
 全 上等兵 武田 國吉  
 全 上等兵 今野 清七

第二中隊 第一小隊

全 山形縣北村山郡大石田町大字大石田  
 山形縣山形市香澄町庚申堂  
 全 東置賜郡漆山村大字漆山  
 全 小松町大字上小松  
 全 南平田村大字飛鳥  
 全 米澤市元中馬口勢町  
 全 山形市香澄町字小鏡  
 秋田縣山本郡森岳村

全 宮城縣登米郡登米町  
 山形縣飽海郡中平田村大字千藏田字小堤

全 中隊長 附 中尉 特務曹長 猪股 忍  
 全 中隊 附 曹長 佐藤 錦吉  
 全 給養掛 曹長 水落 壽一  
 全 給養掛 曹長 黒金 泰次郎  
 全 看護手 曹長 吉川 拾吉  
 全 看護手 曹長 池内 菊藏  
 全 看護手 曹長 尾崎 彦七  
 全 一等卒 庄司 永戀  
 全 特務曹長 庄司 永戀  
 全 曹長 手塚 仁太郎  
 全 曹長 渡部 市太郎  
 全 曹長 佐藤 良吉  
 全 曹長 深瀬 圓五郎  
 全 曹長 太田 清作  
 全 上等兵 伊藤 猪吉  
 全 上等兵 村山 保男  
 全 上等兵 天類 永吉  
 全 上等兵 武田 國吉  
 全 上等兵 今野 清七





山形縣西田川郡京田村大字西京田  
 全 最上郡戶澤村大字名高  
 全 山形市小姓町  
 全 最上郡堀内村  
 全 東小國村大字富澤  
 全 飽海郡本楯村大字本楯字新田目  
 全 東田川郡渡前村大字荒俣字中田  
 全 東村山郡成生村大字今町  
 全 飽海郡南遊佐村大字宮内字本楯  
 全 遊佐村大字白井新田字二本松流  
 全 北村山郡龜井田村大字次年子  
 全 南村山郡本澤村大字長谷堂  
 全 西置賜郡南小國村大字小玉川  
 全 飽海郡南平田村大字山楯  
 全 東田川郡横山村大字横川字上小荒  
 全 西置賜郡荒砥町大字石那田  
 全 最上郡八向村大字外形  
 全 東小國村大字富澤  
 全 西置賜郡蠶桑村大字高玉  
 全 飽海郡觀音寺村大字塚淵字清瀬  
 全 南村山郡金井村大字松原

一等卒 渡邊 龜吉  
 荒川 伊三郎  
 坂田 定治  
 加藤 運作  
 岸 丑之助  
 石井 喜藏  
 加藤 鏡太郎  
 武田 文七  
 齋藤 文藏  
 高橋 徳次郎  
 遠藤 金次郎  
 古内 慶次郎  
 遠藤 金太郎  
 佐藤 猪之助  
 小玉 富次  
 保科 信平  
 叶内 石吉  
 阿部 勝藏  
 佐藤 良助  
 高橋 與之助  
 高橋 多七

二等卒 舟山 勇五郎  
 清和 藤助  
 高橋 松榮  
 五十嵐 作吉

哨 叭 手

山形縣飽海郡上郷村大字大川渡字五反割  
 全 西置賜郡南小國村大字泉岡  
 全 東田川郡黒川村大字黒川字漆原  
 全 南置賜郡上長井村大字古志  
 全 西田川郡福榮村大字關川

第二中隊 第二小隊

二等卒 佐藤 勝治  
 舟山 勇五郎  
 清和 藤助  
 高橋 松榮  
 五十嵐 作吉

秋田縣仙北郡六郷町  
 山形縣東置賜郡沖郷村大字露橋  
 全 山形市十日町  
 全 南村山郡  
 全 米澤市座頭町  
 全 東置賜郡上郷村大字下新田  
 全 沖郷村大字宮崎  
 全 西田川郡京田村大字中野京田  
 全 西村山郡寒河江町大字寒河江  
 全 南村山郡瀧山村大字八森  
 全 西田川郡鶴岡町大字日和町  
 全 大寶寺村大字道形字清水  
 全 東置賜郡宮内町大字宮内  
 全 南置賜郡廣幡村大字下小菅  
 全 南村山郡柏倉門傳村大字柏倉

第二小隊長 高橋 周藏  
 第一分隊長 佐藤 常助  
 第二分隊長 草刈 半十郎  
 第三分隊長 渡邊 勝夫  
 第四分隊長 竹田 義一  
 第五分隊長 高橋 源太郎  
 軍曹 嶋 賢考之助  
 上等兵 菅 原和助  
 全 菅 原和助  
 全 鈴木 梅藏  
 全 石澤 久次郎  
 全 森 敬三  
 全 梅木 香次郎  
 全 鈴木 龍藏  
 全 佐藤 勘次郎  
 一等卒 東海林 伊勢松

山形縣東田川郡黒川村大字松根字澤口  
 全 東置賜郡吉嶋村大字吉田  
 全 東田川郡立谷澤村大字肝煎  
 全 東置賜郡龜岡村大字龜岡  
 全 西田川郡温海村大字温海  
 全 鶴岡町八間町  
 全 上郷村大字中澤  
 全 北村山郡大富村大字藤助新田  
 全 玉野村大字上柳渡戸  
 全 南村山郡柏倉門傳村大字柏倉  
 全 南置賜郡玉庭村大字玉庭  
 全 米澤市花園村  
 全 市下花澤上ノ町  
 全 東置賜郡赤湯町大字赤湯  
 全 東村山郡天童町大字久野本  
 全 南置賜郡玉庭村大字大舟  
 全 米澤市水場仲町  
 全 西田川郡温海村大字温海  
 全 西村山郡寒河江町大字寒河江  
 秋田縣南秋田郡飯嶋村飯田  
 山形縣東田川郡築村大字高田麥字田中

一 等 卒  
 全 澁谷永三郎  
 全 須藤榮夫  
 全 佐藤由蔵  
 全 森田久米次郎  
 全 佐々木永太郎  
 全 富樫慎太郎  
 全 小玉松吉郎  
 全 武田與作  
 全 菅藤辨次郎  
 全 棚井彦一郎  
 全 佐藤銀治  
 全 三瓶熊太郎  
 全 佐藤新太郎  
 全 上 等 兵  
 全 一 等 卒  
 全 佐藤新太郎  
 全 矢萩茂吉  
 全 小方重太郎  
 全 南齊綱之助  
 全 佐藤彦吉  
 全 保坂清吉  
 全 池田定治

山形縣西村山郡溝延村大字溝延  
 全 西村山郡東五百川村大字和合  
 全 東田川郡齋村大字我老林字五里市  
 全 東田川郡山添村大字常盤木字日井  
 全 北村山郡楯岡町大字楯岡  
 全 東置賜郡上郷村大字下新田  
 全 沖郷村大字堀金  
 全 東田川郡本郷村大字平澤  
 全 東村山郡出羽村大字漆山  
 全 西田川郡鶴岡町大字十日町  
 全 大泉村大字上清水  
 全 東田川郡本郷村大字下名川字宮前  
 全 東置賜郡梨郷村大字梨郷  
 全 大字砂塚  
 全 最上郡安樂城村大字差首鍋  
 全 東田川郡十六合村大字新田目字北割  
 全 東置賜郡龜岡村大字龜岡  
 全 米澤市鹽町  
 全 山形市六日町  
 全 西置賜郡西根村大字勸進代

一 等 卒  
 全 高橋小助  
 全 鈴木庄治  
 全 門脇象治  
 全 金内辰吉  
 全 村田玉藏  
 全 齋藤三藏  
 全 金王禮之助  
 全 井上萬吉  
 全 上野茂三郎  
 全 森谷門藏  
 全 佐藤鐵次郎  
 全 瀨尾久吉  
 全 渡邊松太郎  
 全 高橋伊助  
 全 加藤長右衛門  
 全 高橋忠作  
 全 佐藤藤作  
 全 平重助  
 全 上村重松  
 全 城守末一郎  
 全 佐藤與太郎

喇叭手

山形縣飽海郡東平田村大字生石字矢流川  
 全 東田川郡押切村大字新田字豊萩  
 全 飽海郡東平田村大字關字村ノ内  
 全 東田川郡黄金村大字谷定字河原田  
 全 西置賜郡西根村大字勸進代  
 全 西田川郡田川村大字田川  
 全 飽海郡大澤村大字下青澤字若畑  
 全 西田川郡榮村大字本田  
 全 南村山郡瀧山村大字青田  
 全 飽海郡南遊佐村大字宮内字本楯  
 全 飛嶋村大字勝浦  
 全 那酒田町大字新片町  
 全 東村山郡大郷村大字中野  
 全 東田川郡山添村大字下山添字西川原  
 全 飽海郡南遊佐村大字宮内字六ッ新田  
 全 西遊佐村大字比子字服部奥野  
 全 東村山郡山邊町大字山邊  
 全 西田川郡鶴岡町大字大海町  
 全 飽海郡土郷村大字大川渡字五反割  
 全 最上郡新庄町大字五日町  
 全 東田川郡山添村大字九岡字鳥飼

一等卒 土田 榮太  
 上等兵 三浦 豊三  
 一等卒 小野 寺金  
 全 龜井 龜  
 全 平 龍  
 全 佐藤 錠  
 全 遠山 清  
 全 難波 伊勢  
 全 阿部 豊太  
 全 梅津 久太  
 全 澤口 松太  
 全 青塚 富  
 全 遠藤 伊須  
 全 富樫 悦  
 全 藤井 兵太  
 全 土門 榮次  
 全 新目 金次  
 全 澁谷 光  
 全 平向 三太  
 全 星川 金藏  
 全 小林 文治

北村山郡大高根村大字富並

第二中隊 第三小隊

山形縣飽海郡酒田町本町五丁目  
 全 東置賜郡小松町大字上小松  
 全 米澤市館山中横町  
 全 西置賜郡豊田村大字歌丸  
 全 東村山郡藏増村大字藏増  
 全 東置賜郡赤湯町大字赤湯  
 全 東村山郡大郷村大字中野  
 全 長崎町大字長崎  
 全 南置賜郡南原村大字芳泉町  
 全 東置賜郡沖郷村大字田中  
 全 最上郡新庄町金澤  
 全 西村山郡柴橋村大字中郷  
 全 東田川郡長沼村大字宮東  
 全 渡前町大字和名川字南田  
 全 北村山郡宮澤村大字丹生  
 全 西田川郡豊浦村大字三瀬  
 全 上郷村大字水澤  
 全 西村山郡西五百川村大字琴平  
 全 東田川郡東村大字田麥俣字七ッ瀧

全 高木 辰次郎  
 少尉 吉川 繁太郎  
 軍曹 大崎 外太郎  
 軍曹 窪村 幸吉  
 伍長 松岡 徳藏  
 軍曹 佐藤 卯右衛門  
 軍曹 齋藤 七郎  
 上等兵 伊藤 長太郎  
 全 高橋 萬太郎  
 全 坂田 平次郎  
 全 戸田 勘次郎  
 全 高橋 淺吉  
 全 村山 廣作  
 全 上田 彦四郎  
 全 金内 幸五郎  
 全 菅野 定助  
 全 竹内 潤司  
 全 長谷川 賢吉  
 全 阿部 忠太  
 全 澁谷 作次郎







山形縣最上郡角川村大字角川  
 全 西田川郡福榮村温海川丁  
 全 最上郡新庄町五日町  
 全 飽海郡酒田町上内町  
 山形縣東田川郡余目村字千河原  
 全 飽海郡藤岡村字豊岡  
 全 西村山郡谷地町  
 全 西村山郡七軒村字澤口  
 全 東田川郡山添村字荒尾  
 全 東田川郡大泉村字倉澤  
 全 西田川郡湯田川村字藤澤  
 全 西村山郡川土居村字沼山  
 全 東田川郡齋村字勝福寺  
 全 東田川郡藤嶋村字大渡  
 全 東田川郡大泉村字荒澤  
 全 南村山郡宮生村字上生居  
 全 西村山郡川土居村字入間  
 全 東田川郡長沼村字宮前  
 全 西村山郡本郷村字猶山  
 全 東村山郡成生村高木  
 山形縣東村山郡殿塚村字矢野目

中 類

第二分隊長  
 一等 安食 忠松 西東 佐藤 柿崎 三村 堀米 鈴木 鈴木 佐久 大瀧 五瀧 荒木 菅原 菅原 成澤 伊藤 波邊 須谷 須谷 高橋 野田 佐藤

二等 赤松 東清 藤定 藤之 崎岩 三村 堀米 鈴木 鈴木 佐久 大瀧 五瀧 荒木 菅原 菅原 成澤 伊藤 波邊 須谷 須谷 高橋 野田 佐藤

三等 赤松 東清 藤定 藤之 崎岩 三村 堀米 鈴木 鈴木 佐久 大瀧 五瀧 荒木 菅原 菅原 成澤 伊藤 波邊 須谷 須谷 高橋 野田 佐藤

第四分隊長  
 一等 大野 望月 阿部 加藤 井上 進藤 畑谷 大谷 阿部 佐藤 上野 大内 齋藤 柴田 藤原 藤原 伊藤 別部 桑名 今川 伊藤 齋藤

二等 大野 望月 阿部 加藤 井上 進藤 畑谷 大谷 阿部 佐藤 上野 大内 齋藤 柴田 藤原 藤原 伊藤 別部 桑名 今川 伊藤 齋藤

三等 大野 望月 阿部 加藤 井上 進藤 畑谷 大谷 阿部 佐藤 上野 大内 齋藤 柴田 藤原 藤原 伊藤 別部 桑名 今川 伊藤 齋藤

山形縣東置賜郡高畑町字高安  
 全 米澤市新丁  
 全 西村山郡西山村字入間  
 全 東田川郡十六合村字南野新田  
 全 東田川郡黃金村字流澤  
 全 東田川郡廣野村字廣野新田  
 全 西村山郡寒河江町字寒河江  
 全 飽海郡北平田村字漆會根  
 全 西村山郡西山村字間澤  
 全 東村山郡出羽村字漆山  
 全 東田川郡十六合村字吉方  
 全 東村山郡山邊町字山邊  
 全 東田川郡渡前村字渡前  
 全 最上郡金山村字金山  
 秋田縣南秋田郡天王村字天王  
 山形縣東置賜郡伊佐澤村字伊佐澤  
 全 西置賜郡長井村字五十川  
 全 米澤市東寺町  
 全 北村山郡尾花澤町字尾花澤  
 全 東置賜郡梨郷村字梨郷  
 全 東置賜郡梨郷村字梨郷

第四分隊長  
 一等 大野 望月 阿部 加藤 井上 進藤 畑谷 大谷 阿部 佐藤 上野 大内 齋藤 柴田 藤原 藤原 伊藤 別部 桑名 今川 伊藤 齋藤

二等 大野 望月 阿部 加藤 井上 進藤 畑谷 大谷 阿部 佐藤 上野 大内 齋藤 柴田 藤原 藤原 伊藤 別部 桑名 今川 伊藤 齋藤

三等 大野 望月 阿部 加藤 井上 進藤 畑谷 大谷 阿部 佐藤 上野 大内 齋藤 柴田 藤原 藤原 伊藤 別部 桑名 今川 伊藤 齋藤

(111)

(112)











山形縣北村山郡楯岡町  
 全 南村山郡本澤村長谷堂  
 全 飽海郡田澤村大字南北  
 全 觀音寺村常禪寺  
 全 東村山郡寺津村字寺津  
 全 飽海郡酒田町  
 全 南村山郡中川村權現堂  
 山形縣西村山郡醍醐村字慈恩寺  
 全 東置賜郡梨郷村大字宮崎  
 全 北村山郡西郷村字名取  
 全 西村山郡東五百川村字下芦澤  
 全 東田川郡大和村字澤新田  
 全 東村山郡中村字大蔵  
 全 郡津山村字山元  
 全 北村山郡常盤村字細野  
 全 西村山郡三泉村中河原  
 全 西置賜郡小國本村字田澤頭  
 全 東置賜郡伊佐澤村字向  
 全 東村山郡天童町字北目  
 全 西村山郡醍醐村慈恩寺  
 全 最上郡新庄町五山町

第十五分隊長

一等卒	高橋 慶助
全	横野 吉四郎
全	佐藤 健次郎
全	堀 磯治郎
二等卒	大友 伊佐美治
全	松平 正治
全	山田 總兵衛
軍曹	旭 儀助
上等兵	須藤 太三郎
全	村岡 定治郎
全	門崎 重三郎
全	和 脇子之助
全	山口 勇太郎
全	五 十嵐 春吉郎
全	安 達 又吉郎
全	赤 塚 金太郎
全	増 田 初太郎
全	高 倉 郡 治
全	猪 倉 國太郎
二等卒	古 瀬 清治

山形縣東田川郡泉村字野田  
 他隊ニ轉出セシモノ

山形縣山形市香澄町  
 全 飽海郡南平田村飛嶋  
 全 南村山郡本澤村字長谷堂  
 全 最上郡眞室川村字内町  
 全 東村山郡高瀬村字切畑  
 宮城縣宮城郡多賀城村字市川  
 全 米澤市御守町  
 全 西田川郡鶴岡町下肴町  
 全 西置賜郡益桑村字高玉  
 全 郡十王村  
 全 東村山郡山邊町字山邊  
 全 東置賜郡屋代村字柏木目  
 全 西村山郡醍醐村字慈恩寺  
 全 北村山郡大石田町字大石田  
 全 西村山郡白岩町字幸生  
 全 米澤市館山  
 疾病ノタメ内地後送セラレタル者  
 山形縣南村山郡堀田村字金瓶  
 全 西置賜郡置桑村字高玉子

一等卒	丸山 倉吉
大尉	矢嶋 謹爾
軍曹	水落 吾一郎
全	渡邊 勝夫
曹長	五十嵐 重義
伍長	奥山 孫助
上等兵	山 川 孫
全	佐藤 信夫
一等卒	佐藤 文作
全	佐藤 興助
全	橋本 熊五郎
全	鈴木 多一郎
全	中 川 清藏
全	大 友 善榮
全	二 戸 部 喜助
全	大 沼 幸市
特務曹長	會 田 裕
軍曹	佐 原 隆信
上等兵	小 口 要助



山形縣最上郡金山村大字安澤  
 全 北村山郡大石田町大字大石田  
 全 東根町大字東根  
 全 最上郡新庄町十日町  
 全 東置賜郡上郷村大字上新田  
 全 南村山郡瀧山村大字前田  
 山形縣南村山郡堀田村大字金瓶  
 全 東村山郡長崎町大字長崎  
 全 西村山郡西根村大字日田  
 全 醍醐村大字慈恩寺  
 全 東村山郡楯山村大字青柳  
 全 西村山郡西里村  
 全 南村山郡上山町大字長清水  
 全 南村山郡宮生村大字上生居  
 全 東村山郡天童町大字天童  
 全 西村山郡寒河江町大字嶋  
 全 南村山郡東澤村大字妙見寺  
 全 本澤村大字長谷堂  
 全 東置賜郡中郡村大字堀金  
 全 米澤市館山口町  
 全 南村山郡村木澤村大字村木澤

第二分隊長

一等卒 今井幸吉  
 全 二藤部喜助  
 全 齋藤仁次  
 全 加藤久米次  
 全 情野民世  
 全 渡邊清三郎  
 全 守谷富太郎  
 全 今野藤吉  
 全 鈴木己之七  
 全 菅術守  
 全 宗片源三郎  
 全 有川吉之助  
 全 伊藤勇藏  
 全 波邊倉治  
 全 山口重藏  
 全 佐藤勸次郎  
 全 黑木彦三郎  
 全 遠藤道三郎  
 全 五十嵐仲治  
 全 石井虎之助  
 全 二位關勘三郎

第三分隊長

山形縣西村山郡西山村大字水澤  
 全 南村山郡中川村大字權現堂  
 山形縣北村山郡楯岡町大字楯岡  
 全 西置賜郡東根村大字野藤  
 全 飽海郡酒田町下内町  
 全 北村山郡袖崎村大字五十澤  
 全 南村山郡金井村大字松原  
 全 東村山郡相模村大字根際  
 全 最上郡萩野村大字萩野  
 全 南村山郡東澤村大字小白川  
 全 南村山郡本澤村大字長谷堂  
 全 堀田村大字上野  
 全 西村山郡谷地町  
 全 東田川郡八榮里村大字田谷  
 全 東村山郡金井村大字志戸田  
 全 最上郡八向村大字本合海  
 全 北村山郡東根町大字神町  
 山形縣東村山郡鈴川村大字下山家  
 全 米澤市花澤町  
 全 北村山郡袖崎村大字五十澤  
 全 最上郡新庄町十日町

第四分隊長

二等卒 木村定次  
 全 一等卒 齋藤高次郎  
 全 上等兵 藤部喜助  
 全 上等兵 齋藤仁次  
 全 上等兵 加藤久米次  
 全 上等兵 情野民世  
 全 上等兵 渡邊清三郎  
 全 上等兵 守谷富太郎  
 全 上等兵 今野藤吉  
 全 上等兵 鈴木己之七  
 全 上等兵 菅術守  
 全 上等兵 宗片源三郎  
 全 上等兵 有川吉之助  
 全 上等兵 伊藤勇藏  
 全 上等兵 波邊倉治  
 全 上等兵 山口重藏  
 全 上等兵 佐藤勸次郎  
 全 上等兵 黑木彦三郎  
 全 上等兵 遠藤道三郎  
 全 上等兵 五十嵐仲治  
 全 上等兵 石井虎之助  
 全 上等兵 二位關勘三郎

(四六)

(四七)







山形縣米澤市中矢來町  
 全 西置賜郡長井村大字五十川  
 全 米澤市水場町  
 全 西置賜郡蓋桑村大字横田尻  
 全 東置賜郡上郷村大字竹井  
 全 東置賜郡上郷村大字川井  
 全 西置賜郡十王村  
 全 西村山郡左澤町  
 全 東田川郡新堀村大字局  
 山形縣北村山郡戸澤村大字大楨  
 全 東村山郡金井村大字志戸田  
 全 東置賜郡高畑町大字安久津  
 全 南置賜郡三澤村大字築澤  
 全 最上郡安樂城村大字大澤  
 全 飽海郡吹浦村大字吹浦  
 全 南置賜郡三澤村大字小野川  
 全 東置賜郡犬川村大字下小松  
 全 西村山郡七軒村大字勝生  
 全 郡三泉村  
 全 南村山郡飯塚村  
 全 北村山郡龜井田村大字次年子

第十分隊長

一等卒 宗津木作藏  
 全 上等兵 關新太郎  
 全 一等卒 江部吉藏  
 全 一等卒 小林慶七  
 全 一等卒 佐藤猪吉  
 全 二等卒 橋本豊四郎  
 全 曹長 公本忠二  
 全 上等兵 村上清三郎  
 全 曹長 高橋新重郎  
 全 上等兵 高橋平馬  
 全 一等卒 高梨六郎  
 全 一等卒 鈴木惣六郎  
 全 一等卒 佐藤勘助  
 全 一等卒 高橋廣治  
 全 一等卒 加藤鶴彌  
 全 一等卒 鷲尾喜久  
 全 一等卒 小林幸七  
 全 一等卒 後藤徳四郎  
 全 一等卒 武田今治  
 全 一等卒 森石

山形縣西田川郡鶴岡町七軒町  
 全 東村山郡金井村大字志戸田  
 全 東田川郡廣野村大字福岡  
 全 郡大和村大字小山新田

第四中隊 第三小隊

第三小隊長 第十一分隊長

山形縣西田川郡鶴岡町  
 全 北村山郡横山村大字横山  
 全 最上郡大藏村大字南山  
 全 東田川郡東村大字東岩本  
 全 米澤市元細工町  
 全 東田川郡黒川村大字田代  
 全 郡大和村大字古關字古館  
 全 西田川郡鶴岡町大海町  
 全 東田川郡常萬村大字余目新田  
 全 郡大泉村大字大鳥  
 全 西田川郡大山町大字枋屋  
 全 郡鶴岡町五日町  
 全 飽海郡酒田町十王堂町  
 全 東田川郡泉村大字玉川  
 全 西村山郡谷地町  
 全 東田川郡泉村大字大口

一等卒 石川治吉  
 二等卒 鈴木吉太郎  
 全 一等卒 五十嵐馬之助  
 全 一等卒 太田正茂治  
 少尉 磯部房治  
 伍長 高橋定吉  
 上等兵 柿崎善治  
 一等卒 渡部安五郎  
 全 一等卒 花岡徳太郎  
 全 一等卒 菅原與三郎  
 全 一等卒 工藤藤三郎  
 全 一等卒 石川鐵三郎  
 全 一等卒 佐々木熊吉  
 全 一等卒 工藤藤熊之助  
 全 一等卒 齋藤藤藏  
 全 一等卒 山口伊代吉  
 全 二等卒 前田善作  
 全 二等卒 半澤榮三  
 全 一等卒 齋藤清五郎  
 全 一等卒 齋藤巳之助

山形縣最上郡戶澤村大字津谷

全 北村山郡桶岡町大字桶岡

全 米澤市大字福田

全 飽海郡鶴渡川原村大字橫道町

全 東田川郡十六合村大字千本杉

全 郡全村大字桑田

全 郡黑川村

全 飽海郡鶴渡川原村大字橫道

全 郡酒田町桶屋町

全 西田川郡念珠關村大字早田

全 飽海郡南平田村大字山谷

全 郡高瀬村大字富山

全 南村山郡堀田村大字金瓶

全 西村山郡三泉村

全 東村山郡大曾根村大字下反田

全 東置賜郡大塚村大字西大塚

全 山形縣西村山郡本郷村大字顏好

全 東置賜郡高畑町大字安久津

全 東田川郡橫山村大字橫山

全 最上郡及位村大字及位

全 飽海郡南平田村大字飛鳥

第十二分隊長

軍曹

上等兵

全

一等卒

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

二等卒

全

軍曹

上等兵

一等卒

全

全

(三四)

高橋義樹

伊豆倉常治

岩井寅之助

齊藤象吉

石川西藏

佐藤郷吉

澁谷彦治

柏谷源七

西村仁吉

本間佐吉

齋藤安治

佐藤菊吉

太澤梅五郎

太泉房治

鎌田源吉

高橋清藏

清野源播之丞

嶋津仁助

齋藤豊吉

佐藤輝吉

石井新五郎

山形縣山形市材木町

全 飽海郡鶴渡川原村大字橫道

全 郡西平田村大字大町

全 東田川郡余目村大字余目

全 西村山郡川土居村大字吉川

全 西田川郡西郷村大字茨新田

全 最上郡戶澤村大字岩清水

全 南村山郡西郷村大字小穴

全 東村山郡楯山村大字青柳

全 西村山郡本郷村大字本郷

全 東田川郡十六合村大字前田野目

山形縣米澤市大町

全 西田川郡鶴岡町與方町

全 飽海郡上郷村大字山寺

全 山形市十日町

全 飽海郡内郷村大字小見

全 郡東平田村大字生石

全 東田川郡余目村大字榎木

全 東置賜郡和田村大字元和田

新潟縣新潟市湊町通一ノ町

山形縣東置賜郡宮内町

第十四分隊長

軍曹

上等兵

全

一等卒

全

全

全

全

上等兵

一等卒

船山喜幸治

目下部富吉

武田好吉

佐藤茂助

今野孫太郎

山科與惣藏

佐藤金藏

伊藤安吉

佐藤木直吉

岡部長松

丸山彦菊

全

一上等兵

遠藤忠太郎

井關清之助

後藤國吉

小關長吉

長洋初藏

庄司庄作

渡邊幸吉

桃井文夫

齋藤季太郎

齋藤文太郎

齋藤季太郎

齋藤文太郎

齋藤季太郎

齋藤文太郎

山形縣西田川郡鶴岡町七日町  
 全 飽海郡松嶺町字北町  
 全 西村山郡白岩町大字田代  
 全 西田川郡鶴岡町上看町  
 全 郡全 町鳥居町  
 全 北村山郡袖崎村大字土生田  
 山形縣西田川郡鶴岡町  
 全 北村山郡楯岡町楯岡  
 全 飽海郡本楯村大字本楯  
 全 東田川郡齋村大字我老林  
 全 郡廣瀨村大字高寺  
 全 郡本郷村大字砂川  
 全 郡廣瀨村大字馬渡ノ内下  
 全 西田川郡袖浦村大字坂野邊新田  
 全 東田川郡黃金村大字青龍寺  
 全 西田川郡湯田川村大字藤澤  
 全 郡鶴岡町八坂町  
 全 北村山郡楯岡町大字楯岡  
 全 西村山郡柴橋村大字平鹽  
 全 東村山郡千布村大字下萩ノ戸  
 全 西田川郡大寶寺村大字大寶寺

第十五分隊長

一等卒 中村儀三郎  
 上等兵 伊藤欽哉  
 一等卒 佐藤治平  
 二等卒 林藤專吉  
 全 富樫信吉  
 全 小室甚三郎  
 全 土屋久平  
 上等兵 大石幸七  
 一等卒 佐藤與太  
 全 佐藤今朝  
 全 渡邊榮助  
 全 伊藤長吉  
 全 菅原象吉  
 全 星川倉治  
 全 茂木儀三郎  
 全 加藤太郎  
 上等兵 荒井傳右衛門  
 一等卒 森谷徳平  
 二等卒 奥山榮吉  
 全 工藤政治  
 全 齋藤貞治

(五六)

山形縣東村山郡明治村大字澁江  
 出 者

宮城縣仙臺市跡付町  
 山形縣南村山郡本庄村  
 全 最上郡金山村  
 全 西村山郡西根村  
 全 飽海郡南平田村  
 全 西田川郡稻生村  
 全 南村山郡榎澤村  
 全 東置賜郡中川村  
 全 最上郡西小國村  
 全 安樂城村  
 全 全 村  
 全 南村山郡西郷村  
 全 最上郡新庄町  
 全 北村山郡大石田町  
 全 東村山郡天童町  
 全 米澤市鍛砲町  
 全 東田川郡狩川村  
 全 西置賜郡平野村  
 全 飽海郡吹浦村

二等卒 小林平助  
 大尉 佐藤源治  
 軍曹 栗野音次郎  
 全 大場長吉  
 全 高橋市三郎  
 上等兵 佐藤徳次郎  
 全 中田政久  
 全 林朝七郎  
 全 石川清次郎  
 一等卒 伊藤藤林  
 全 柿崎竹次郎  
 全 佐藤幸吉  
 全 山口西之助  
 全 湧井源助  
 全 荒井長松  
 全 佐藤和吉  
 全 舟本三郎  
 全 今野吉治  
 全 大場榮治  
 全 鳴瀬直吉

(五七)

病氣後送

山形縣西田川郡鶴岡町	全	少尉	正田重
東村山郡天童町	全	上等兵	早川幸助
飽海郡酒田町	全	一等卒	萬谷要作
西田川郡鶴岡町	全	一等卒	佐藤善吉
飽海郡東平田村	全	全	常世勇治
北村山郡戸澤村	全	全	土門九郎
全 郡宮澤村	全	全	荒木吉太郎
米澤市成嶋町	全	全	早坂仁三郎
南村山郡柏倉門傳村	全	全	長谷川留次郎
東田川郡大泉村	全	全	鈴木太三郎
全 郡廣瀬村	全	全	岡部安吉
西村山郡七軒村	全	全	鈴木金右衛門
最上郡西小國村	全	全	伊藤藤作
病死者			
山形縣飽海郡内郷村	全	上等兵	阿部藤市
全 北村山郡富本村	全	一等卒	井上治
全 郡袖崎村	全	全	阿相幸太
全 西田川郡大寶寺村	全	全	庄司兵藏
全 東村山郡楯山村	全	全	石山林作

山形縣西田川郡西郷村	全	一等卒	阿部傳吉
全 東田川郡東村	全	二等卒	澁谷徳太郎
山形縣東置賜郡上郷村	全	一等卒	長澤仁作
兵役免除者			